宮古島市文化財調査報告書第 22 集

保里遺跡

－街路事業市場通り線（西仲宗根工区）埋蔵文化財発掘調査報告書－

2019（令和元）年 7 月

宮古島市教育委員会

巻頭図版１　発掘調査全景

巻頭図版２　西地区土坑１出土貝類遺体出土状況

巻頭図版３　西地区土坑１出土遺物

例　　言

1．本報告書は、沖縄県宮古土木事務所の実施する街路事業市場通り線（西仲宗根工区）に伴う保里遺跡の発掘調査成果をまとめた報告書である。
保里遺跡の発掘調査は、宮古島市平良字東仲宗根 323、323-1 ～、392、393 で実施を行い、発掘調査の総面積数は 400 ㎡である。

2．発掘調査は、宮古島市教育委員会が直営し、以下の業務については委託契約を締結し実施した。
保里遺跡発掘調査支援業務：公益社団法人 シルバー人材センター
保里遺跡表土掘削委託業務：合同会社 新隆
保里遺跡資料整理委託業務：株式会社アーキジオパシフィック支店
保里遺跡出土の植物遺体分析業務：株式会社 文化財サービス沖縄営業所
保里遺跡出土年代測定業務：パリノ・サーヴェイ株式会社 沖縄支店
保里遺跡発掘調査報告書印刷製本業務：シモジ印刷

3．発掘調査時には、沖縄県立博物館・美術館山本正昭主任学芸員、宮古島市史編さん委員長下地和宏氏に現場指導をいただきました。記して感謝申し上げます。

4．本報告書は、久貝弥嗣が中心となり、森谷大介ほかの協力を得て編集を行った。報告書の執筆は、下記のとおりである。
第 5 章　保里遺跡出土の植物遺体分析報告　株式会社文化財サービス沖縄営業所 千田寛之
第 6 章　保里遺跡放射性炭素年代測定　パリノ・サーヴェイ株式会社
上記以外の部分については久貝弥嗣が執筆した。

5．本報告書内の貝類同定については、『日本近海産貝類図鑑』（奥谷喬司編 2000 年）を使用した。
また、土層観察、遺物観察における釉、胎土の色調については、『新版標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局編）を使用した。

6．発掘調査で得られた遺物、実測図、写真等の資料は、宮古島市教育委員会にて保管している。

目　　次

序
例言

第１章　経過 …… 1
　第１節　調査経過 …… 1
　第２節　調査体制 …… 2

第２章　保里遺跡の位置と環境 …… 5
　第１節　保里遺跡の位置 …… 5
　第２節　歴史的環境と周辺の文化財 …… 6
　第３節　伝承 …… 8
　第４節　これまでの発掘調査 …… 8

第３章　発掘調査の方法 …… 11
　第１節　調査区の設定 …… 11
　第２節　発掘調査の経過 …… 11

第４章　調査報告 …… 13
　第１節　基本層序 …… 13
　第２節　西地区 …… 13
　第３節　東地区 …… 55
　第４節　貝類遺体 …… 69

第５章　保里遺跡出土の植物遺体分析報告 …… 80

第６章　保里遺跡放射性炭素年代測定 …… 85

第７章　まとめ …… 87

報告書抄録

第１章　経　過

第１節　調査経過

１．平成 29 年度

平成 29 年

・9 月 25 日付宮教生第 1292 号にて、市場通り線街路事業区内における保里遺跡の試掘調査について、宮古島市教育委員会教育長宮國博から宮古土木事務所所長平良雅彦へ依頼を行う。試掘調査地は、宮古島市平良字東仲宗根 323-5、323-1 とする。

・上記依頼について 9 月 28 日付宮土第 1027 号にて承諾をえる。

・10 月 25 日付宮教生第 1483 号にて試掘調査の結果について報告を行う。試掘調査の結果、宮古島市平良字東仲宗根 323-5、323-1 及び 393、392 の土地においてグスク時代の遺物包含層が確認された。
本試掘調査の結果をうけ、同地内における発掘調査へむけて宮古島市教育委員会と宮古土木事務所の間で協議を開始した。

２．平成 30 年度

平成 30 年

・宮古土木事務所所長平良勝彦より、7 月 3 日付宮土 491 号にて、文化財保護法第 94 条第 1 項に基づく埋蔵文化財発掘の通知が行われる。

・宮古島市教育委員会では、上記通知を 7 月 5 日付宮教生第 696 号で、沖縄県教育委員会へ進達する。

・上記通知に対する回答が、7 月 18 日付教文第 629 号にて沖縄県教育委員会より宮古島市教育員会へ送付される。宮古島市教育委員会では、同回答を 7 月 23 付宮教生第 794 号にて宮古土木事務所へ伝達を行う。

・7 月 31 日付で､街路事業市場通り線(西仲宗根工区)埋蔵文化財に関する協定書を沖縄県知事翁長雄志と、宮古島市長下地敏彦の間で締結する。同協定書内で、発掘調査の対象面積を 400 ㎡とし、記録保存のためたの発掘調査を行うこととし、平成 31 年 3 月 15 日までに発掘作業を完了し、報告書作成については平成 31 年 6 月 30 日までに完了することとした。

・宮古土木事務所所長平良勝一より、宮古島市長下地敏彦へ 8 月 2 日付宮土第 740 号にて街路事業市場通り線（西仲宗根工区）埋蔵文化財発掘に関する業務委託 (H30) への照会が行われる。同照会に対し、8 月 6 日付宮教生第 904 号にて業務委託を受託することを回答する。

・8 月 20 日に、沖縄県宮古土木事務所長平良勝一と、宮古島市教育委員会教育長宮國博の間で「街路事業市場通り線（西仲宗根工区）埋蔵文化財発掘に関する業務委託の契約が締結される。

・8 月 21 日付で、宮古島市教育委員会は上記委託業務について着手する（宮教生第 1032 号)。

平成 31 年

・施行業者確保に時間を要したことから、履行期間を 3 月 15 日から 3 月 29 日に工期の改定を 3 月 15 日に行う。

・宮古土木事務所長平良勝一より宮古島市教育委員会教育長宮國博へ 3 月 13 日付宮土第 1932 号にて街路事業市場通り線（西仲宗根工区）埋蔵文化財発掘に関する業務委託 (H30-2) への照会が行われる。同照会に対し、3 月 19 日付宮教生第 2212 号にて業務委託を受託することを回答する。

・3 月 28 日付宮教生第 2296 号にて街路事業市場通り線（西仲宗根工区）埋蔵文化財発掘に関する業務委託 (H30) の業務完了通知を行う。

・3 月 25 日付で街路事業市場通り線（西仲宗根工区）埋蔵文化財発掘に関する業務委託（H30-2）契約を沖縄県宮古土木事務所長平良勝一と宮古島市教育員会教育長宮國博の間で締結する。
・上記委託業務について、3 月 26 日付で着手する（宮教生第 2283 号）

３．平成 31 年度（令和元年度）

令和元年

・6 月 6 日付で、街路事業市場通り線（西仲宗根工区）埋蔵文化財に関する協定書について、資料整理に伴う図化作業の増加に伴い、報告書作成業務の完了を平成 31 年 6 月 30 日から、平成 31 年 7 月 15 日に期間を変更する。あわせて、6 月 26 日付で街路事業市場通り線（西仲宗根工区）埋蔵文化財発掘に関する業務委託（H30-2）の履行期限を令和 1 年 6 月 28 日から、令和 1 年 7 月 31 日に改定した。
・7 月 31 日に、同委託業務の完了通知を行う。

第 2 節　調査体制

本調査を行った平成 30 年度、平成 31 年度（令和元年度）の調査体制は以下のとおりである。

事業主体　宮古島市教育委員会　教育長　宮國　博
事業所管　生涯学習部　部　長　　下地 明
事業総括　生涯学習部次長兼生涯学習振興課長　　久貝 喜一
　　生涯学習振興課課長補佐兼文化財係長　砂辺 和正
事業事務　生涯学習振興課　文化財係　主　　事　久貝 春陽
調査担当　生涯学習振興課　文化財係　主任主事　久貝 弥嗣
調査補助　生涯学習振興課　文化財係　嘱　　託　川満 広紀、菱木 勇一
　　臨時職員　山口 直美、森谷大介、長濱重光
発掘調査支援業務　公益社団法人 宮古島市シルバー人材センター
表土掘削委託業務　合同会社新隆
資料整理支援業務　株式会社アーキジオパシフィック支店
植物遺体分析委託業務　株式会社文化財サービス沖縄営業所
放射性炭素年代測定委託業務　パリノ・サーヴェイ株式会社沖縄支店

写真１　試掘調査作業風景

写真２　試掘調査で確認された遺構検出状況

写真３　重機掘削作業風景

写真４　発掘作業風景（西地区）

写真５　発掘作業風景（西地区）

写真 6　発掘作業風景（西地区）

写真 7　発掘作業風景（東地区）

写真 8　現場説明会風景

写真 9　調査完了後（埋め戻し状況・南より）

写真 10　遺物整合作業風景

写真 11　遺物実測作業風景

写真 12　復元作業風景

写真 13　トレース作業風景

第２章　保里遺跡の位置と環境

第１節　保里遺跡の位置

保里遺跡は、宮古島市平良字西仲宗根に所在するグスク時代の遺跡である。現在の平良庁舎から北へ約 460m の場所に位置し、国指定史跡「大和井」からは南東に 160m、旧海岸線へは真西へ約 440m の標高約 10 ～ 12m に立地する。遺跡一帯は、琉球石灰岩を基盤にもち、土層は赤土層（マージ層）を母材としている。

今回発掘調査地に隣接する県営西仲宗根団地の建設に際しても、平成 10 年に宮古島市教育委員会によって発掘調査が実施されている。同調査では、炉跡や土坑などの遺構が検出され、出土遺物としては 14 ～ 16 世紀代の中国産陶磁器や土器が出土しているほか、骨製の鏃や貝類遺体、動物遺体の出土も確認されている。このことから、保里遺跡の範囲は、保里御嶽の周辺部に関わらず、広範囲に遺跡が広がっていることがわかる。後述する歴史史料や伝承においては、保里御嶽一帯が 14 世紀代の保里天太の居城であったとされるが、年代的には、その後の 15 ～ 16 世紀代の遺物の出土が圧倒的であり、集落遺跡としての様相も認められる。保里遺跡の周辺には、東に白明井遺跡、西に外間遺跡や住屋遺跡が点在しており、当該地一帯がグスク時代における集落の形成範囲を考える上でも重要な場所であるといえる。

第１図　発掘調査地位置図

第 2 節　歴史的環境と周辺の文化財

１．歴史的環境

保里遺跡は、14 世紀頃の人物とされる保里天太の居城とされる保里城に関連する遺跡と考えられる。ここでは、保里遺跡周辺の文化財について概略する。

２．周辺の文化財

(1) フサティ御嶽（写真 14）

フサティ御嶽は、14 世紀頃の人で西仲宗根の首長保里天太の居城跡と伝えられている。

慶世村恒任著『宮古史伝』では「保里天太の城は後の糸数城である」と云い、糸数城は「西仲宗根保里御嶽（又は不佐手御嶽とも書く）一帯の高地上に築かれた後方は数丈の城壁がそそり立って遠望され、前方一帯は人家を見下ろして実に宏壮な所であったと云う。今は荒廃してわずかに糸数大按司を祀る保里御嶽付近に遺跡を止めるのみとなった。」と記している。

稲村賢敷著『宮古島庶民史』では、保里天太の孫の「糸数按司の時代になって保里の西隣に糸数城を築いた。」「糸数城は元西仲宗根番所の跡で現在の西仲青年会場より西に連なる高台である。遺跡としては何も残っていないが、旧城内に按司御嶽という所があり、糸数按司と彼の倭人を祭るといわれる。」と記されている。

祭神：フサティティダ、トゥビトゥイ主、水ヌ神

主な祭祀：1 月正月ウガン、ンツ（道）開け願い、三月ダミ（1 年の最初の願い）、6 月ユーダミニガイ

（以上、『平良市史第 9 巻資料編 7（御嶽編））』より引用）

(2) 白明井ー遺跡

県営西仲団地裏の畑地一帯に形成された遺跡である。標高 11m でほぼ平坦地で東西 200m ×南北 100m の広範囲にわったて土器片、輸入陶磁器が散布している。全体的に東側にゆるやかに傾斜している。福木林が若干残されており元屋敷が存在していたことを思わせる。周辺は宅地化が進行し、畑地部分をとりまくようになっている。

(3) 外間遺跡（写真 15）

外間遺跡は、『雍正旧記』に記された外間御嶽にあたる遺跡です。『雍正旧記』によれば、外間御嶽は、根間大按司、根間津野かわら、目黒盛、真角与那盤、普佐盛の 5 人を葬った墓であったとされ、普佐盛の弟である根間伊嘉利がその墓所を御嶽として仕立てたとされている。仲宗根豊見親は、普佐盛の孫にあたる。2010 年の道路拡幅工事によって発掘調査が実施されている。

(4) 糸数大按司御嶽（写真 16）

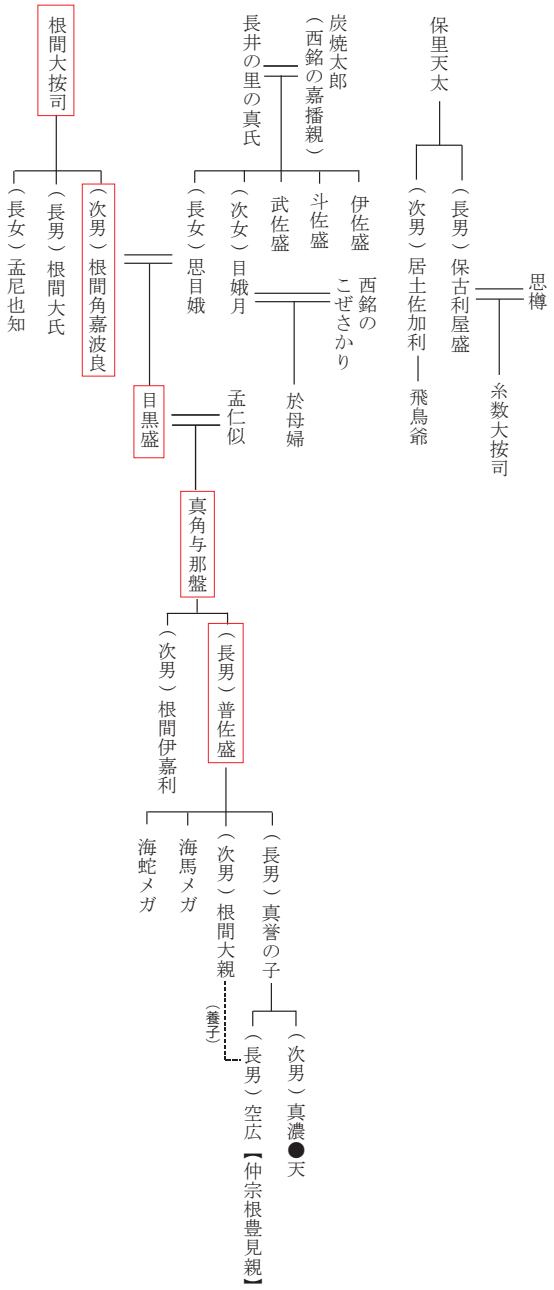
旧平良市立北保育所敷地南西側の一角にあり、幅 2 メートル四方・高さ 60 センチほどのコンクリートで囲われた拝所である。イビは南東に向かい香炉が置かれている。糸数大按司を祀る拝所と伝えられている。糸数大按司は 14 世紀頃の人で西仲宗根あたりの首長として勢力のあった保里天太の孫、成人するにつれて長者の風をそなえ後に糸数大按司と名のり一帯に勢力を張ったと伝えられている。北保育所敷地は元西仲宗根青年会場の跡地でまたかつて西仲宗根村番所が置かれていた跡地でもある。『宮古島庶民史』によれば、「糸数城は元西仲宗根番所の跡で現在の西仲青年会場より西に連なる高台である。遺跡としては何も残っていないが、旧城内に按司御嶽という所があり糸数大按司と起目箭殿を討った倭人を祭るといわれている」と記されている。また北保育所の西のかどには、かつての小さなミャーカ跡があったと伝えられている。糸数大按司のミャーカといわれる。

糸数大按司は保里天太の嫡子保久利盛と思樽の間に生まれ、成人するにつれ長者の風格があり、後に糸数大按司と名のり一帯に威を振るった。西銘按司の娘婿となった真徳金（後の飛鳥爺）は従弟にあたり、入婿となって西銘のぬしとなり威風を遠近に振っていた。その頃西銘（今の増原の北海岸一帯）の西方に石原城があり、思千代按司が支配していた。思千代按司は領地を理不尽に荒らす飛鳥爺を恐れ、東仲宗根白川場に住む無双の弓取起目箭殿に牛五頭を献じ、飛鳥爺を白川浜で弓のわざくらべをさせ謀殺させた。これを憤った糸数大按司は豊穣の礼にこと寄せて思千代按司、獅子真良父子をまねいて、帰路、殺させた。さらに起目箭殿も弓の競射にかこつけて城内で倭人に殺させた。思千代按司の夫人は狩俣村小真良はい豊見親という人の妹で、この豊見親は呪詛の達人でありかつ占の名人であった。夫の仇を打つように頼まれた小真良はいが占ったところ、糸数大按司の命数はまさに尽きようとしていた。糸数大按司が小真良はいに使いをたて、家の造営にあたり棟梁として指図するように頼むと小真良はいは、今日が命期となっている家ではなく棺をさし上げようといい、ソノリ嶺で草の葉をひとつとり呪術をかけて飛ばした。その葉は一匹のアブとなり糸数城に飛んでいった。廁にあってカンザシで耳を掻いていた糸数大按司のひじをアブが刺したので、これを殺そうとひじを強く打ったときに耳穴を刺しつらぬき糸数大按司はそのまま息絶えてしまったと伝えられている。

糸数大按司を祀るとされるこの拝所についてはなお不明の点が多い。西仲宗根の神を祀る「トクルガン」と説明する人もいる。また「糸数大按司は保里御嶽に祀られている」と『宮古史伝』では述べている。

(5) シロカネシロトノ御嶽（写真 17）

県営西仲宗根団地手前の県道 83 号線を北へ約 20 メートル進んだ左手、道路のすぐ横に立地する。白明門のほとりに住んでいた長者・白川根志瑠殿を祀る御嶽と伝えられている。御嶽に接する東側一帯はかつて深い窪地をなしていたが近年埋め立てられその跡をとどめなくなった。御嶽には、ガジュマル、クロツグなどが生い茂り、気根を垂れたガジュマルの根元に階段状（三段）のコンクリート製のイビが北向きに置かれている。拝所の左側には神域を囲った石積みの跡が残っている。御嶽入口は北西側にあり北側から隣接する民家の畑を横ぎって出入している。以前は保里嶺を結ぶ西側道路からも御嶽入口への畦道があったということである。白川根志瑠殿は、争乱の世を鎮め宮古を統一したと伝えられている目黒盛豊見親の婦人「もにやち」の父親としてその名を旧説にとどめている。周辺に住んでいる人々が祭りを行っている。



第 2 図　保里天太と歴史人物の相関図

第 3 節　伝承

『宮古島記事士次』には、保里城を居城として保里天太に関する次のような伝承が記されている。

保里天太は、14 世紀頃の人で、西仲宗根の保里御嶽一帯を居城としていたとされる。保里天太には二人の男子があって、嫡子を保久利屋盛、二男を居士佐加利といった。保久利屋盛は機転がきかず無能で、居士佐加利は器量人に勝り武術の達人であったから家督を一郡の首長にふさわしい二男居士佐加利に継がせようと保里天太は常々話をしていた。

保久利屋盛が、これを知って長男として生まれながら弟の下に立つことは末代までの恥だと悔しがり、弟を亡き者にしようと村人たちを言葉巧みに誘って策を図るが、くじさかりは兄の陰謀をいち早く知って城外へ逃れ箕隅へ隠れ住んだ。家督を継いだ保久利屋盛は父の保里天太を城から追い出してしまった。保里天太はくじさかりの居る箕隅へ訪ねていくが、老齢と悲嘆から途中でたおれ、そのまま息絶えてしまったと、伝えられている。

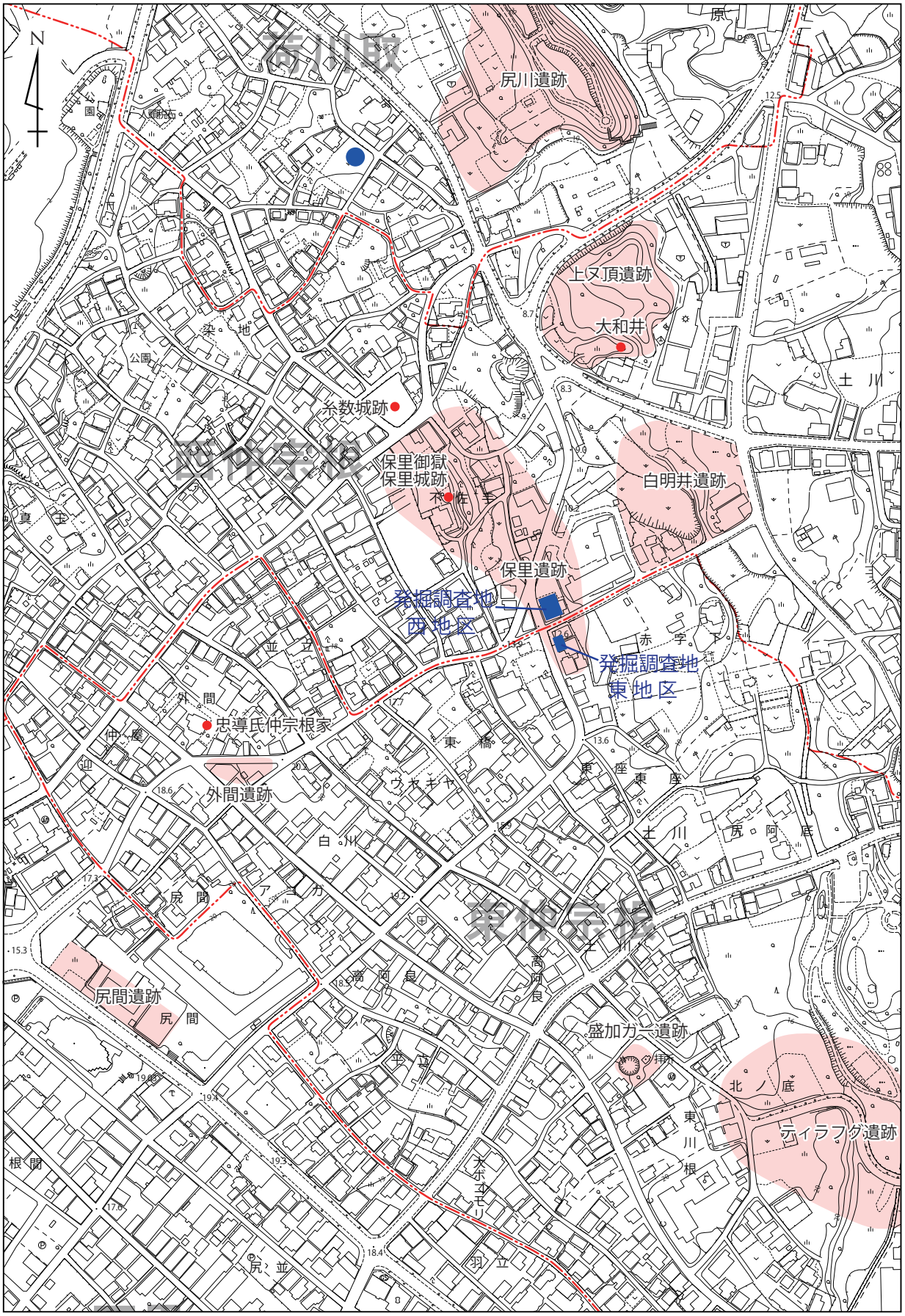
第 4 節　これまでの発掘調査

保里遺跡は、1998（平成 10）年 10 月 19 日から 11 月 6 日にかけて県営西仲宗根団地の建設に伴い記録保存のための緊急発掘調査が行われており、同調査の概報報告書が 1999（平成 11）年 3 月に発行されている（平良市教育委員会 1999）。本調査は、今回の調査地に隣接しており、同調査の概要について整理を行う。

発掘調査は、旧県立厚生園跡地の 300 ㎡の範囲で行われている。検出された遺構は、土坑が 11 基、礫敷土坑が 2 基である。この内、1 号礫敷土坑から白磁ビロースクタイプⅡ類や、中国産褐釉陶器の鉢とともに住屋式土器が共伴しており、14 世紀～ 15 世紀前半に位置づけている。出土遺物の点から 11 号土坑も同時期の遺構と考えられている。一方で、2 号礫敷土坑からは、宮古式Ⅱ類土器（元島系）しか出土しておらず、1 号礫敷土坑と遺物の組成に違いがみられ、2 号轢敷土坑が後出し、時期差があることを示している。また、8 号土坑からはウスカワマイマイが多量に検出されており、食料として扱われた感があると報告されているが、今回の発掘調査でも類似した遺構が確認されている。その他 2 基の炉跡も検出されている。

出土遺物としては、土器が主体をなしており、中でも住屋遺跡の第 3 層より出土した胎土中にサンゴの粉末（砂粒）の含有が少なく、赤色粒子も含まず、玉縁口縁の中国産褐釉陶器を模倣したと考えられる住屋式土器の年代観について、前述した年代差をもった遺構からの出土状況から元島系の土器に先行することが確認されている。その他の遺物としては、中国産の青磁、青花、黒釉陶器（天目）、褐釉陶器、沖縄産陶器、軽石を利用した砥石、鉄製の角釘や刀子、骨製品、動物遺体の出土が報告されている。骨製品では、宮古島市内では出土例の少ない骨製鏃のほか、扁平に加工した製品、骨針状の製品が出土している。遺跡の主体年代は、15 世紀～ 16 世紀前半代と想定されるが、一部 14 世紀中頃までにさかのぼる資料も出土している。

平良市教育委員会 1999 年『保里遺跡（旧県立厚生園跡地）- 県営団地建設に伴う緊急発掘調査が概報 -』平良市埋蔵文化財調査報告書第 3 集



第３図　保里遺跡と周辺遺跡位置図

写真 14 フサティ御嶽

写真 15 大正期の外間御嶽

写真 16 糸数大按司御嶽

写真 17 シロカネシロトノ御嶽

写真 18　1998 年時の発掘調査（完掘状況）

第３章　発掘調査の方法

第１節　調査区設定

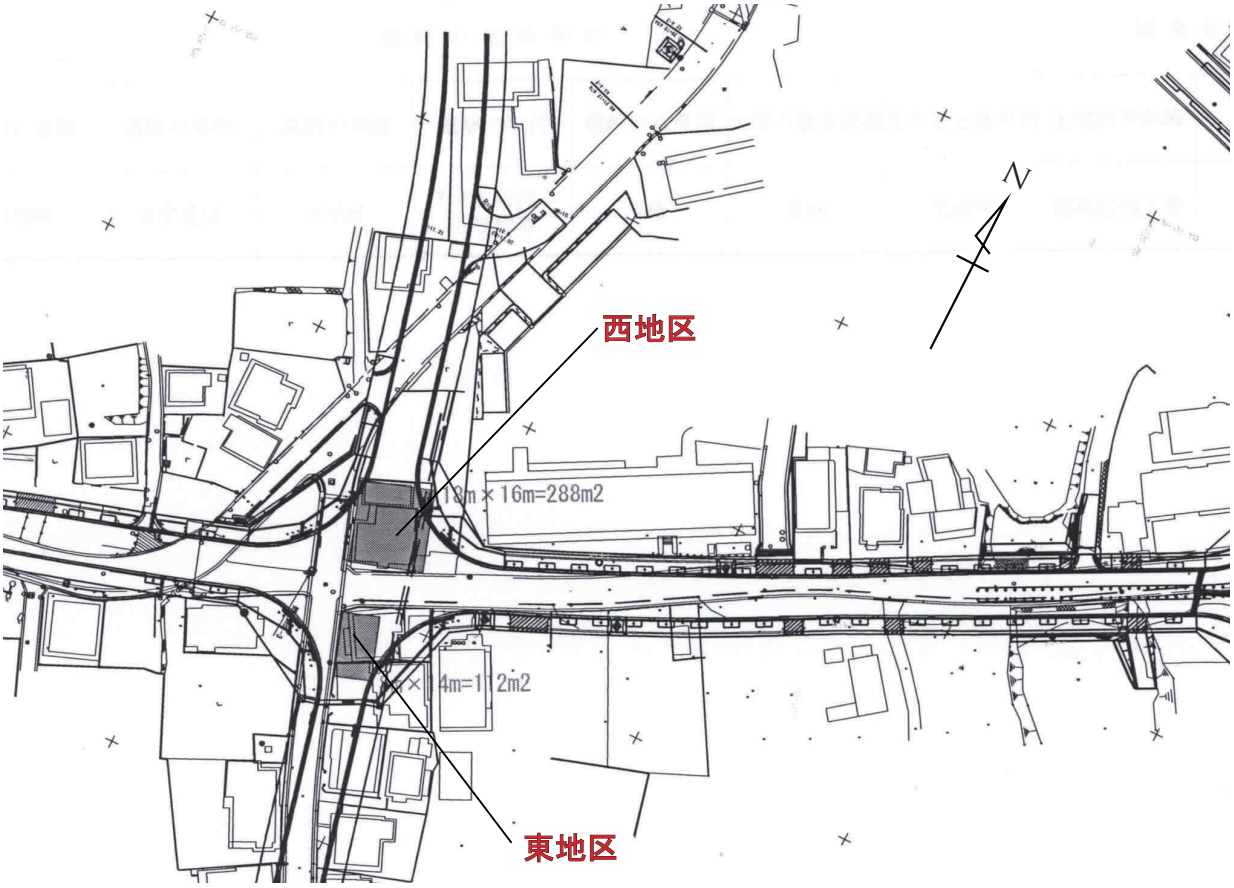
発掘調査は、街路事業の工事予定地内において、事前の試掘調査で遺跡の包蔵地が確認された場所で調査区を設けた。調査区は県道を挟んで西地区と、東地区と名称を設けた。調査面積は西地区が 288 ㎡、東地区が 112 ㎡である。

第２節　発掘調査の経過

発掘調査は、まず西、東の両地区とも重機で攪乱層の掘削・除去作業を行った。概ね西地区において約 60 ㎝の深度まで攪乱が及び、部分的には建物の基礎跡が 1.5m 以上にまでおよんでいた。重機掘削を行った後、西地区より手掘りによる発掘作業を開始した。西地区の発掘作業が完了したのちに、東地区へと作業を移行し、発掘作業をすすめた。発掘調査期間中の、2018 年 12 月 23 日には、現座説明会を開催し、約 30 人の市民の参加があった。発掘調査完了後は、埋め戻し作業を行い、現場での調査を完了した。

この発掘作業と並行して、資料整理作業も行った。資料整理作業は、株式会社アーキジオと委託契約を締結して実施した。発掘調査の資料は当初の見込みよりも多量の遺物が出土したこら、2019 年度にも業務を引き継いで実施した。その他、西地区の土坑 1 は、発掘作業の段階で廃棄遺構の可能性が考えられたため、土壌の採集作業を行い、調査終了後にフローテーション作業を実施、回収された植物遺体については、株式会社文化財サービスと委託契約を締結し、その分析業務を行った。植物遺体の分析作業で回収された穀物については 2 点を放射性炭素年代測定を実施した。

写真 19 調査地近景（右側の重機で掘削を行っているのが東地区で、道路をはさんで西地区）



第 4 図 工事範囲と調査区位置図

写真 20 発掘調査地の空撮

第４章　調査報告

第１節　基本層序

東地区と西地区は、攪乱層に相違は認められるものの、基本層序としては、地表面下に第Ⅰ層として建物跡や造成工事に伴う攪乱層があり、その下にグスク時代の方含層である第Ⅱ層が確認できる。しかしながら、第Ⅱ層は攪乱の影響を大きく受けているため、堆積の層厚が 10 ㎝前後の部分もあり、非常に薄い。第Ⅱ層下には、自然堆積層であるマージ層を第Ⅲ層とし、その下には基盤の琉球石灰岩が位置する。

第２節　西地区

１．遺構

西地区は、調査区内にコンクリート建物の基礎跡がひろがり撹乱を受けている範囲も大きいものの、17 基の土坑（SK）と 227 のピットが確認されている。土坑 1 からは多量の土器や陶磁器、貝類遺体、動物遺体の出土が確認されており、外間遺跡などで確認されている、グスク時代の廃棄場としての機能を有する大型土坑に類例する遺構と考えられる。同様の土坑 10、12 も規模は小さいものの同様の遺構として捉えられる。ピットについては、調査区一帯で密に検出される。これらのピット群の一部は一直線上に並ぶものも確認できるが、明確なプランを確定することができなかった。しかしながら、これだけのピットが集中して検出されることや大型土坑に近い点からも居住域もしくはその周辺部であったことが推察される。17 基の土坑については、土坑内から出土する遺物の年代観からグスク時代と近世琉球期の 2 つの時代に分類されるが、遺物の出土が少なく年代不詳のものもみられる。

(1) グスク時代の遺構

土坑 1、5、12 の 3 つの土坑内からは、15 世紀～ 16 世紀代の中国産陶磁器が一定量出土しており、同時代の遺構と考えられる。

①土坑 1　土坑 1 は、調査区の南東側で確認された大型の土坑で、調査区外の南東へさらにのびる。確認できる土坑の残存長は、長辺部 7.1m、短辺部は 3.2m の楕円形の形態をしており、深度は 0.6m の鍋底型の断面形をなす。土坑 1 からは、多量の土器、貝類遺体、動物遺体が出土しており、フローテーション作業でえられた植物遺体の分析では、オオムギ、アワ、コムギ、イネなどの穀物も検出されてお（第 5 章参照）、オオムギ、イネの放射性炭素年代測定では 15 世紀後半から 17 世紀前半の年代値を示している（第 6 章参照）。また、貝類遺体ではチョウセンサザエを主体とした貝類遺体がまとまった状態で出土していることからも、土坑 1 は食料残滓などを廃棄した土坑であることが考えられる。年代観としては、青磁や青花の出土状況から 15 世紀後半から 16 世紀前半頃までに位置づけられる。覆土は単一層からなり、Hue10YR3/4 暗褐シルトでしまりはよく、炭化物を含んでいる。

②土坑 5　土坑 5 は、コンクリート基礎跡の攪乱を受けるとともに、土坑 16 や土坑 4 との切り合いにより、東側の一部が残されているのみである。残存する平面形態は隅丸方形の様相を呈し、土坑の深度は約 0.6m で鍋底型の断面形態をなしている。覆土は単一層で、Hue10YR4/4 褐色シルトを呈し、拳大の石灰岩礫を少量含む。また、炭化物も少量含んでいる。青磁や青花、浅鉢形の土器などが出土しており、グスク時代の遺構として捉えられが、その機能について判然としない。

③土坑 10　土坑 10 は、土坑 1 の西側で検出され、長径 2.7m、短径 1.5m の楕円形の平面形態を呈する。土坑の深さは 0.9m で、覆土は 4 層に細分される。各層からは 15 ～ 16 世紀代の中国産陶磁器に加え土器も多く出土するほか、貝類や動物骨も出土することから、規格は小さいものの土坑 1 と同様に廃棄場としての機能を有していたことが推察される。

1 層：Hue7.5YR4/3 褐シルト。10 ㎝程の石灰岩礫を少量含み、炭化物も僅かにみられる。

2 層：Hue10YR4/6 褐シルトを主体に Hue7.5YR3/4 暗褐シルトが混在する。10 ～ 20 ㎝大の石灰岩礫を多く含む。炭化物もみられる。本層からの遺物の出土量が最も多い。

3 層：Hue10YR3/4 暗褐シルト。10 ㎝大の石灰岩礫を含み、炭化物も多くみられる。

4 層：Hue7.5YR4/6 褐色シルトと Hue7.5YR3/4 暗褐シルトが混在する。石灰岩礫を僅かに含む。

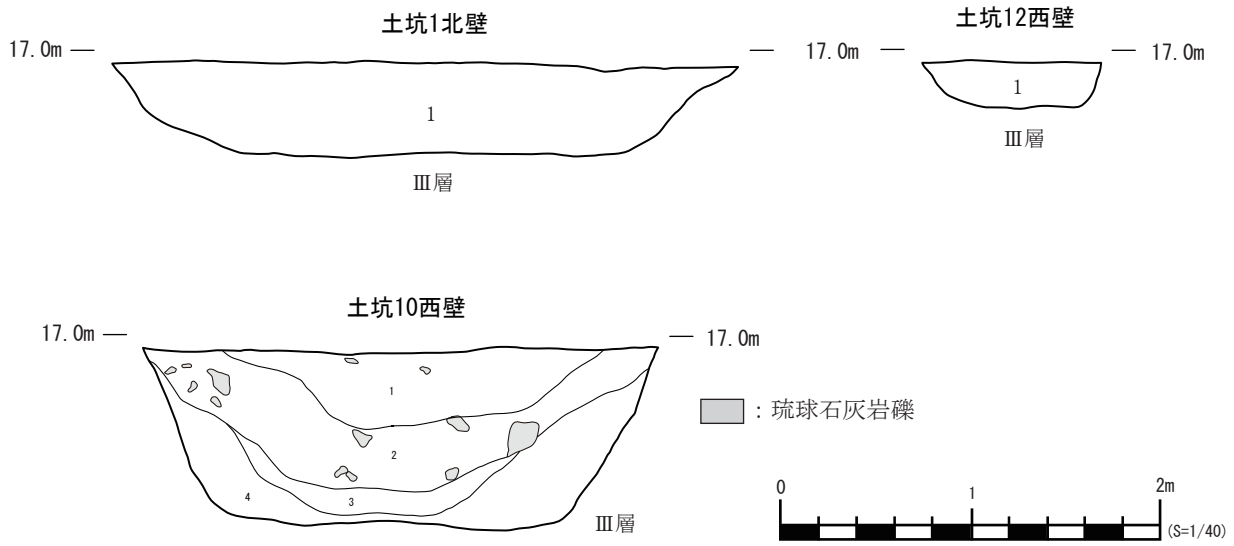
④土坑 12　土坑 12 は、調査区の南端部で検出され、長辺が約 2.2m、最大幅は 1.3m の筍型の平面形態を呈している。土坑の深度は約 0.5m で鍋底型の形態をなしている。覆土は単一層からなり、石灰岩礫を僅かに含んでいる。

⑤ピット群　ピットは総数 227 が検出されており、調査区内の西側の方にややまとまって検出されている。ピット内からの遺物の出土状況については第 4 表のとおりであるが、土器を主体としながらも、近世琉球期の遺物はほぼ含まないことから概ねグスク時代の遺構として捉えることができる。多数のピットの一部には、直線的にピットが配列している箇所もみられるが、建物跡を示す明確なプランについては特定することができなかった。宮古島市内の 15 ～ 16 世紀の掘立柱建物跡の柱穴内には、柱を固定するために琉球石灰岩をまわしいれているが、西地区のピット群におおいては、そのようなピットは確認できなかった。しかし、ピット内でも比較的規模の大きな、ピット 41、64、78 内からは、ピット内に石灰岩礫を集積したものもみられれた。

写真 21 西地区遺構検出状況

図版１　西地区完掘状況及び遺構配置図

第 5 図　西地区遺構平面図 (S=1/100)



第 6 図　土坑 1、10、12 断面図 (S=1/40)

(2) 近世琉球期の遺構

グスク時代の遺物も出土するものの、総じて沖縄産陶器や本土産磁器などの遺物が主体をなす遺構を近世琉球期の遺構とした。

①土坑 2　土坑 2 は､直径約 1.5m の円形の平面形態をなし､深度約 0.6m の鍋底型の断面形態を呈する。土坑内からは 1 ㎝大の炭化物を多量に検出されており、単一層の覆土からなる。土坑内からは、沖縄産施釉陶器の他､土製の焜炉が出土している。土製焜炉については､第 19 図 (図版 15) に図化したが､その他にも別個体のものと思われる土製品 (図版 2) が出土しており、複数個の土製焜炉が含まれているものと考えられる。土製焜炉が出土するのは、この土坑 2 のみである。

③土坑 3　土坑 3 は、直径が約 1.4m の略円形の平面形態をなす。土坑の深度は約 0.5m で鍋底型の断面形態を呈する。覆土は単一層からなり、0.2 ～ 0.3m の琉球石灰岩礫を含む。

③土坑 4　土坑 4 は、コンクリートの基礎の堀込の影響を受け、北側部分の一部が残されているのみであり､土坑 5 を切り込んでいる。残存する平面形態は､隅丸の長方形を呈しており､深さは 0.6m で､単一層からなる。遺物の出土量は全体的に少なく、沖縄産陶器の出土割合がやや高い。

④土坑 14 ～ 17　これらの土坑については、沖縄産陶器の出土から当該期に属する遺構と考えらるが、総じて遺物の出土量が少ない。また、遺構の深度自体も浅いことから、ピットに比してやや大型の堀込をもった遺構として捉えられ、その性質等については判然としない。

(3) 年代の不確定な遺構

グスク時代の遺物も出土するものの、総じて沖縄産陶器や本土産磁器などの遺物が主体をなす遺構を近世琉球期の遺構とした。

①土坑 6　土坑 6 は調査区の西壁にかかるように検出された遺構であり、一部はコンクリートの基礎により影響を受けるものの、西側へさらにのびている。確認された遺構の平面形態から略円形の平面形態を呈すると考えられる。土坑の深度は 0.6m ほどで、単一層からなる。土器が胴部片を中心に 130 点以上の出土がみられるが、年代の指標となる陶磁器類の出土が少ない。

②土坑 7 ～ 9、11、13　これらの土坑については、遺物の出土量自体が少なく、年代的な位置づけを行うことが困難であり、遺構として性質についても判然としない。

2. 遺物

西地区における遺物の出土状況は第１～４表のとおりである。遺物の分類は、これまでの宮古島市内の報告書と同様に『外間遺跡』（宮古島市教育員会 2010 年）の分類基準を用いて分類を行った。

(1) **土器**　土器は、本遺跡においてもっとも出土量が多い遺物である。土器は、口縁部において、壺、鉢、浅鉢の３種に器種分類を行い、胴部については外間遺跡の分類基準に基づきⅠ、Ⅱ、Ⅳ、Ⅴ類の胎土に分類を行った。口縁部においては、鍋形は確認されなかったものの、Ⅰ類の胎土は 19 点の出土があり、野城式土器も少量ながら含まれている。器種をみると、壺形が主体をなし、鉢形、浅鉢形と続く。口縁部において分類可能な３つの器種の割合では、Ⅱ層で壺が 63%、鉢が 23%、浅鉢が 14%であり、土坑１で壺が 67%、鉢が 22%、浅鉢が 11%となり、ほぼ同程度の割合を示している。

(2) **白磁**　白磁は出土量が少ないものの、今帰仁タイプとされる甫口窯産や、ビロースクⅠ類、Ⅱ類の閩清窯産の白磁が出土している。また、景徳鎮系の皿の出土も出土している。

(3) **青磁**　青磁は、碗、皿、盤の３つの器種が出土する。最も出土量の多い碗は、細蓮弁文、無文直口、無文外反が主体をなし、蓮弁文、弦文、玉縁口縁、雷文、波状文、幅広高台の種類が出土している。皿は、外反皿、稜花皿の出土が多く、口折や直口皿が出土し、盤は出土量が少なく、口縁部が鍔縁、直口の資料が出土する。相対的に 15 中頃～ 16 世紀代の資料が主体をなし、少量であるが、白磁の浦口窯、閩清窯と同時期の弦文碗や蓮弁文碗が出土している。

(4) **青花**　青花は、まず産地として景徳鎮窯系と福建・広東系に大別した。景徳鎮窯系では、碗、皿の器種が出土し、碗では外面に豹皮文や波濤文などが施文され、底部が蓮子型をなすものが出土する。景徳鎮窯系の青花は概ね 15 世紀中頃～ 16 世紀代に位置づけられる。福建・広東系は、碗のみに限られ、外面に鉄絵で施文する資料等が確認され、概ね近世期に位置づけられる。

(5) **中国産褐釉陶器**　中国産褐釉陶器は、壺と鉢の器種が出土する。壺はⅠａ類とした頸部を有し、口縁形態が、略「フ」の字状を呈し、灰色の素地を有するタイプと、Ⅱａ類とした無頸で口縁部が玉縁状に肥厚するタイプと、口縁部が方形を呈するタイプの３種に分類される。鉢は、口縁部が「て」の字状を呈するものである。

(6) **その他の中国産陶磁器**　出土量は少量であるが、黒釉陶器（天目）、紫砂急須、瑠璃釉の杯、赤絵の胴部や底部資料の中国産陶磁器が出土する。

(7) **タイ産褐釉陶器**　口縁部が強く屈曲し、やや厚手の壺形の器種が２点出土する。

(8) **肥前磁器**　碗の器種のみが出土する。いずれも小破片であるが、外面に荒磯文を施文する資料などが出土する。

(9) **肥前陶器**　擂鉢と碗の２器種が出土する。擂鉢は、口縁部を内側におり返して肥厚させ、外面に鉄釉を施す。碗は、外面に銅緑釉を施釉する内野山窯の資料である。

(10) **沖縄産施釉陶器**　器種としては碗が主体をなし、酒器が僅かに出土するのみである。碗は大きく灰釉碗と白化粧に透明釉を施す２種に分類し集計を行い、灰釉碗の出土の割合が高く、外面に鉄絵で施文する資料もみられる。。

(11) **沖縄産無釉陶器**　口縁部では壺、擂鉢の２種が確認され、底部で瓶も確認できる。口縁部資料にみる出土量は沖縄産施釉陶器に比しても少ない。擂鉢は、破片資料が多いが、口縁部が逆Ｌ字型にし内面に弧状に櫛目を密に施す赤褐色の擂鉢や、頸部を一段三角状に尖らせ逆Ｌ字型の口縁部をなし内面に 1.5 ㎝ほどの間隔で前者よりも細かい櫛目を施すオリーブ褐色の擂鉢などが出土する。

写真 22　西地区土坑 1 貝類遺体集中出土状況①

写真 23　西地区土坑 1 貝類遺体集中出土状況②

写真 24　西地区土坑 1 遺物出土状況①

写真 25　西地区土坑 1 遺物出土状況②

写真 26　西地区土坑 1 遺物出土状況③

写真 27　西地区カメ骨出土状況

写真 28　西地区土坑 1 完掘状況

写真 29　西地区土坑 2 掘り下げ状況

写真 30　西地区土坑 2 遺物出土状況（沖縄産施釉陶器碗）

写真 31　西地区土坑 2 遺物出土状況（沖縄産施釉陶器酒器）

写真 32　西地区土坑 12 掘り下げ状況

写真 33　西地区土坑 12 西壁

(12) 土製焜炉　集計表には記載できていないが、土製焜炉が土坑 2 より出土している（第 19 図・図版 15)。土製焜炉は、平面形態の長辺が約 34 ㎝、最大幅約 19 ㎝を測る略楕円形を呈する。調理具の支え部は破損しているものの、3 つの突起の基端部が確認できる。燃焼部の内側の高さは約 7.5 ㎝で、薪置き部の側面は燃焼部から一段低くつくられており、内部の高さは約 2 ㎝である。外底は、僅かに上げ底状につくられ、器面は丁寧に調整され滑らかであり、調理具の支え部の上面は平坦をなす。器面は全体的に Hue7.5Y6/2 灰オリーブを呈し、3 ～ 10 ㎜の石灰岩礫を含んでいる。

また、土坑 2 からは、全体的な形状が不明であるが、図版 2 に示した土製品の一部が出土している。弧状の形態をなすものや (1)、平坦面を有するもの (2・4) などがあり、いずれも土製焜炉と同様に石灰岩礫が混入していることから、別の土製焜炉の一部であるものと推察される。

図版 2　土製焜炉の一部と考えられる土製品

第１表　西地区遺物集計表①

種類	器種	部位	分類	Ⅱ層	土坑1	土坑2	土坑3	土坑4	土坑5	土坑6	土坑7	土坑8	土坑9	土坑10	土坑11	土坑13	土坑14	土坑15	土坑16	土坑17	土坑18	総計
土器	壺	口縁部		112	68	1		1	14									1	1		5	203
	鉢	口縁部		42	23		1		11													77
	浅鉢	口縁部		25	11				13	1											1	51
	不明	口縁部		100	50		1		26											1	2	180
	胴部		Ⅰ類	17	2																	19
			Ⅱ類	36	43				1													80
			Ⅳ類	13473	5213	64	102	21	2349	127	6	9	12			2	16	23	23	5		21445
			Ⅵ類	16	40	2																58
			有孔耳	3	3		1			1												8
	底部			171	70		3		36	3					1			2				286
白磁	碗	口縁部	閩清窯（ビロースクⅡ）	2					2													4
	碗	底部	浦口窯	1																		1
	皿	口縁～底部	景徳鎮系		1																	1
	胴部			5			1		3					1								10
青磁	碗	口縁部	蓮弁文	4	2																	6
			弦文	1																		1
			細蓮弁文	30	7				4					2								43
			玉縁	11	4				3					2								20
			無文直口	32	26				13	1				6								78
			無文外反	19	7				1												2	29
			雷文	4	1				2					2								9
			波状文		1																	1
			幅広高台	1										1								2
			不明		8	1	2		2												2	15
		底部		11	6				1												1	19
		底部	幅広高台	1										2								3
	皿	口縁部	口折		2																	2
			外反	3	1																	4
			稜花	3	4				2													9
		口縁～底部	稜花		1																	1
		口縁～底部	直口	1																		1
		底部		1	1																	2
	盤	口縁部	鍔縁	3	1																	4
			直口		1																	1
		底部			1									2								3
	胴部		細蓮弁文	20	10			1	5					1				1			2	40
			外面有文	2	5																	7
			内面有文	13	5		1		4													23
			雷文		1																	1
			内外面無文	205	104	1	2		51	2				18			2		1		14	400

第２表　西地区遺物集計表②

種類	器種	部位	分類	Ⅱ層	土坑1	土坑2	土坑3	土坑4	土坑5	土坑6	土坑7	土坑8	土坑9	土坑10	土坑11	土坑13	土坑14	土坑15	土坑16	土坑17	土坑18	総計
青花	碗	口縁部	①景徳鎮系・直口	15	10									2								27
		口縁～底径	①景徳鎮系		1																	1
		口縁部	福建・広東（鉄絵）											1								1
		口縁部	福建・広東	29		3											1					33
		口縁部	不明			1		2	7					1								11
		底部	景徳鎮系・蓮子形		1																	1
		底部	景徳鎮系・蓮子形外	2					3					3								8
		底部	その他	3																		3
	胴部			155	19			2	17			1		3							2	199
	皿	口縁部	①景徳鎮系	4	1				3													8
		口縁部	その他						2													2
		底部	景徳鎮系	3						1											1	5
	小碗			4										1								5
中国産褐釉陶器	壺	口縁部	Ⅰa	2	1																	3
			Ⅱa	4	4				1													9
			方形	2	1																	3
			小型		3									1								4
	鉢	口縁部	ての字形	1																		1
	底部			9	4				2					1								16
	胴部			418		4	7	1	91			1		45	2		2	1		1	28	601
タイ産褐釉	壺	口縁部		1	1																	2
黒釉		胴部		1																		1
紫砂急須	急須	底部	宜興窯	1																		1
瑠璃釉	杯	底部		1																		1
赤絵	不明	胴部							2													2
	不明	底部		1																		1
肥前磁器	碗	口縁部		9			1		1					1								12
	擂鉢	口縁部		2		1	1															4
	擂鉢	胴部		9																		9
		胴部		8			2							1				1			1	9
肥前陶器	碗	口縁部	銅緑釉	5																		5
	碗	底部	銅緑釉	1																		1
	不明	胴部	銅緑釉	8					1													9

第３表　西地区遺物集計表③

種類	器種	部位	分類	Ⅱ層	土坑1	土坑2	土坑3	土坑4	土坑5	土坑6	土坑7	土坑8	土坑9	土坑10	土坑11	土坑13	土坑14	土坑15	土坑16	土坑17	土坑18	総計
沖縄産施釉	碗	口縁部	灰釉	38		2		1	1		1								1		2	46
	碗	口縁部	白化粧	15		1		1			1								2		1	21
	碗	口～底	白化粧			2																2
	碗	口縁部	その他						6										1			7
	不明	口縁部												1			2					3
	碗	底部	白化粧	4	2						1											7
	碗	底部	その他	2					1													3
	碗	底部	灰釉	8																		8
	酒器					1																1
	胴部		灰釉	61		4		1	5	1									3		9	84
	胴部			151		1	2	6	5								4		3		10	182
	蓋			3																		3
沖縄産無釉	壺	口縁部		3														1				4
	擂鉢	口縁部		6		1			1													8
	擂鉢	口縁～底部		1																		1
	不明	口縁部				1			1												1	3
	蓋				1																	1
	胴部			286	4	21	2	2	21	2	1		4	2			1	4	6		12	368
	胴部(擂鉢)			25				1	4		1							1			3	35
	壺	底部		4			2															6
	擂鉢			3			1															4
	瓶			1																		1
	不明						1														1	2
陶質土器						2											4					6
円盤状製品				8	2																	10
煙管	雁首		土製	1																		1
簪			耳かき型	1																		1
瓦						1		2	24				5		1							33
石材						1																

第４表　西地区遺物集計表④

種類	器種	部位	分類	9	10	13	29	37	38の	41	64	66	70	76	80	86	87	94	95	98	100	103	105	109	113	116	119	125	140	143	148	154	163	167	182	183	184	186	188	189	194	197	198	204	208	219	計
土器	壺	口縁部									1																					3					1										1	6
	鉢	口縁部																											1																	1	2
	浅鉢	口縁部								1																																					1
	不明	口縁部																														2															2
	胴部		Ⅰ類																						1							1															2
			Ⅱ類	2																																											2
			Ⅳ類	40	18	3	1	1	6	34	36	3	1		1		1	2	10	1	3	1	8	1			3	3	2	4	3	100	1	1		9		3	3	7	3	1	6	6	21	41	388
			Ⅵ類											2												1														2							5
			有孔耳	1	1	2																																									4
	底部									3	2				1																	3														2	11
白磁	碗	口縁部	閩清窯（ビロースクⅠ）																						1																						1
	碗	口縁部	閩清窯（ビロースクⅡ）				1												1																												2
	皿	口縁～底部	景徳鎮系																																									1			1
	皿	口縁部	その他								1																																				1
	胴部								2																																						2
青磁	碗	口縁部	蓮弁文																																												0
			無文直口																													1															1
			無文外反											1																						1										1	3
	盤	口縁部	鍔縁													1																															1
	（細蓮弁文）													1																																3	4
	（外面有文）																																												1		1
	（内面有文）																																											1			1
	（内外面無文）								1					1																		3		1						1		1				2	10
青花		口縁部	不明																																										1		1
	胴部																										1																				1
	皿	口縁部	その他																																											1	1
中褐	胴部			6		1				2	1					1				2					7			1			1	5		1	1	1				1				1			32
沖縄産施釉	碗	口縁部	灰釉									1																																			1
	胴部																						1								1													1			3
沖縄産無釉	擂鉢	口縁部																													1																1
	不明	口縁部																													1																1
陶質土器																																							1								1
瓦						9																																		2							11
貝錘										1																																					1
貝匙				1																																											1

第５表　西地区遺物観察表①

図版・図番号	No.	遺物種	器種	部位	観察	出土地・層
第８図・図版４	1	土器	壺	口縁～胴部	口径16.0cm。口縁部はほぼ直口し、肩部はナデ肩をで最大径は胴部中央あたりに位置する。外面部の調整の単位は不明瞭であるが胴部はやや斜位に指ナデ調整でナデ上げ、口縁直下は横位の指ナデ調整を施す。内面についてもほぼ同様である。胎土は、外間分類のⅣ類に属しHue10YR5/6黄褐。	西Ⅱ層
	2		浅鉢	口縁部	口縁部は直口し、肩がはり最大径は胴上部に位置する。内外面とも器面の剥落が激しく調整の観察は不可。器壁は胴部は8～9mmと比較的厚手。胎土は外間分類のⅣ類に属し、Hue2.5Y6/4にぶい黄。	
	3		鉢	口縁部	口径33.2cm。口縁部が最大径に位置し、直口する。器壁は5～6mmと器形に比して薄い。器面の剥落が激しいが、内面は横位のナデ調整により丁寧に仕上げが行われている。胎土は、外間分類のⅣ類に属し、Hue2.5Y6/4にぶい黄。	
	4		鍋	口縁部	口縁部をくの字に屈曲させる。外面、内面とも横位の指ナデ調整を施す。胎土は外間分類のⅣ類に属し、Hue2.5Y5/6黄褐。	
	5		浅鉢	底部	丸底の形態をなし、底径は約24cmほど。内外面とも磨き調整を施し、器壁は底部で7mmほど、胴部で4mmほどと薄い。胎土は、外間分類のⅤ類に属し外面は黒褐色を呈し、内面は黄褐を呈する。	
第９図・図版５	1	白磁	皿	口縁～底部	口径19.8cm、底径11.4cm、器高4.1cm。口縁部は外反する。器壁は薄手。高台の畳付から、外底周辺部までは露胎する。釉は灰白で失透し、貫入なし。	土坑1
	2	青磁	碗	口縁部	口径13.0cm。外面の口縁部に波濤文をかく。釉は薄い緑色で、口唇部には施釉の及ばない部分もみられる。素地はHue10Y7/1灰白。	
	3		碗	口縁部	口径14.8cm。外面に細蓮弁文を施文する。蓮弁は、縦に線描きし、への字状の弁先を描く。釉は薄緑色で失透する。素地はHue10Y6/1灰。	
	4		皿	口縁部	口径11.2cm。口縁部は強く外反する。外面に片切彫で蓮弁文を施す。釉は緑色で透過性あり。素地はHue10Y8/1灰白。	
	5		皿	口縁部	稜花皿。口縁部の内面に釉が溜まるように厚くなる。釉は深緑色で失透する。素地はHue10Y6/2オリーブ灰。	
	6		皿	口縁～底部	口径12.0cm、底径5.2cm、器高3.0cm。稜花皿で腰折れ。口縁部の内面に稜花にそって2条の沈線を廻らし、胴部に線文を施す。内面は輪状に釉剥ぎされ、中央部にはその釉剥ぎに伴う凹みを有する。外底は蛇の目に釉剥ぎし、ハマの一部が残る。釉は緑色で失透性があり、貫入有り。素地はHue10Y7/1灰白。	
	7		碗	底部	底径4.0cm。底径に比して高台は高く、底部の器壁も厚い。畳付部分は外面より斜めに削る。内底に印花を施す。外底は蛇の目に釉剥ぎする。釉は白味のある薄緑色で失透し貫入あり。素地はHue10Y8/1灰白。	
	8		碗	底部	底径4.2cm。底径に比して高台が高く底部の器壁も厚い。内底の刻文は不明瞭であるが、「顧」の字を示すものと考えられる。外底は蛇の目に釉剥ぎし、ハマの一部は付着する。釉は緑色で透過性あり。素地はHue10Y8/1灰白。	
	9	青花	碗	口縁～底部	口径16.1cm、器高5.6cm、底径6.0cm。器高に比して口径が広く直線的に広がる。畳付は露胎する。外面と内底部には豹皮状文施文し、内面口縁部と内底部には2条の圏線を施文。景徳鎮系。	
	10	中国産褐釉陶器	壺	口縁部	器壁は3mm以下と薄い小型の壺である。口唇部は釉剥ぎし、内面も口縁部以下は露胎する。縦耳が欠損しその一部が残る。釉はHue5Y3/2オリーブ黒。素地はHue7.5Y5/1灰で白色鉱物を含む。	
	11	タイ産褐釉陶器	壺	口縁部	口径18.4cm。ラッパ状に外反する口縁部である。釉はオリーブ黒を示し、口唇部は2次焼成にためか気泡状を呈する。素地はHue5Y5/3灰オリーブで白色鉱物を含む。	

第６表　西地区遺物観察表②

図版・図番号	No.	遺物種	器種	部位	観察	出土地・層
第10図・図版6	1	土器	壺	口縁～底部	口径17.0cm、器高29.8cm、底径13.0cm。口縁部は緩やかに立ち上がり、なで肩で銅の最大径は胴中央部に位置する。内外面とも指押え及びナデ調整を施す。胎児は外間分類のⅣ類。	土坑1
	2	土器	壺	口縁～底部	口径13.6cm、器高35.7cm、底部14.4cm。口縁部は緩やかに立ち上がり、肩部の張りは弱く、胴の最大径は胴上部に位置する。内外面とも口縁部は横位の指ナデ調整を施す。内面の肩部以下は縦位の指ナデ調整を行う。胎児は外間分類のⅣ類。	
	3	土器	壺	口縁～胴部	口径11.2cm。口縁部は直口し、なで肩の器形をなす。肩部に縦耳を有し、本来は4つの耳で構成される内の2つが残っていると推察される。耳には直径約1cmほどの孔をもうける。外面は口縁部に指押えが残るが、肩部以下は磨き調整を施す。内面は肩部まで縦位に指ナデ調整を施す。外面の肩部以下はHe5Y3/2オリーブ黒を呈すが、その上はHue10YR6/6明黄褐を呈す。胎土は外間分類のⅣ類に属する。	
	4	土器	壺	底部	底径14.0cm。内面は縦位の指ナデの後に横位の指ナデ調整を施す。外面は器面が剥離しており調整の単位が不明瞭である。胎土は外間分類のⅣ類に属する。	
	5	土器	浅鉢	口縁～底部	口径27.0cm、器高16.2cm、底部10.2cm。口縁部は強く屈曲し肩の張りは比較的弱く、胴の最大径は胴中央部に位置する。内外面とも磨き調整を施し、黒味をおびる。胎児は外間分類のⅤ類。	
第11図・図版7	6	土器	浅鉢	口縁部	口径31.0cm。口縁部は強く屈曲し、肩部（胴上部）のはる器形をなす。。外面は全体的に磨き調整を施す。磨き調整は単位が不明瞭であるが線状の調整痕が残り光沢を有する。内面も同様の線状の磨き調整の痕が残る。胎土はHue10YR5/6黄褐を呈す。胎土は外間分類のⅤ類に属する。	
	7	土器	浅鉢	口縁部	口径23.0cm。肩部のはりがなく、口縁部と胴部の最大径がほぼ同じである。外面は全体的に磨き調整を施すが単位は不明瞭である。内面は口縁部に磨き調整を施すが、口縁部以下は指押え、ナデ調整が残る。外面はHue10YR3/2黒褐を呈すが、内面口縁部以下はHue10YR5/6黄褐を呈す。胎土は外間分類のⅤ類に属する。	
	8	土器	浅鉢	底部	底部は丸底の形態をなし、底径は約7.6cmである。外面は丁寧な磨き調整を施して光沢を有するが、調整の単位を確認することができない。底部は内外面にみられない微細な白色物が器面にあらわれる。外面はHue10YR3/2黒褐、内面はHue10YR5/6黄褐を呈す。胎土は外間分類のⅤ類に属する。	
	9	土器	鉢	口縁部	口縁部がラッパ状にひらく器形をなす。内外面とも横位の指ナデ調整を施す。外面はHue10YR5/4にぶい黄褐を呈し部分的に黒味をおびる。内面はHue10YR5/6黄褐。胎土は外間分類のⅣ類に属する。	
	10	土器	碗	口縁～底部	口径15.3cm、底径8.8cm、器高8.5cm。高台を付した碗形の土器である。内外面とも横位の指ナデ調整で仕上げを行うが単位が不明瞭である。素地はHue10YR6/4にぶい黄褐を呈す。胎土は外間分類のⅣ類に属する。	
第13図・図版9	1	白磁	皿	口縁～腰部	口径15.4cm。外面には轆轤痕が残る。素地はHue7.5Y8/3浅黄で白色の鉱物を含む。釉は器面に空隙がみられる。	
	2	青磁	碗	口縁部	口径13.2cm。口縁部は直口し、外面に1条の圏線を有する。釉は緑色で発色は悪く貫入あり。素地はHue10Y7/2灰白で微細な黒色粒子を含む。	
	3	青花	碗	口縁部	口径13.6cm。口縁部は直口し、外面に波濤文を、内面に一条の線を施文する。呉須の発色は悪く黒味をおびる。素地はHue10Y8/1灰白。	
	4	土器	浅鉢	口縁部	口径25.0cm。口縁部は僅かに外反する。内外面とも横位の指ナデ調整を施す。外面はHue2.5Y6/4にぶい黄を呈すが、内面はHue2.5Y3/2黒褐を呈する。胎土は外間分類のⅣ類に属する。	

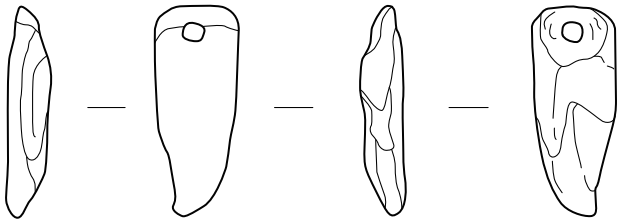
第７表　西地区遺物観察表③

図版・図番号	No.	遺物種	器種	部位	観察	出土地・層
第13図 図版9	5	土器	浅鉢	口縁～胴部	口径36.0cm。口縁部はほぼ直口し、肩のはりは比較的弱い。外面は全体的に磨き調整を施し、内面の口縁部付近は横位の指ナデ調整を施す。全体的にHue5Y6/3オリーブ黄を呈すが、胴上部以下が黒ずむ。胎土は外間分類のⅣ類に属する。	
第14図・図版10	6	土器	浅鉢	口縁部	口縁部は外反する。内外面とも器面が剥離がみられるが全体的に磨き調整を施し、外面の口縁部には横位の指ナデ調整の痕も残る。Hue5Y6/3オリーブ黄を呈し、胎土は外間分類のⅣ類に属する。	
	7	土器	壺	口縁部	口縁は外反し、肩部の張りは強い。外面には線状の調整痕がのこり全体的に磨き調整を施す。内面は横位の指ナデ調整を施す。Hue5Y6/4オリーブ黄色を呈す。胎土は外間分類のⅣ類に属する。	
	8	土器	鉢	口縁部	口径38.8cm。口縁はラッパ状にひらく。外面は横位の指ナデ調整を施した後に磨き調整を施し光沢を有する。内面は横位の指ナデ調整を施す。Hue2.5Y6/4にぶい黄を呈す。胎土は外間分類のⅣ類に属する。	
	9	土器	壺	底部	底径14.6cm。内外面とも横位の指ナデ調整をほどこす。外面はHue5Y6/4オリーブ黄を呈すが、内面はオリーブ黒を呈する。胎土は外間分類のⅣ類に属する。	
	10	土器	壺	底部	底径19.0cm。外面は縦位の指ナデ調整と底面付近を廻る横位の指ナデ調整を施す。内面は器面の剥離が激しく観察不可。Hue5Y6/4オリーブ黄を呈す。胎土は外間分類のⅣ類に属する。	
第15図・図版11	1	青花	碗	口縁～底部	口径14.0cm、器高13.0cm、底径5.0cm。口縁部は直口し、畳付のみ露胎する。外面は施文、内面口縁部に一条の線、内底の文様構成は不明。素地はHue10YR8/1灰白で、コバルトの発色はやや悪い。景徳鎮系。	土坑10
	2	青花	小碗	口縁～底部	口径10.0cm、器高4.7cm、底径4.8cm。口縁部が外反し、腰がはる。外面と内底部に施文するがコバルトの発色は悪い。畳付は露胎する。素地はHue10Y8/2灰白。景徳鎮系。	
	3	青花	碗	口縁部	口径14.2cm。口縁部は直口し外面は波濤文を施文し内面に2条の線文を施す。素地ははHue10YR8/1灰白。コバルト発色は比較的良い。景徳鎮系。	
	4	青花	碗	口縁部	口径15.0cm。口縁部は直口し、内外面に施文する。施文は褐色を呈する。外面はやや轆轤痕が残る。素地はHue10Y8/2灰白。福建・広東系。	
	5	土器	壺	口縁部	口径23.0cm。口縁部は直口し肩部がはると推察される。外面には指押えの痕が残り肩部には磨き調整を施す。内面の肩部には縦位の指ナデ調整を施す。胎土はHue10YR6/6明黄褐。胎土は外間分類のⅣ類。	
	6	土器	浅鉢	口縁部	口径24.0cm。口縁部は強く屈曲し肩部がはる。外面は丁寧な磨き調整を施す。内面は器面の剥離が激しく観察不可。胎土は明黄褐を呈し、部分的に黒味をおびる。胎児は外間分類のⅤ類。	
	7	土器	鉢	口縁部	口径31.0cm。口縁部に最大径を有する。内外面は部分的に器面が剥離するが、いずれも横位の指ナデ調整を施す。胎土は明黄褐を呈し、部分的に黒味をおびる。胎児は外間分類のⅣ類。	
第16図 図版12	1	土器	壺	底部	底径20.0cm。底部から鋭角にたちあがる。内面は横位の指ナデ調整を施す。胎土はHue2.5Y6/3にぶい黄を呈し、内面は部分的に黒味をおびる。胎土は外間分類のⅣ類。	土坑10
第17図 図版13	8	土器	鉢	口縁部	口径36.0cm。口縁は直口し最大径となる。内外面とも横位の指ナデ調整を密に施す。胎土はHue2.5Y5/4黄褐を呈し、内外面とも部分的に黒味をおびる。胎土は外間分類のⅣ類。	土坑12
	2	土器	鉢	口縁部	口径26cm。口縁部が外反する。内面は横位の指ナデ調整を密に施す。外面は口縁部に斜位と横位に指ナデ調整を施す。胎土は外間分類のⅥ類。	

第８表　西地区遺物観察表④

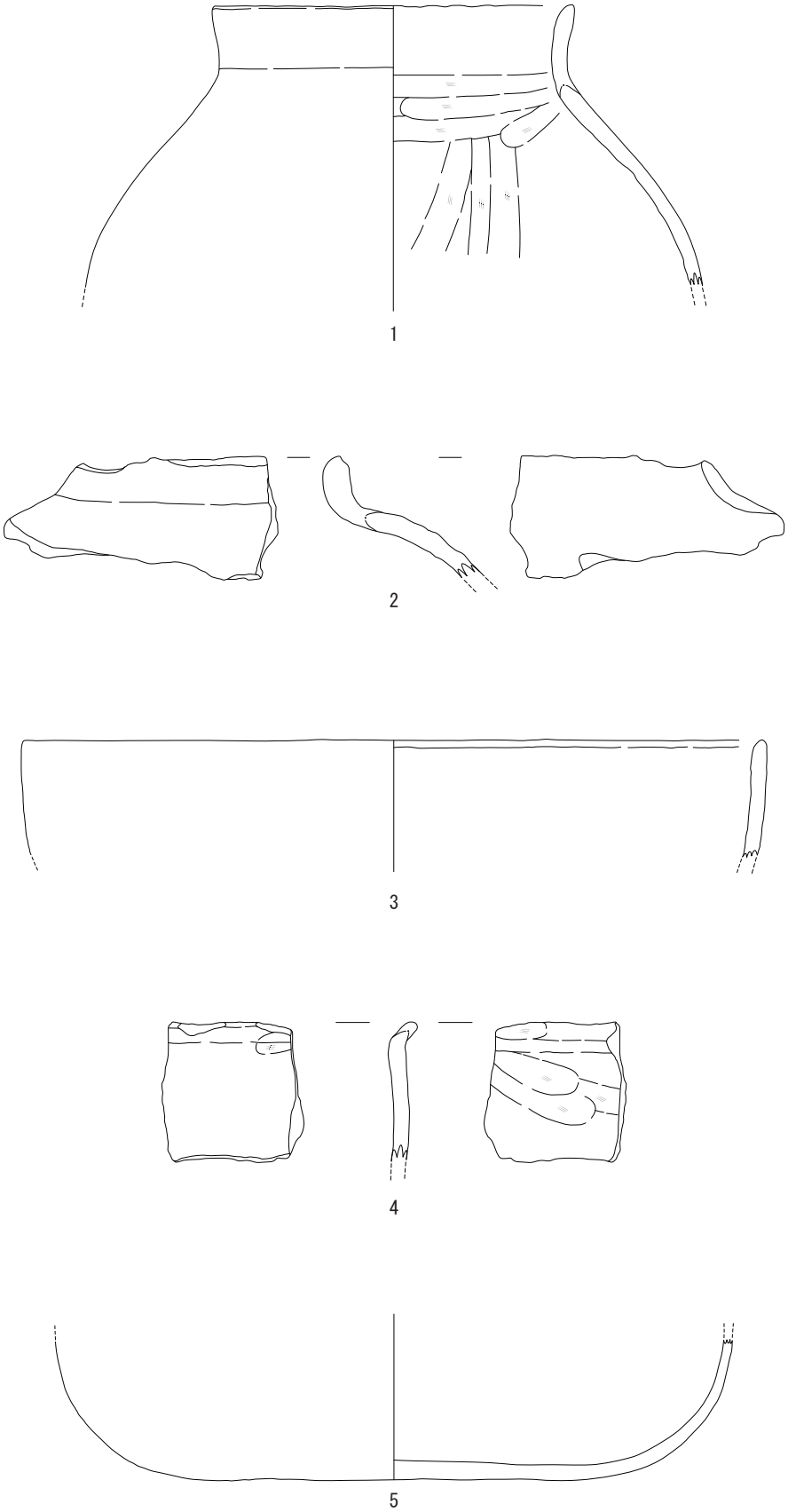
図版・図番号	No.	遺物種	器種	部位	観察	出土地・層
第17図 図版13	3	土器	鉢	口縁部	口径34.0cm。口縁部に最大径をもつ。外面は器面の剥離が激しいが部分的に横位の指ナデ調整が確認できる。内面は粘土帯による凹凸も残り、横位の指ナデ調整を施す。胎土は外間分類のⅣ類。	土坑12
第18図・図版14	1	土器	壺	口縁部	口径28.0cm。口縁部は強く外反する。内外面とも丁寧な磨き調整を施し、その痕跡が線状に残る。胎土はHue2.5Y6/4にぶい黄で、外間分類のⅣ類。	土坑18
	2	土器	-	底部	底径16.0cm。壺の底部と考えられる。内底部には指ナデ調整の痕が明瞭に残る。胎土Hue5/6黄褐で、内面は部分的に黒ずむ。胎児は外間分類のⅣ類。	土坑18
	3	青磁	碗	口縁部	口径14.6cm。幅広高台碗の口縁部と考えられる。外面には轆轤痕が残る。釉は薄緑色で失透し貫入有り。素地はHue5Y7/4浅黄を呈し、軟質である。	pit41
	4	土器	鉢	口縁部	口径37.0cm。口縁部に最大径を有する。外面は工具を用いたナデ調整を行い磨き調整を行っている。内面は全体的に横位の指ナデ調整を施す。胎児は外間分類のⅣ類。	pit9

(13) 骨製品　集計表に記載にはないが、骨製品が１点西地区の土坑１より出土している（第７図・図版3)。動物種は不明であるが、歯に孔を１つ穿孔した有孔製品である。孔は、骨の厚みが１㎜ほどに薄くなるエナメル質の端部に穿かれており、孔の直径は約３㎜である。孔の形状は、正円ではなく、丸みを有した方形形を呈している。

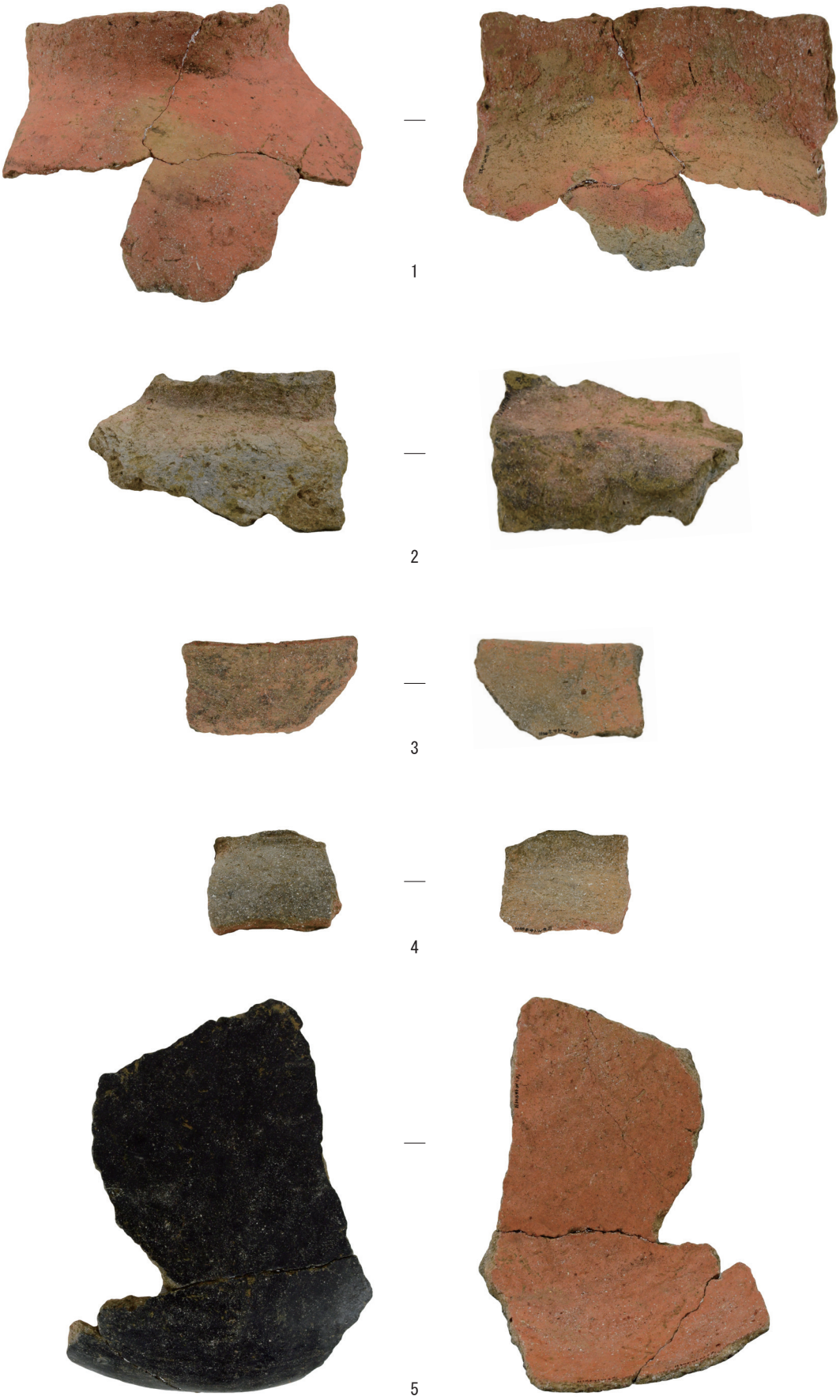


第７図　骨製品（S=1/1）

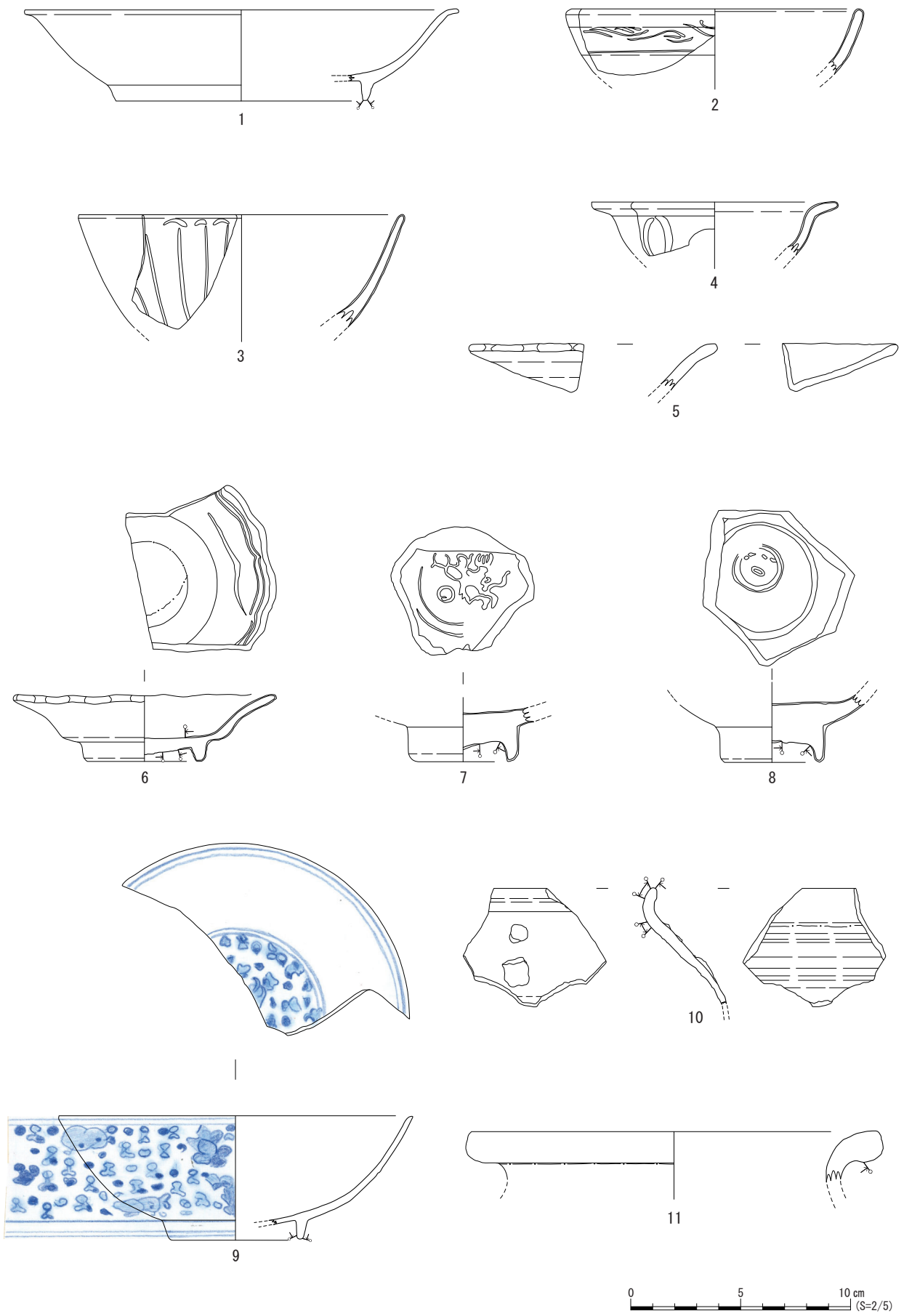
図版３　骨製品（S=1/1）



第８図　西地区Ⅱ層出土遺物



図版４　西地区Ⅱ層出土遺物

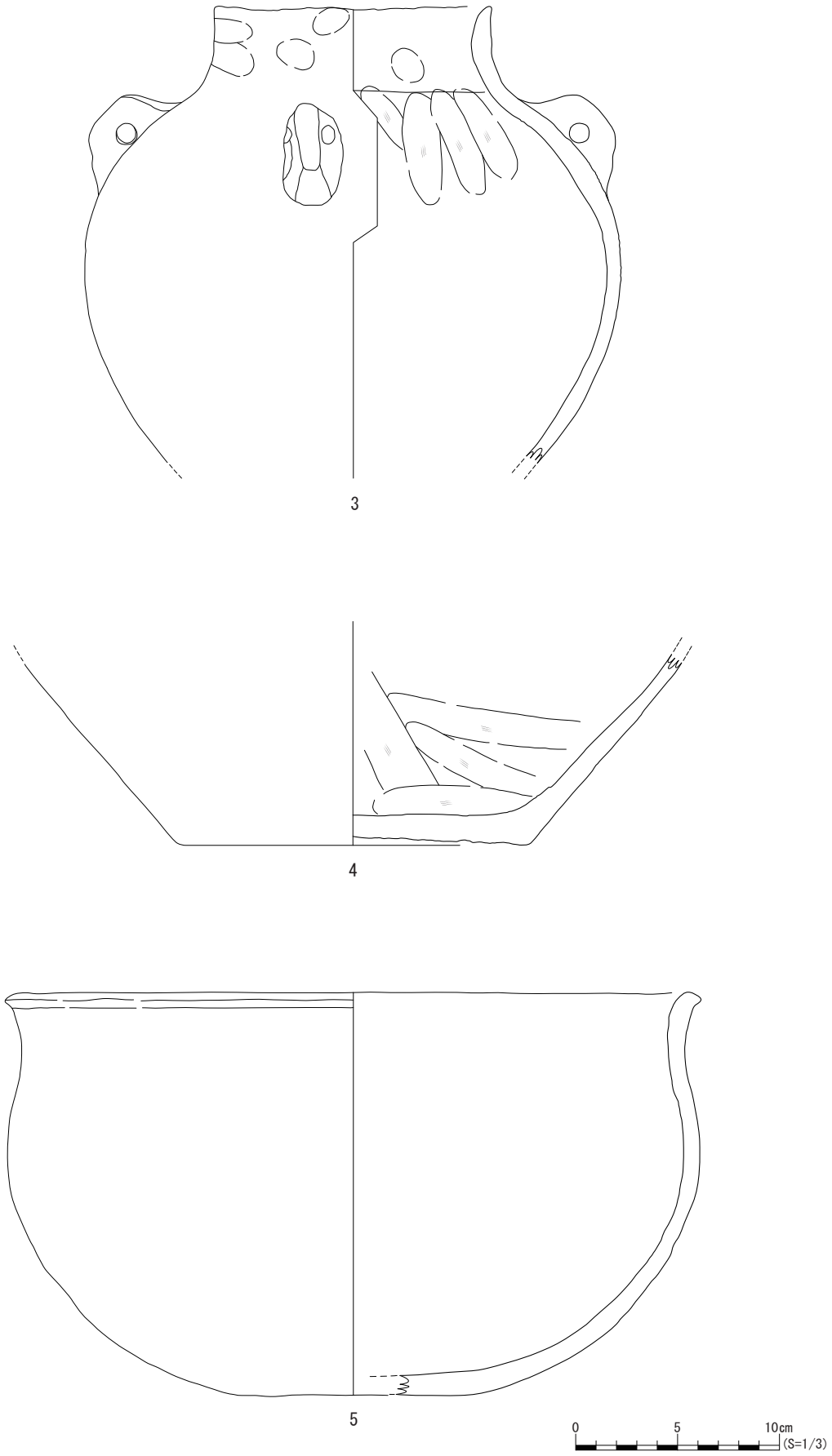


第９図　西地区土坑１出土遺物①

1・9：0 5 10 cm (S=1/20)

2～8・10・11：0 5 10 cm (S=2/5)

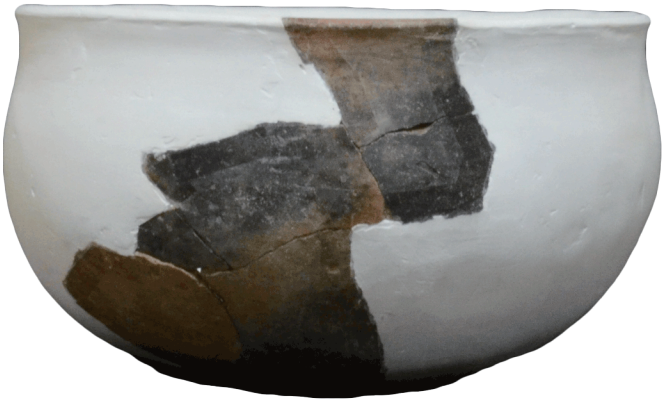
図版５　西地区土坑１出土遺物①



第 10 図　西地区土坑 1 出土遺物②

3

4

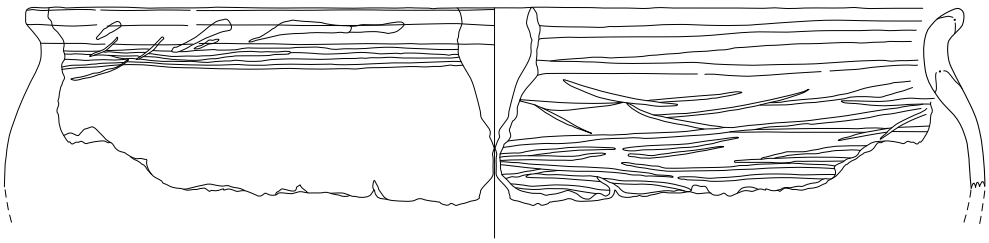


5

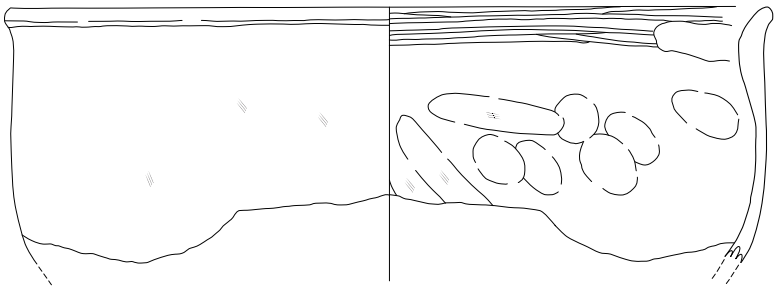
3・5：0 5 10cm (S=1/3)

4：0 5 10cm (S=1/20)

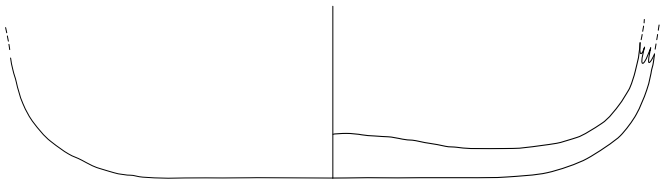
図版 6　西地区土坑 1 出土遺物②



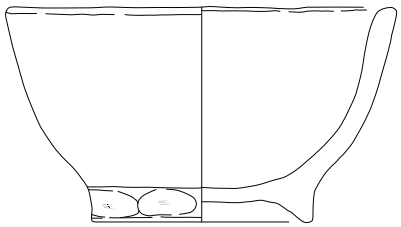
6



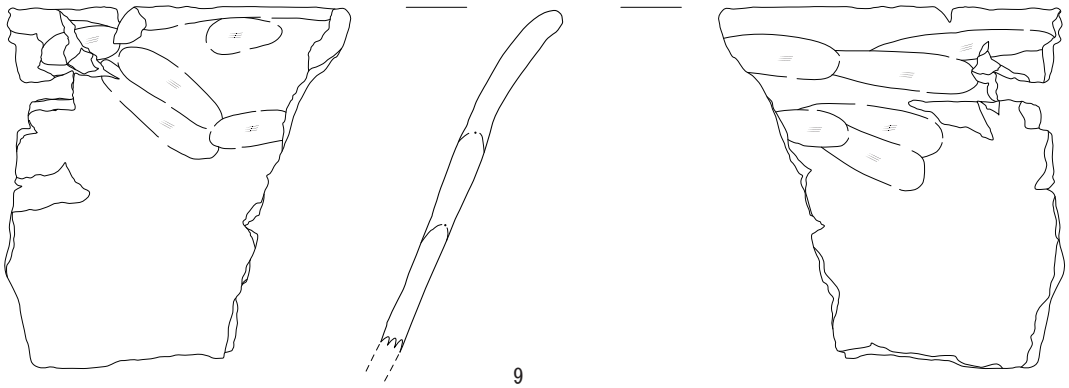
7



8



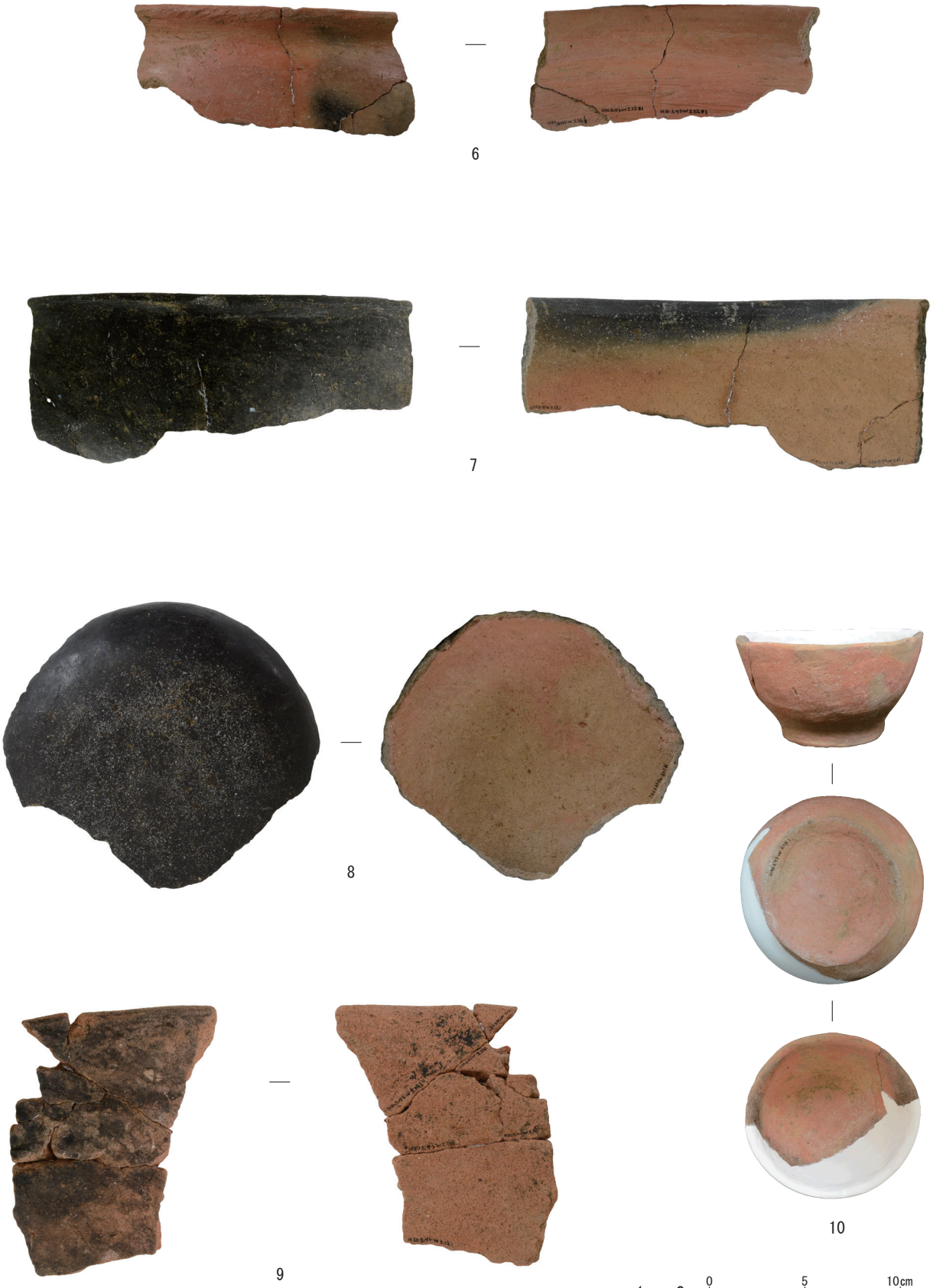
10



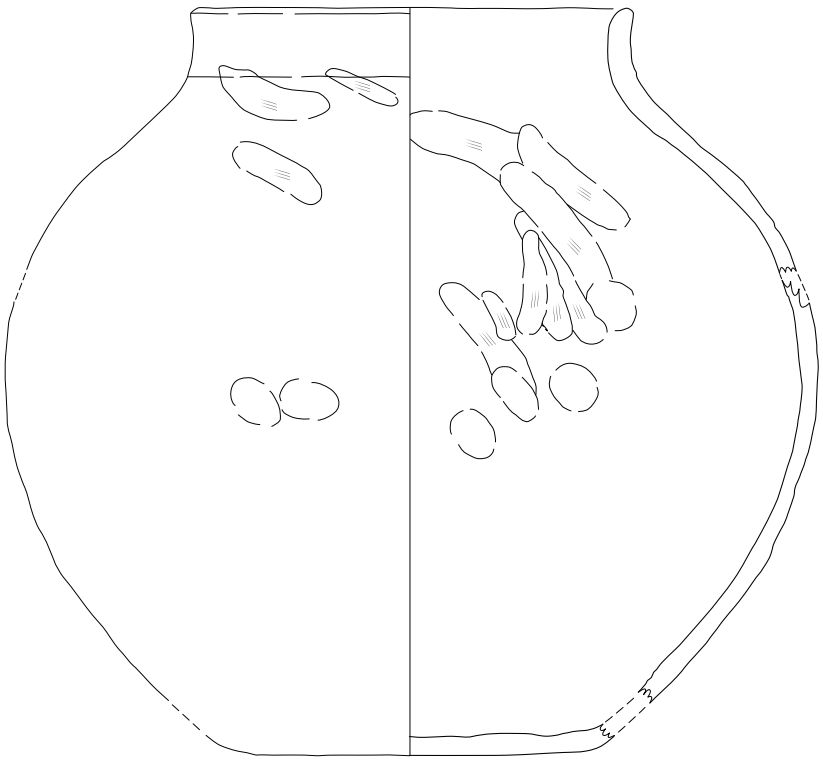
9

0 5 10cm (S=1/3)

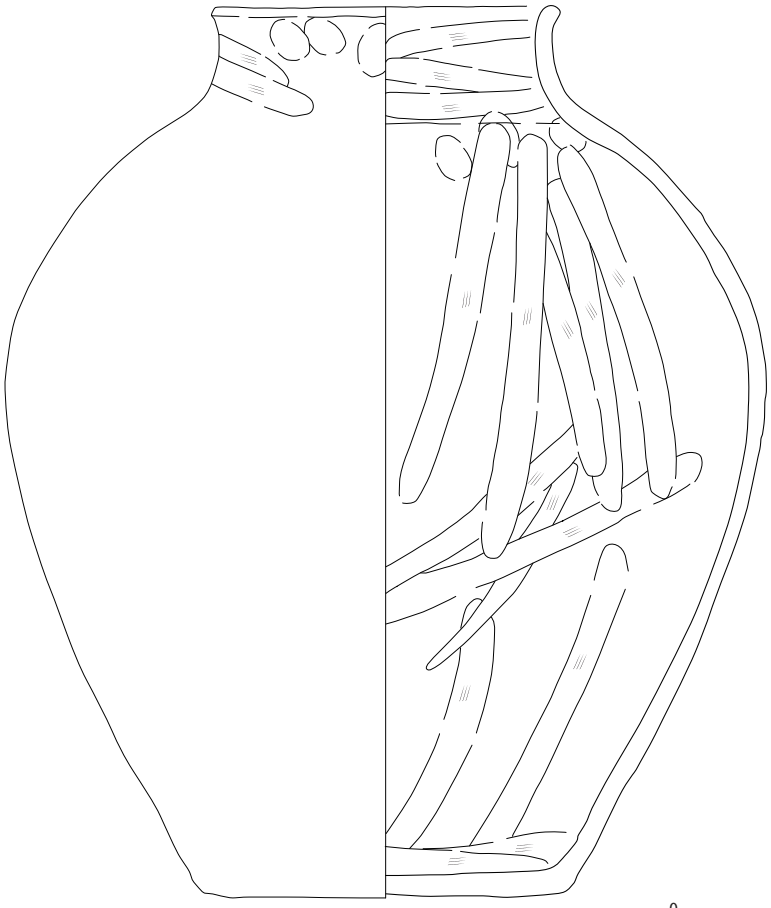
第 11 図　西地区土坑 1 出土遺物③



図版７　西地区土坑１出土遺物③



1



2

0 5 10cm (S=1/3)

第 12 図　西地区土坑 1 出土遺物④

1

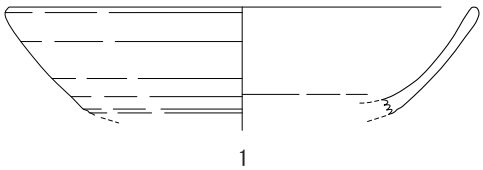
1は4つの接合資料を図上復元で図化した。

2

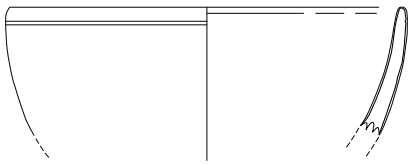
1：0 5 10cm (S=1/20)

2：縮小不同

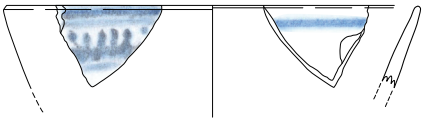
図版8　西地区土坑1出土遺物④



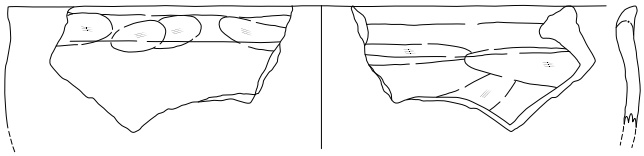
1



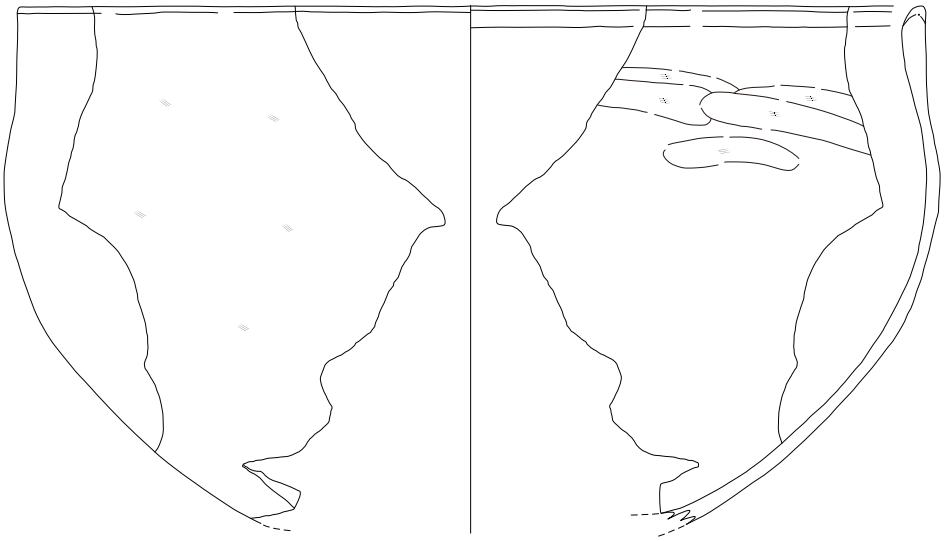
2



3



4

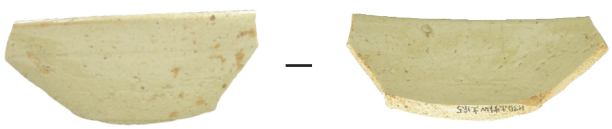


5

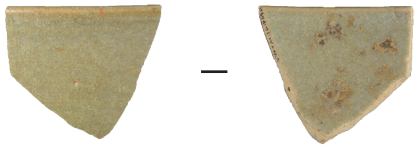
4・5: 0 5 10cm (S=1/3)

1～3: 0 5 10 cm (S=2/5)

第 13 図　西地区土坑 5 出土遺物①



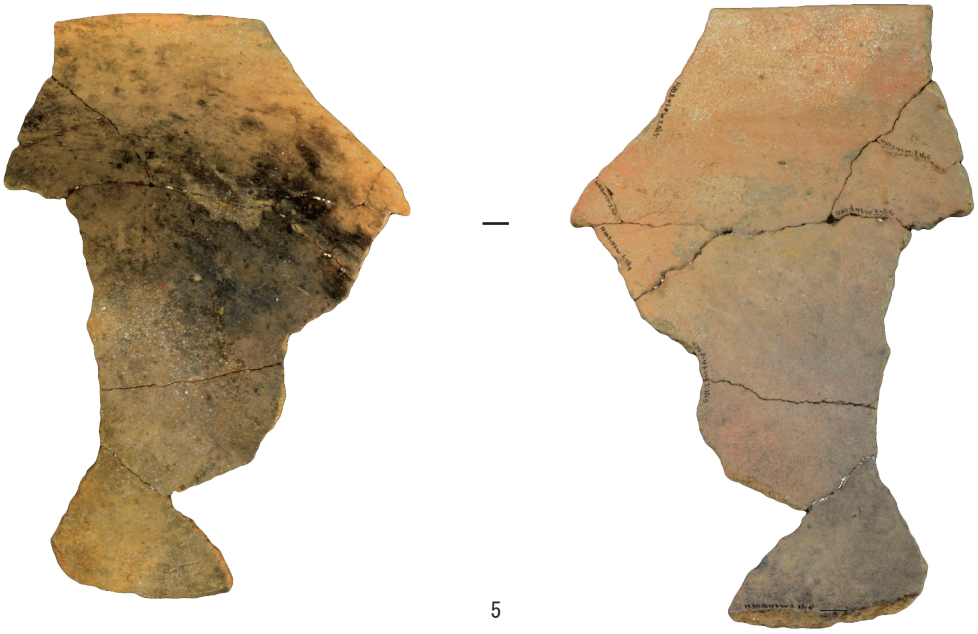
1



2

3

4

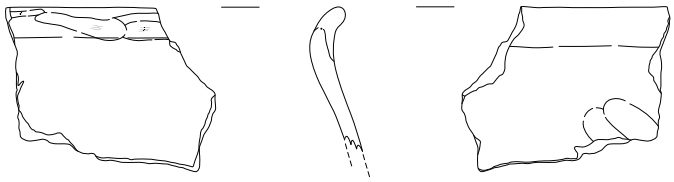


5

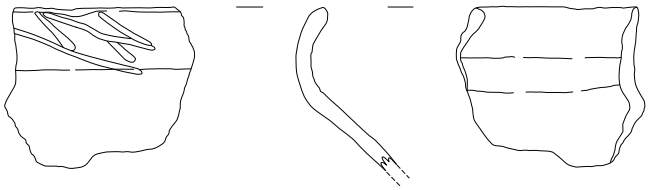
1～3：0 5 10 cm (S=2/5)

4・5：0 5 10cm (S=1/3)

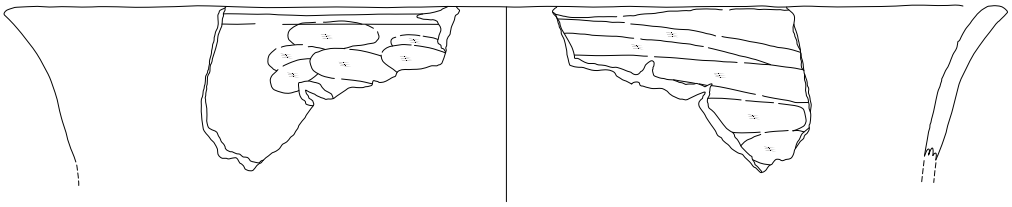
図版 9　西地区土坑 5 出土遺物①



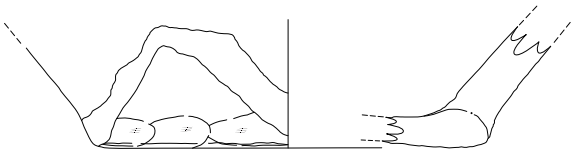
6



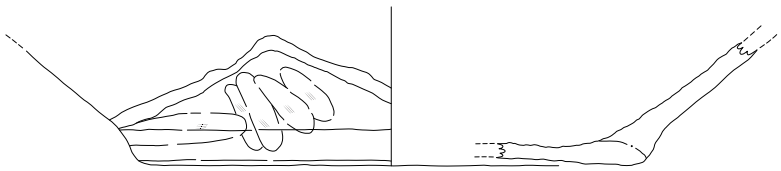
7



8



9



10

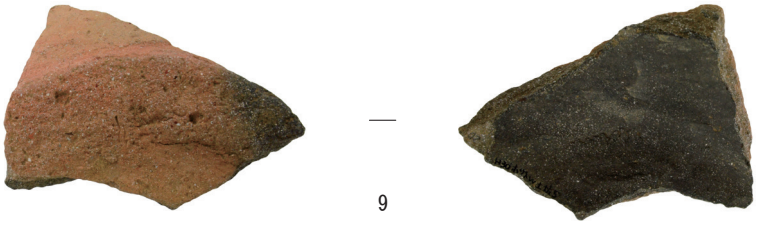
0 5 10cm (S=1/3)

第 14 図　西地区土坑 5 出土遺物②

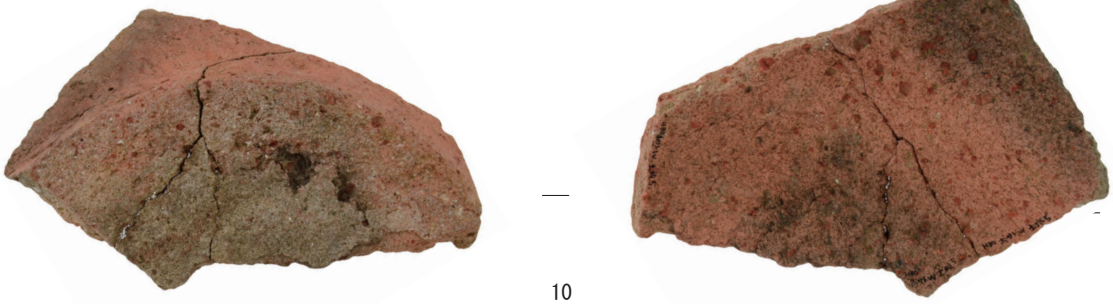
6

7

8



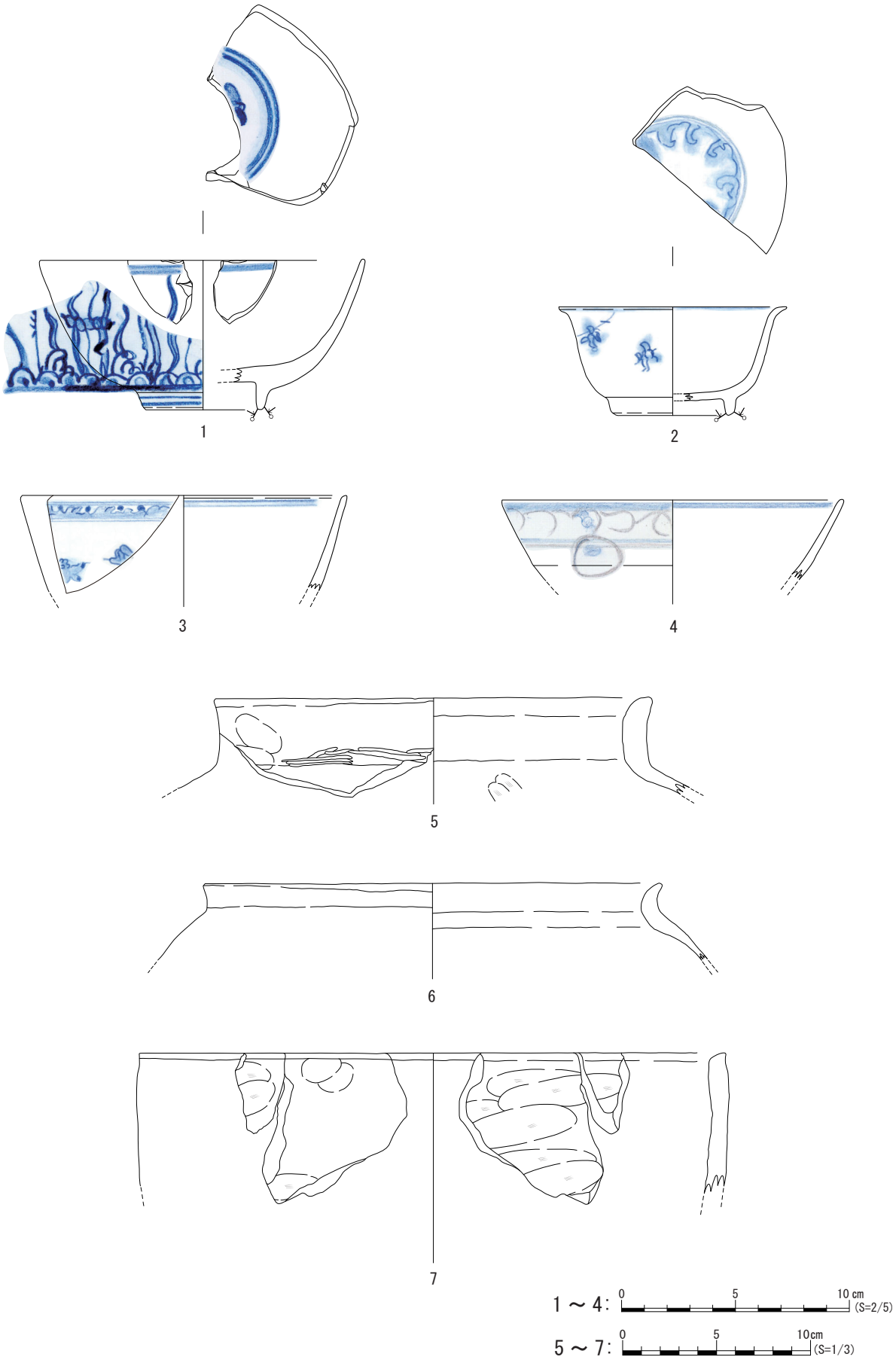
9



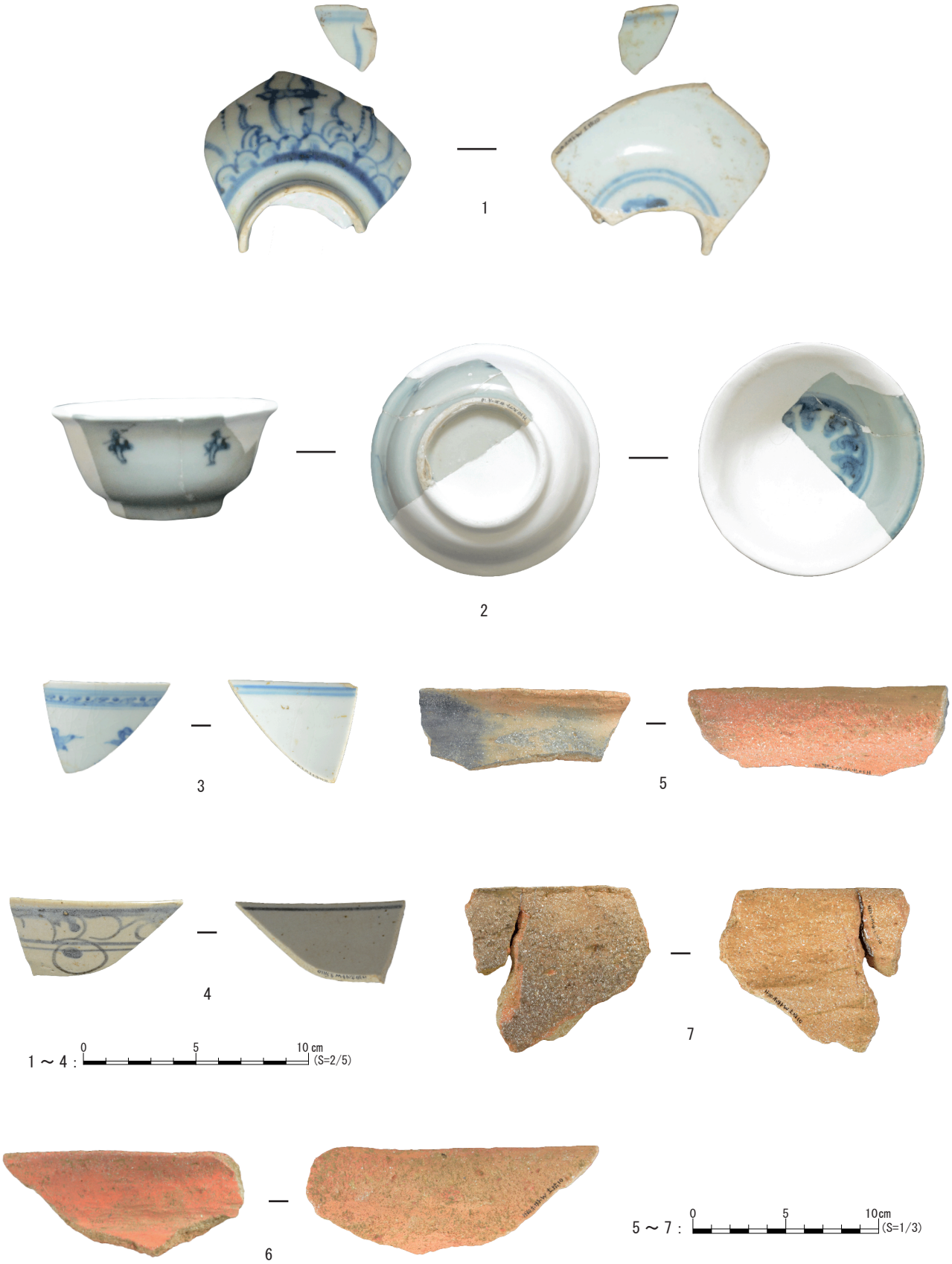
10

図版 10　西地区土坑 5 出土遺物②

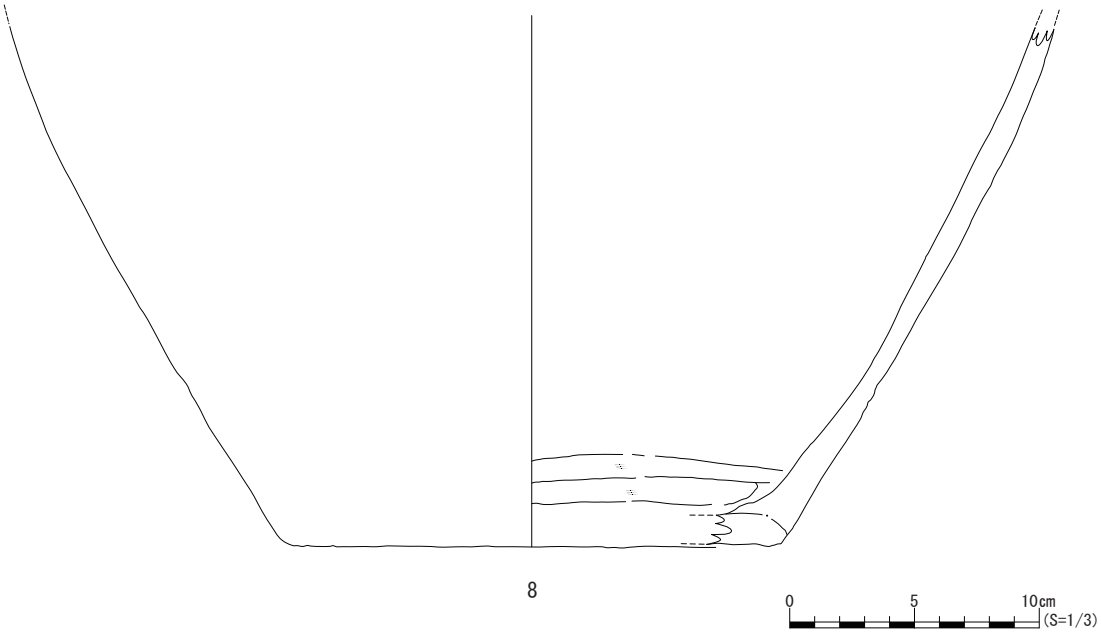
0　5　10cm (S=1/3)



第 15 図　西地区土坑 10 出土遺物①

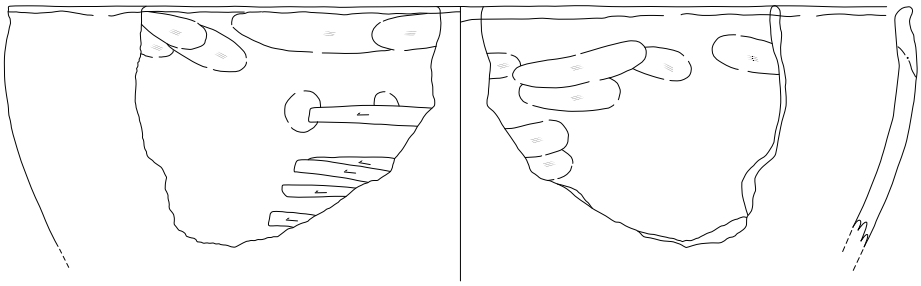


図版 11　西地区土坑 10 出土遺物①

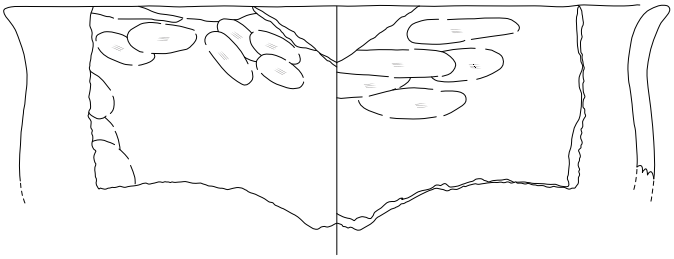


第 16 図　西地区土坑 10 出土遺物②

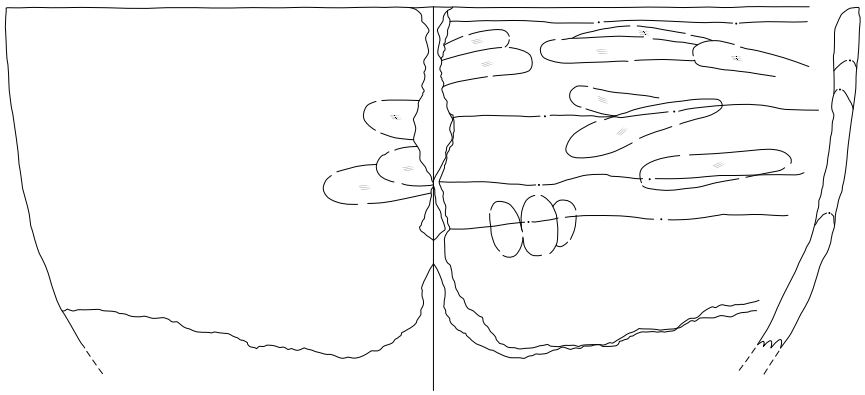
図版 12　西地区土坑 10 出土遺物②



1



2



3

第 17 図　西地区土坑 12 出土遺物

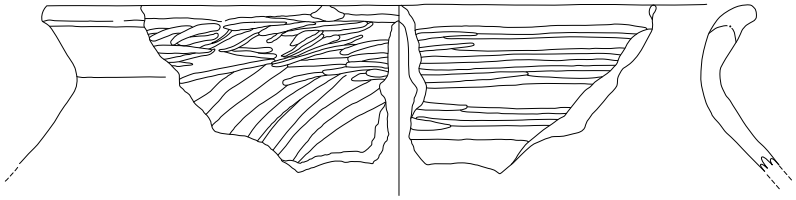
1

2

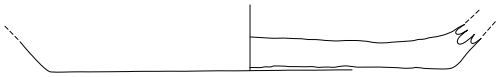
3

図版 13　西地区土坑 12 出土遺物

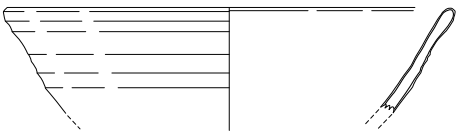
0　5　10cm (S=1/3)



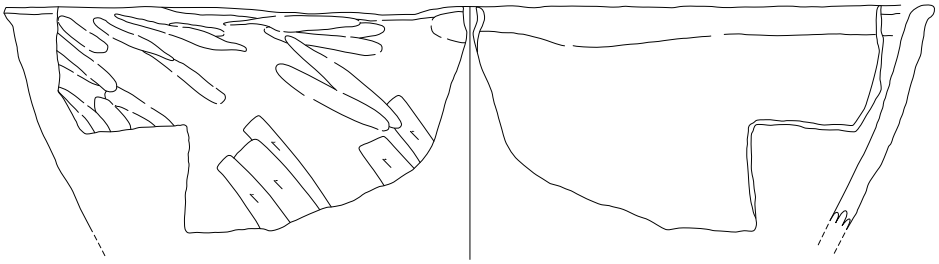
1



2



3

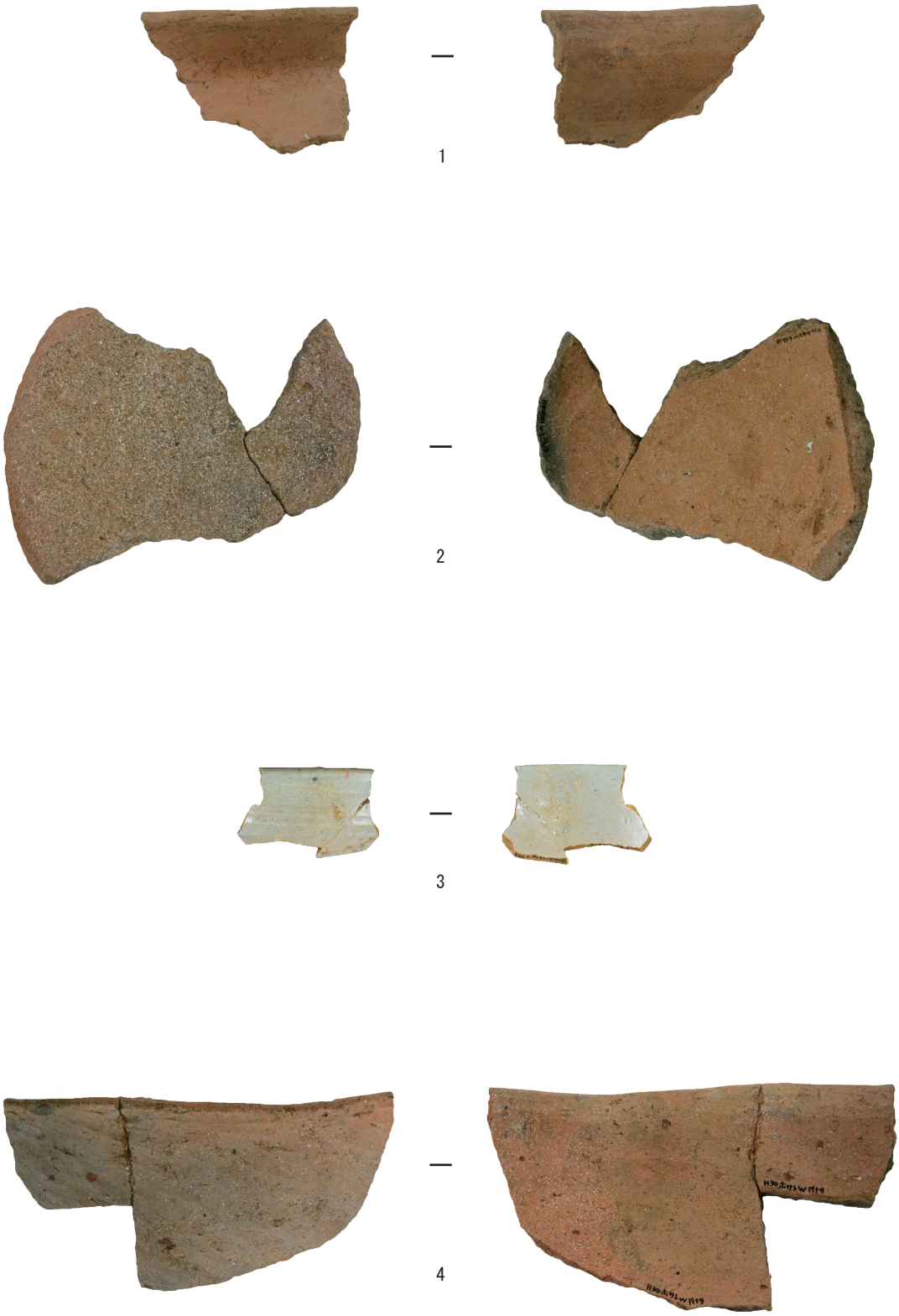


4

1・2・4: 0 5 10cm (S=1/3)

3: 0 5 10cm (S=2/5)

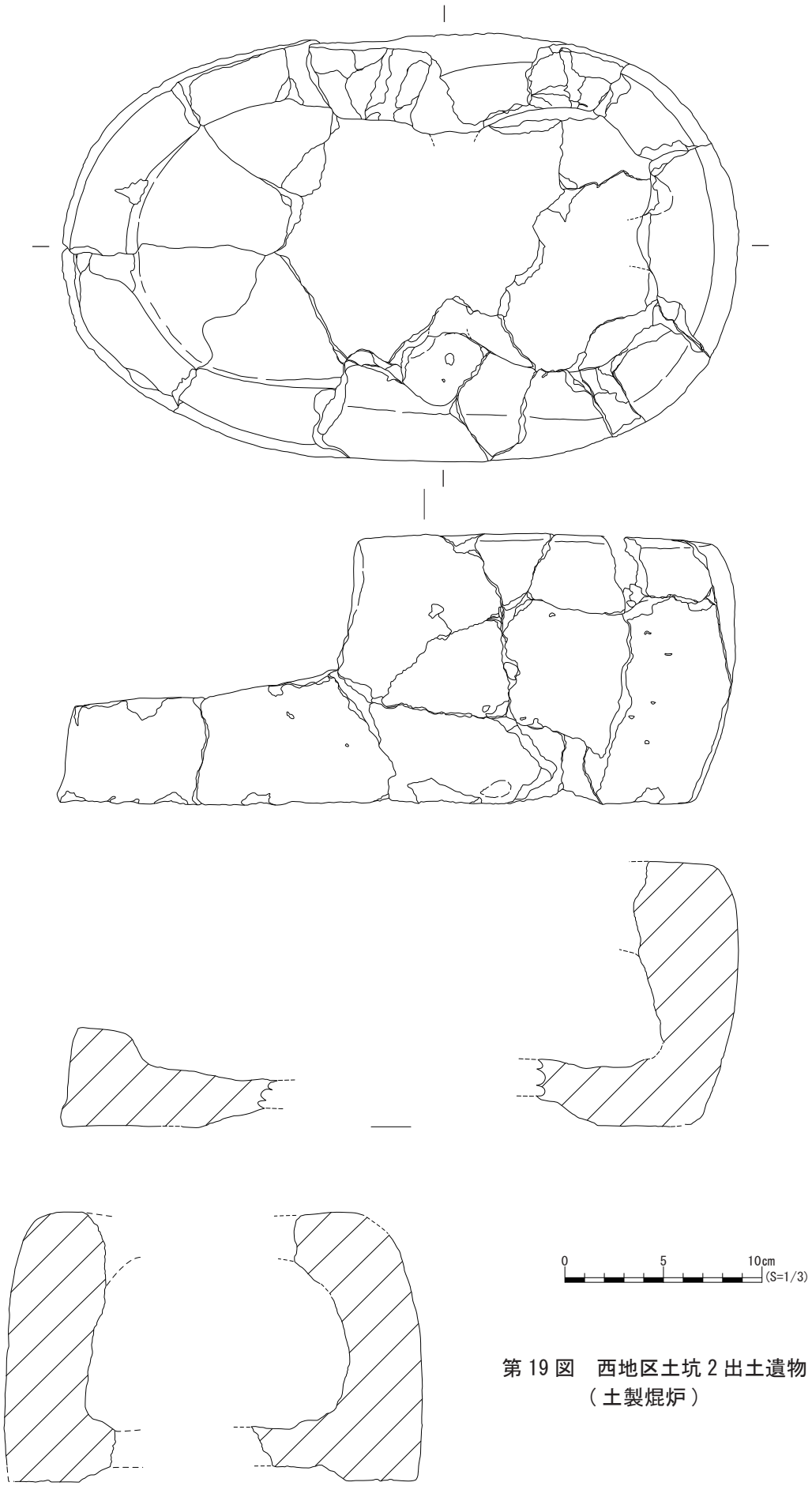
第 18 図　西地区土坑 18 及び pit 内出土遺物



1・2・4：0 5 10cm (S=1/3)

3：0 5 10 cm (S=2/5)

図版 14　西地区土坑 18 及び pit 内出土遺物



第 19 図　西地区土坑 2 出土遺物
（土製焜炉）

図版 15　西地区土坑 2 出土遺物（土製焜炉）

0　5　10cm (S=1/3)

第３節　東地区

東地区は、西地区の半分の面積ではあるが、検出されたピットの総数は 225 にものぼり、西地区に比してその密度は非常に高くなり、多くのピットで切り合いを有している。しかしながら、東地区においても、建物跡としての明確なプランを確定するには至らなかった。

ピットの直径は約 20 ㎝以下のものと、20 ～ 40 ㎝大の円形のピットが多くみられ、40 ㎝をこえるとその平面形態は不定形になる。深度は概ね 20 ～ 40 ㎝ほどであり、明らかな柱痕は確認されなかった。東地区においては、西地区のような廃棄土坑は確認されておらず、食料残滓としての貝類、動物依頼の出土も少ない。これらの調査状況をふまえるならば、居住域は、東地区側によっており、居住域の周辺部に廃棄土坑などが形成されたものと推察される。

東地区においては、遺物包含層がほぼ確認されず、遺物の出土は Pit 内からの出土である（第 9・10 表）。出土遺物の中で中国産陶磁器についてみると、青磁は細蓮弁文、無文直口碗が主体をなし、雷文や無文で外反する資料も一定量みられる。青花は、景徳鎮系の青花と、福建・広東系の青花が出土するが、どちらの資料が判別が困難な小破片での出土が多かった。土器は、西地区同様に壺形が主体となり、浅鉢形や鉢形の土器がみられる。鉢形の土器は、口径は非常に広く、宮古諸島の特徴的な形態を呈している。出土量は前述したグスク時代の陶磁器に比べると少なくなるが、近世琉球期に位置づけられる肥前産陶磁器や、沖縄産陶器の出土もみられ、西地区と同様の傾向を示す。これらの出土遺物の種類や量から、当該地の最盛期は 15 世紀中頃から 16 世紀にかけてであり、規模はやや縮小するものの、近世代まで遺跡での活動が継続している状況がみれとれる。

写真 34　東地区の遺構検出状況

図版 16　東地区の遺構図

第９表　東地区遺物出土集計表（pit 内）①　　＊数字は pit 番号を示す

種類	器種	部位	分類	3	4	8	9	13	15	18	22	23	24	26	31	34	35	37	42	43	44	49	59	61	65	66		76	78	81	82	83の2	84の1	87	93
土器	壺	口縁部																					1												
	浅鉢	口縁部																															1		
	不明	口縁部																																	
	胴部		Ⅰ類																	1															
			Ⅳ類		6			1	1	1		1	1		3	1				4		5	26		8	1		3		2	5	1	4	1	
			Ⅵ類	1		4	2				10	2		2				1	1			2	2		3			7	2	1	1				
白磁	碗	口縁部	閩清窯（ビロースクⅡ）																																1
	皿	口縁～底部	景徳鎮系																																
	皿	口縁部	その他																																
	胴部																																		
青磁	碗	口縁部	細蓮弁文									1																							
			無文直口						1																										
			無文外反																	2															
			不明																																
		底部																																	
	盤	口縁部	鍔縁																																
	胴部（蓮弁文）													1																					
	胴部（細蓮弁文）																																		
	胴部（外面有文）																																		
	胴部（内面有文）								2								1																		
	胴部（雷文）																																		
	胴部（内外面無文）						1	1	3			1							1	11			2		1	1							2		
青花	碗	口縁部	①景徳鎮系・直口												1																				
		口縁部	福建・広東																																
		口縁部	不明																																
	胴部									1													5												
中褐	壺	口縁部	Ⅰa																																
			Ⅱa														1																		
			方形																																
			小型																																
	底部																								1										
	胴部				1			3		1	1		1	1						5			1		1	1							1		
肥前磁器	碗	口縁部																																	
肥前陶器	碗	口縁部	銅緑釉																				1												
沖縄産無釉	碗	口縁部	灰釉																						1									1	
	胴部		灰釉																															1	
陶質土器	擂鉢	口縁部																																	
	不明	口縁部																																	
瓦	胴部														1									1				1			1				

第10表　東地区遺物出土集計表（pit内）②　　＊数字はpit番号を示す

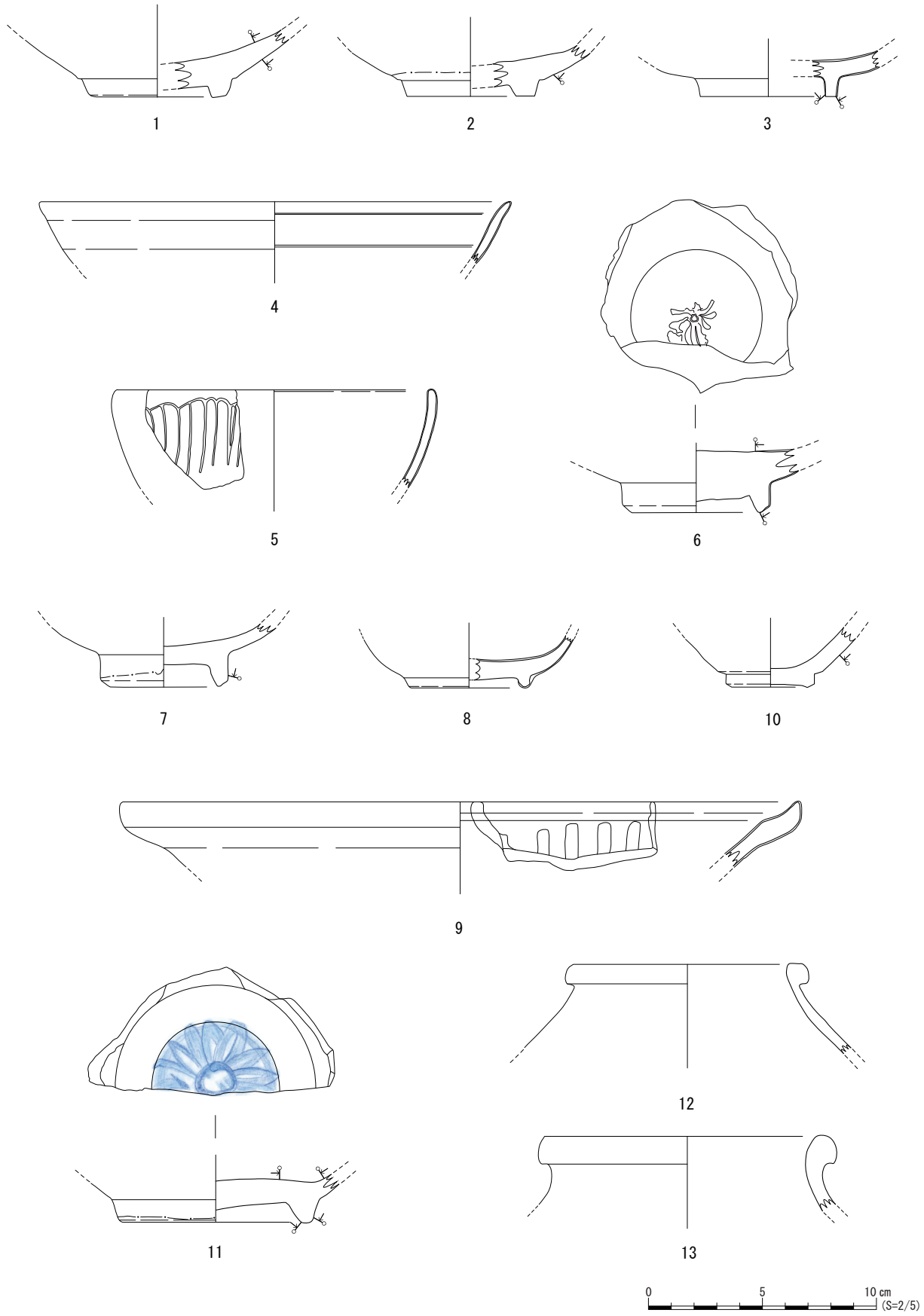
種類	器種	部位	分類	94	98	102	104	105	106	107	108	109	110	114	116	117	121	126	128	132	133	135	137	138	139	144	145	152	160	167	169	170	171	172	174	175	178	182
土器	壺	口縁部																														1						
	浅鉢	口縁部																												1								
	不明	口縁部																												1								
	胴部		Ⅰ類		1																																	
			Ⅳ類		2		1	3	1	8	2	1										3					4	7	103	3		2		5				
			Ⅵ類									8	13	1		3		1	2		7		2	2	3	1					2		3	12	14		1	1
白磁	碗	口縁部	閩清窯（ビロースクⅡ）																																	1		
	皿	口縁～底部	景徳鎮系																																			
	皿	口縁部	その他																																			
	胴部														1																							
青磁	碗	口縁部	細蓮弁文																						1													
			無文直口																								1											
			無文外反																																	1		
			不明														1																	1				
		底部																				1																
	盤	口縁部	鍔縁																		1																	
	胴部（蓮弁文）																																					
	胴部（細蓮弁文）							1																														
	胴部（外面有文）																									1												
	胴部（内面有文）																									1									2			
	胴部（雷文）																																					
	胴部（内外面無文）			1		1				2			2			1					3		1		1			1	3					2	1	2		1
青花	碗	口縁部	①景徳鎮系・直口																																			
		口縁部	福建・広東																	1									3									
		口縁部	不明																																			
	胴部																												1									
中褐	壺	口縁部	Ⅰa																																1			
			Ⅱa																															1				
			方形																																			
			小型																																			
	底部																																	1	1			
	胴部			1		1		1		1					1										7				7				1	6	1		1	
肥前磁器	碗	口縁部									1																											
肥前陶器	碗	口縁部	銅緑釉																																			
沖縄産無釉	碗	口縁部	灰釉																																			
	胴部		灰釉																																			
陶質土器	擂鉢	口縁部																																	1			
	不明	口縁部																																1				
瓦	胴部																												7						2			

第 11 表　東地区出土遺物観察表①

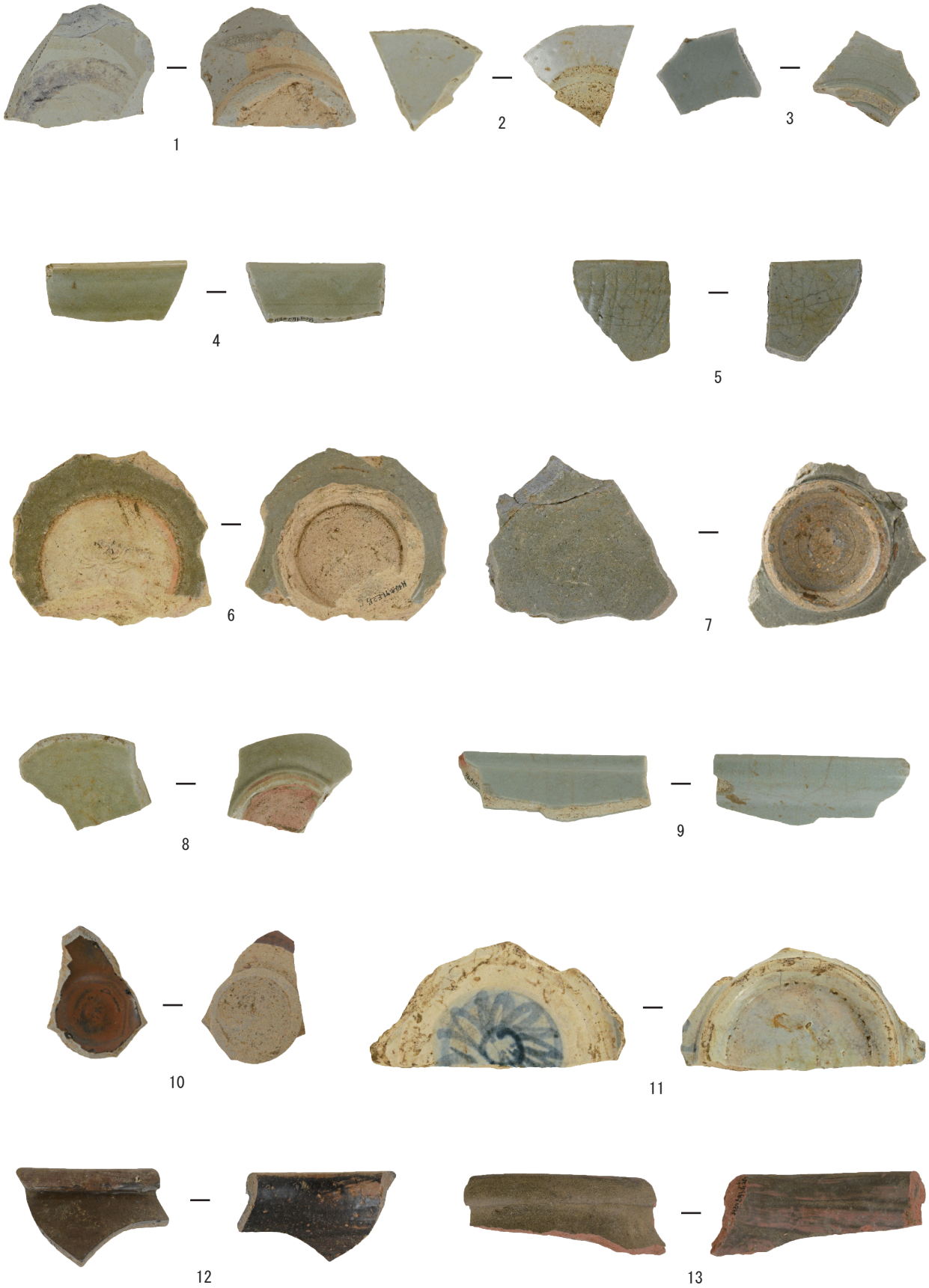
図版・図番号	No.	遺物種	器種	部位	観察	出土地・層
第20図・図版17	1	白磁	碗	口縁部	底径5.6cm。高台脇を僅かに水平に削り、外底はヘソ削りを行う。外面の腰部以下と内底は露胎する。内底には円形に黒色の変色部分がみられる。釉はHue10Y7/1灰白で、素地はHue7.5Y灰白で白色の鉱物を含む。今帰仁タイプ(浦口窯)。	東地区Ⅱ層
	2		碗	底部	底径5.6cm。高台脇に平坦に削る。釉は１Hue5Y7/1灰白で失透し、外面の腰部まで施釉され、外底は露胎する。貫入あり。素地はHue10Y8/2灰白で、微細な黒色鉱物を含む。ビロースクⅡ類(閩清窯)。	
	3	青磁	碗	底部	底径6.0cm。高台は角形を呈し、畳付のみ露胎する。釉は淡緑色で透過性が高く、貫入あり。素地はHue10Y7/1灰白。	
	4		碗	口縁部	口径は20.6cm。口唇部は舌状をなし、比較的薄手で微弱に外反する。内面に2本の陰圏線を有する。釉は緑色で失透し貫入なし。素地はHue7.5Y7/1灰白。	
	5		碗	口縁部	口径は13.6cm。外面の細蓮弁文は、縦位の線を密に書き入れ上部の花弁部分を書き入れる。釉は緑色で失透し、貫入あり。素地はHue7.5Y6/1灰で微細な白色と黒色の鉱物を含む。	
	6		碗	底部	底径5.6cm。外面は畳付まで施釉され外底部は露胎。内底は、輪状に釉剥ぎし印花を刻す。釉は緑色で失透し貫入あり。素地はHue7.5Y8/3淡黄でやや軟質。	
	7		碗	底部	底径4.8cm。畳付部分は、内外面とも斜位に削り込む。外面は、その斜位の部分から外底まで露胎する。外底はヘソ削りを行う。釉あ濃緑色で貫入あり。素地はHue7.5Y6/1灰で白色の鉱物を含む。	
	8		皿	底部	底径5.0cm。内面に丸彫りの蓮弁文を施す。外底は釉剥ぎし露胎する。釉厚は1mmほどとやや厚く、釉色は緑色で貫入あり。素地はHue7.5Y8/1灰白で微差な黒色鉱物を含む。	
	9		盤	口縁部	口径29.6cm。鍔縁の口縁部。内面に丸彫による蓮弁文を施す。釉は淡緑色で失透し貫入あり。Hue7.5Y8/1灰白色。	
	10	黒釉陶器	小碗	底部	底径3.4cm。高台脇は水平に削り、底部も外縁側から斜位に削る。外面は腰部以下が露胎する。釉はHue5Y4/3暗オリーブで部分的に黒色に変色する。素地はHue7.5Y7/1灰。	
	11	青花	碗	底部	底径8.2cm。内底は饅頭心状を呈し、花文を施文し蛇の目に釉剥ぎする。畳付けも露胎する。釉はHue2.5GY8/1灰白で貫入あり。高台脇を僅かに水平に削る。福建・広東系。	
	12	中国産褐釉陶器	壺	口縁部	口径10.0cm。口縁部を外側に折りこみ肥厚させる。器壁は約5mmと薄手で小型の壺である。釉は外面がHue7.5Y5/2灰オリーブで内面はHue7.5Y3/2オリーブ黒と色調が異なり失透する。素地はHue7.5YR4/4褐で、白色鉱物を含む。	
	13		壺	口縁部	口径12.4cm。口縁部を外側に折りこみ肥厚させる。釉はHue7.5Y5/3灰オリーブで失透する。素地はHue5YR5/6明赤褐で白色鉱物を含む。	
第21図・図版18	1	沖縄産施釉陶器	碗	口縁～底部	口径7.0cm、底径6.4cm、器高5.5cm。器形は灰釉碗と同様で、釉はオリーブ黒を呈す。内底は輪状に蛇の目に釉剥ぎされる。	東地区Ⅱ層
	2		碗	口縁部	口径13.6cm。口縁部は微弱に外反する。フィガキによる施釉で、釉はHue5Y5/4オリーブで、発色の悪い部分もみられる。素地はHue10Y7/1灰白。	
	3	沖縄産施釉陶器	小碗	胴部～底部	底径3.6cm。外面は8面の面取りを行う。外面の畳付とその周辺部は露胎し、内底は蛇の目に釉剥ぎする。白化粧に透明釉を施し、貫入あり。素地はHue7.5Y8/3浅黄で軟質。	

第 12 表　東地区出土遺物観察表②

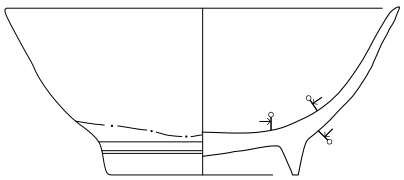
図版・図番号	No.	遺物種	器種	部位	観察	出土地・層
第21図・図版18	4	土器	鍋	外耳	胎土は外間分類のⅠ類に属し、野城土器である。耳の平面形は舌状をなし、断面形は山形をなす。貼付時の指押えが部分的に残る。胎土はHue2.5Y5/6黄褐をなすが、内面は黒味が強い。器面、断面とも明確な混入物は確認できない。	東地区Ⅱ層
	5		鉢	口縁部	胎土は外間分類のⅣ類に属す。直口した口縁で、口唇部は丸みをおびる。外面は器面の剥落が激しく部分的な指ナデ調整が確認できるのみである。内面は、横位の指ナデ調整を密に施している。	
	6		鉢	口縁部	胎土は外間分類のⅣ類に属す。口縁部は直口する。外面は指ナデ調整を施し、内面は指ナデ調整とともに、口唇部付近に幅の狭いヘラ状の工具による横位の調整を施している。	
	7		壺	口縁部	口径20.0cm。胎土は外間分類のⅣ類に属す。口縁部は直口する。外面は頸部以下は斜位に指ナデでナデ上げ、口縁部はやや横位の指ナデ調整を施す。内面は全体的に斜位の指ナデ調整を行う。	
	8		壺	口縁部	胎土は外間分類のⅤ類に属す。口縁部は強く外反する。内外面とも単位を明確にとらえることができないが、磨き調整を施す。比較的硬質な土器である。	
第22図・図版19	1	肥前陶器	碗	底部	底径5.0cm。銅緑釉を施釉し、内底は蛇の目釉剥ぎし、外面は腰部以下が露胎する。畳付の外側に削りこみ、外底も輪状に削りこむ。素地はHue7.5Y8/3浅黄で微細な黒色鉱物を含む。	土坑1
	2	土器	浅鉢	口縁部	口径18.0cm。胎土分類は外間分類Ⅳ類に属す。口縁は直口し肩がはり、最大径は胴上部に位置する。外面が横位の指ナデ調整、内面は肩部までは縦位にナデ上げ、口縁部は横位の指ナデ調整を行う。	
第23図・図版20	1	青磁	碗	口縁部	口径10.8cm。口縁部は直口する。外面の口縁部に1条の圏線。外面は轆轤痕が残る。釉は緑色で失透する。素地はHue7.5Y8/1灰白。	pit152
	2		碗	底部	底径5.2cm。畳付の断面形は三角形をなす。内底に印花を施す。釉は薄い緑色で透過性は低い。畳付から外底は露胎する。	pit128
	3	中国産褐釉陶器	壺	口縁部	口径18.6cm。Ⅰa類。口縁部は外側に折りこみ肥厚させる。釉はHue4/1灰で失透する。素地はHue7.5YR5/6明褐で、白色鉱物を多く含む。	pit174
	4		壺	口縁部	口径14.0cm。Ⅰa類。3に比べると小型の壺である。口縁部が底側に折りこみL字型に成形し、口唇部は平坦に面をもってしあげる。釉は黒褐を呈すが、外面部の釉は剥がれ落ち、内面の釉も失透し粗雑である。素地はHue10YR5/6黄褐で微細な白色鉱物を含む。	pit137
第24図・図版21	1	青磁	碗	口縁部	口径17.8cm。無文で口縁部は緩やかに外反する。内面に一条の圏線。釉は薄い緑色で失透する。素地は、Hue7.5Y8/1灰白。	東地区Ⅱ層
	2		皿	底部	底径4.6cm。内底は中央部が凸する。外底は蛇の目に釉剥ぎする。釉は緑色で貫入あり。素地はHue10Y8/1灰白。	
	3	青花	碗	口縁部	外面に渦巻文と思われる文様を施文。内外面とも腰部以下は露胎する。呉須の発色は悪い。素地はHue7.5Y8/3浅黄。	
	4	土器	浅鉢	口縁部	口縁部は直口し、肩部がはる器形をなす。外面と内面の口縁部は磨き調整で仕上げを施すが、内面の肩部以下には縦位の指ナデ調整が残る。胎土は外間分類のⅣ類に属し、Hue5Y6/4オリーブ黄。	
	5		浅鉢	口縁部	口径21.0cm。口縁部は直口し、肩部がはる。内外面とも器面の剥落が激しいが外面は部分的に磨き調整の痕が残る。内面には横位置の指ナデ調整が施される。胎土は外間分類のⅣ類に属し、Hue2.5Y6/4にぶい黄。	
	6	沖縄産施釉陶器	碗	底部	底径6.2cm。灰釉碗。内底部には褐色の化粧土を塗布し、フィガキによる施釉を行う。内底の化粧土は蛇の目に掻く。釉は透過性が高く、貫入有り。素地はHue10Y7/2灰白	



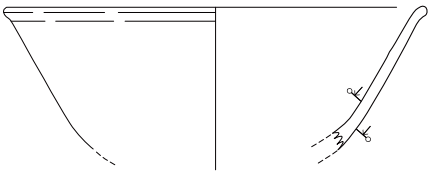
第 20 図　東地区Ⅱ層出土遺物①



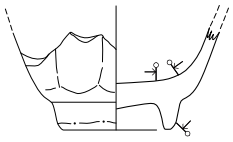
図版 17　東地区Ⅱ層出土遺物



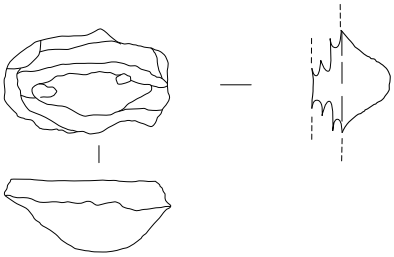
1



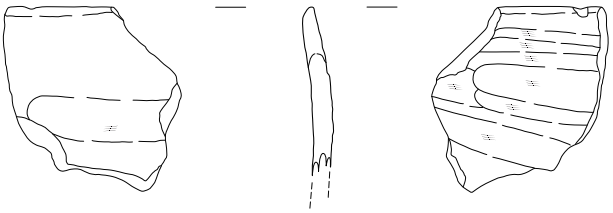
2



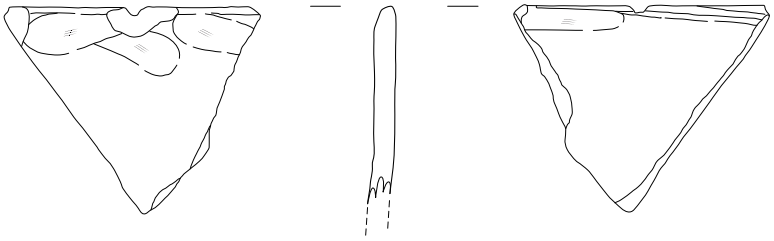
3



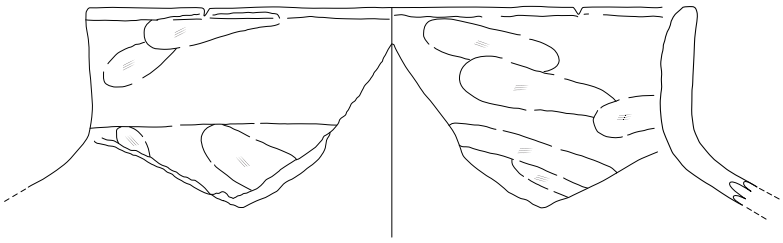
4



5



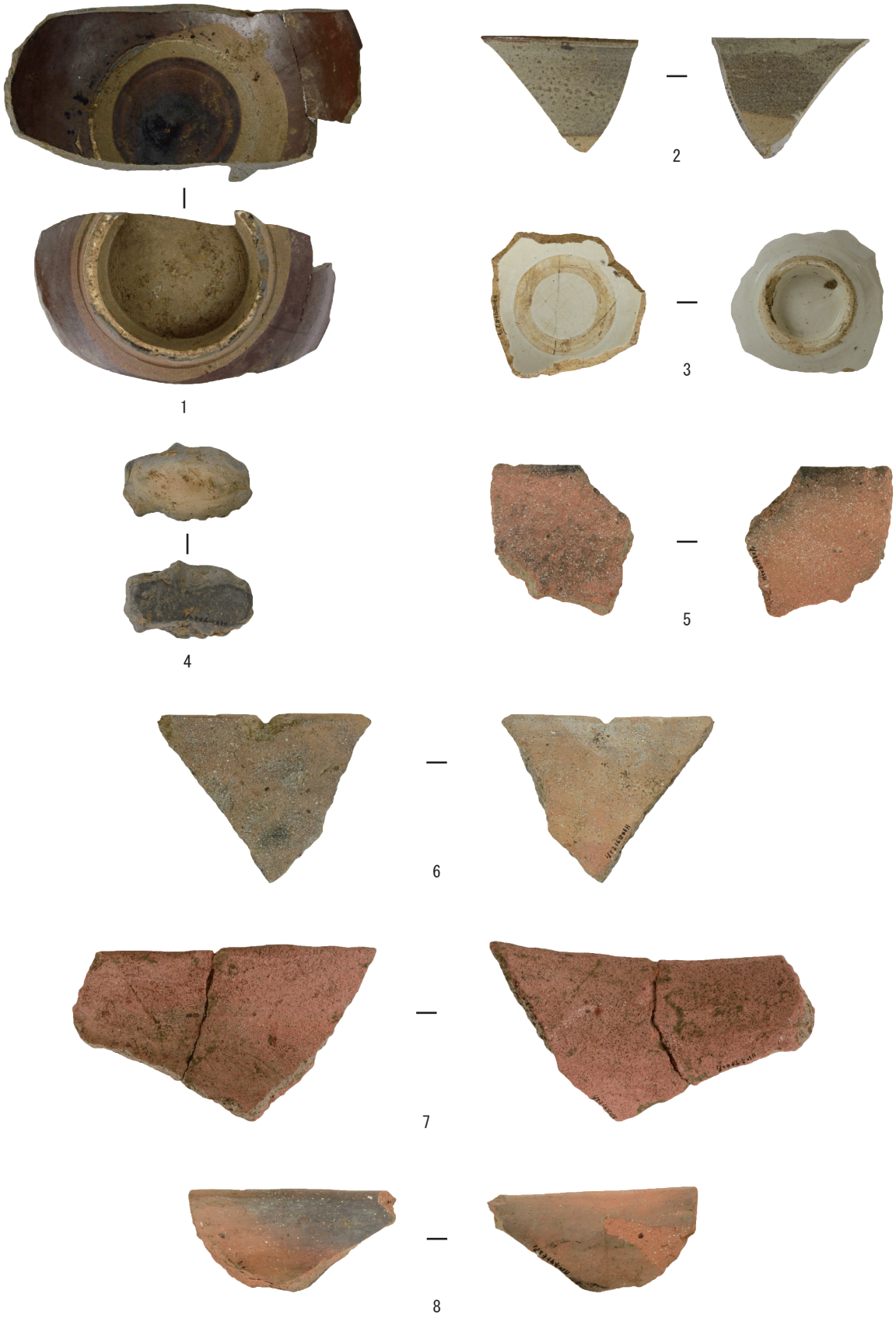
6



7

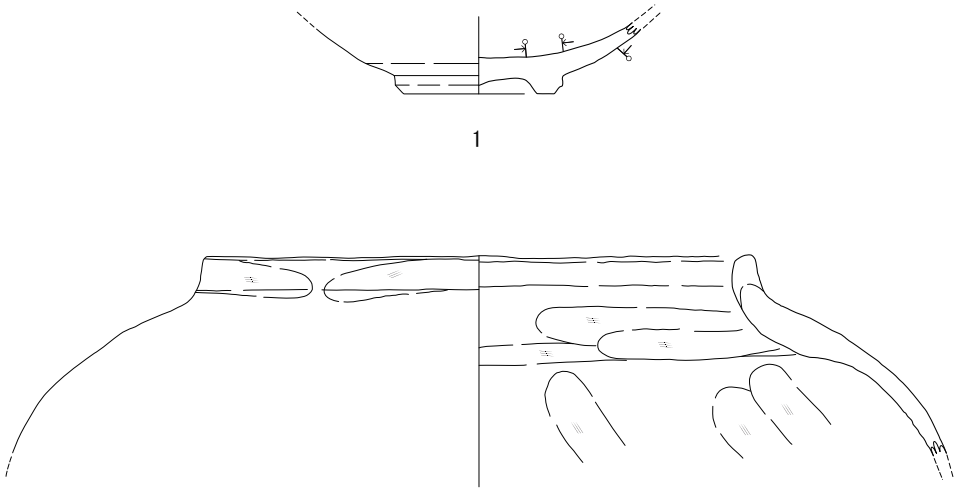
8

第 21 図　東地区Ⅱ層出土遺物②

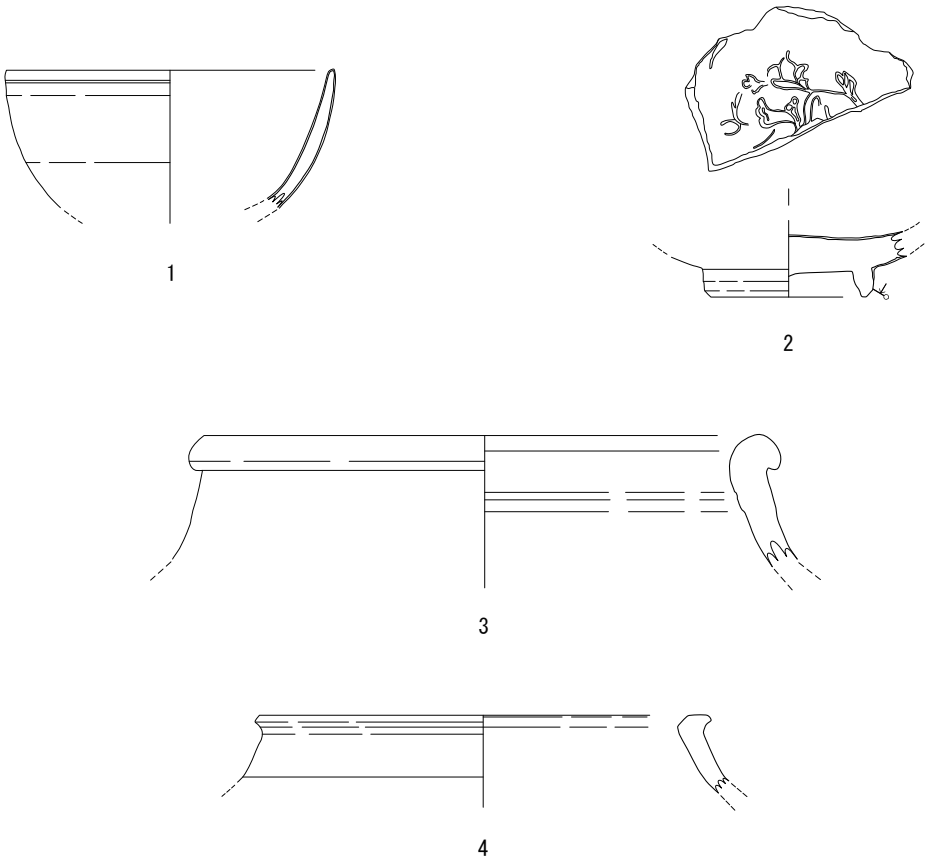


図版 18　東地区Ⅱ層出土遺物②

0　5　10 cm (S=2/5)



第 22 図　東地区土坑 1 出土遺物



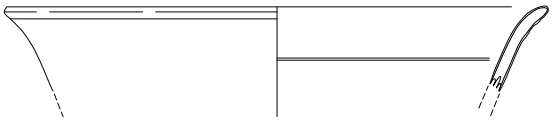
第 23 図　東地区 pit 内出土遺物

図版 19　東地区土坑 1 出土遺物

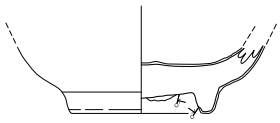
0　5　10 cm (S=2/5)

図版 20　東地区 pit 内出土遺物

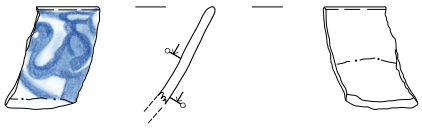
0　5　10 cm (S=2/5)



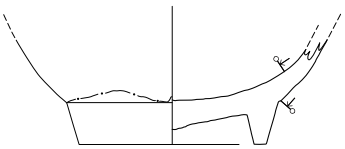
1



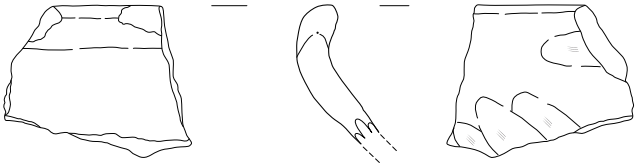
2



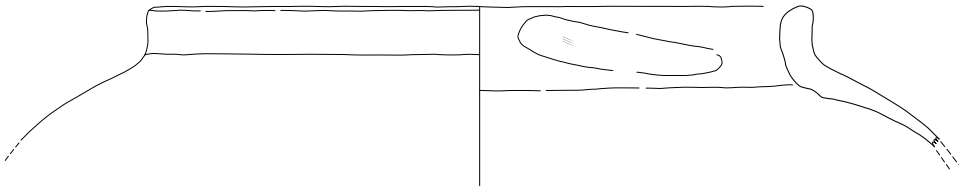
3



6



4



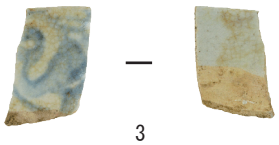
5

第24図　東地区Ⅰ層出土遺物

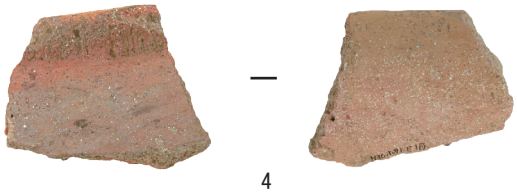
0　5　10 cm (S=2/5)

1

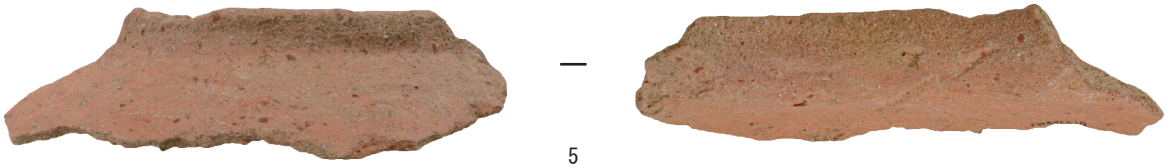
2



3



4



5

6

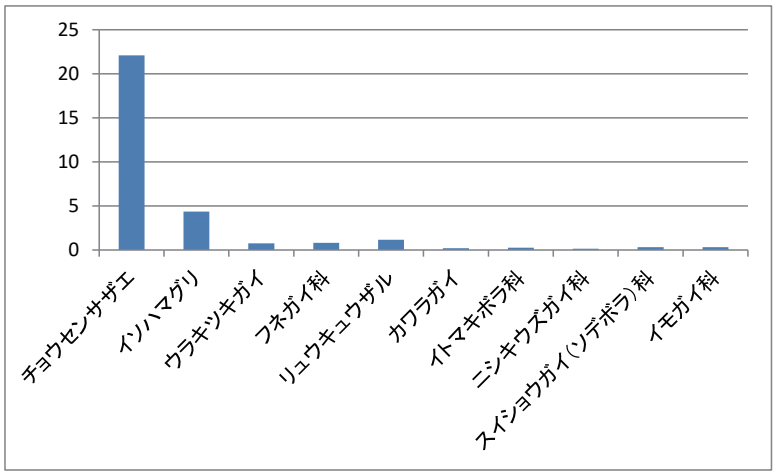
図版 21　東地区Ⅰ層出土遺物

0　5　10 cm (S=2/5)

第４節　貝類遺体

保里遺跡は、西地区の土坑１を中心に多くの貝類遺体が出土している。土坑１は前述したように貝類遺体の他にも、ウシやブタ、魚骨などの動物遺体や、中国産陶磁器、土器もあわせて多量に出土しており、15 世紀中頃から 16 世紀にかけてのゴミ捨て場のような廃棄土坑であるといえる。

しかし、土坑１では、貝類が非常にまとまった状態で出土している状況が確認できる（下記写真参照）これは、食料残滓としての貝類をまとめて廃棄した状態を示すものとみられ、その貝類遺体の堆積自体は薄いことから、短期間に廃棄された貝類遺体である考えられる。土坑１から出土する貝類遺体を重量で示したのが第 19 図である。出土点数、重量ともチョウセンサザエが主体をなしており、イソハマグリがそれについでいる。このような出土傾向からも、15 世紀中頃から 16 世紀にかけて保里遺跡においては、チョウセンサザエの食用頻度が高かった可能性を示すものといえる。また、貝類遺体の出土状況から、イソハマグリは一定の範囲にまとまっており（写真の円の範囲）、廃棄の方法としても、異なる貝種ごとに廃棄を行っていたことも推察される。



第 25 図　西地区土坑１出土の主要貝類の重量

写真 35　西地区土坑１の貝類遺体集中出土状況

第 13 表　西地区貝類遺体集計表①

	科名	貝種名	生息地	西地区・Ⅱ層			西地区・土坑1			西地区・土坑2			西地区・土坑3			西地区・土坑4			西地区・土坑5			西地区・土坑6			西地区・土坑7		
				完形	穀頂	破片	完形	穀頂	破片	完形	穀頂	破片	完形	穀頂	破片	完形	穀頂	破片	完形	穀頂	破片	完形	穀頂	破片	完形	穀頂	破片
巻貝	ニシキウズガイ科	ギンタカハマ		1	3	7	1																				
		ニシキウズ				16	2	1																			
		ムラサキウズ				2	1																				
		サラサバテイ		1		9				1		1	1		2												
		種類不明				21	1		4																		
	サザエ科（リュウテン科）	チョウセンサザエ		82	46	337	487	35	94	2	2	5	38	1	6		1	7	2	2	20	2			1		
		チョウセンサザエの蓋		273	4	3	308	3	1	6	3		9			3			19	1		1					
		カンギク		1																							
		リュウテン																									
		ヤコウガイ				11			1									1			1						
	アマオブネガイ科	ニシキアマオブネ		6		2	12																				
		アマオブネガイ		1		1	2		4																		
		ヒメインダタミアマオブネ					6																				
		マングローブアマガイ																		1							
		マルアマオブネ																	1								
		コシダカアマガイ		3		1																					
		キバアマガイ		6		10	18		16																		
		種類不明				7	1		7																		
	オニノツノガイ科	ハナカニモリ					3																				
		ホソコオロギ																	1								
		種類不明					4														1						
	フトヘナタリ科	マドモチウミニナ								1									1								
		カワアイ		4																							
	ソデボラ科（スイショウガイ科）	マガキガイ		22	21	4	13	16	6				1						3	14	9						
		フトヌジムカシタモト					1																				
		クモガイ		1		1															2						
		ネジマカギ					1	1																			
		種類不明		2	27	32																					
	タカラガイ科	ハナマルユキ			10	9				2			2		1			1		3	3						
		ハチジョウダカラ		1		2			1																		
		ホシキヌタ																									
		ホシダカラ			1	1																					
		コモンダカラ					1																				
		ヤクシマダカラ			1	1																					
		ハナビラダカラ			2	1	1												1								
		キイロダカラ			1																						
		種類不明			1	23		10	12						1						4	1					
	フジツガイ科	ホラガイ				4						1			1						4						
	タマガイ科	ホウシュノタマ		2			1																				
		リスガイ		1																							
		種類不明					1																				
	アッキガイ科	ツノレイシ					2																				
		シラクモガイ								1																	
		ムラサキイガレイシ																	1								
		種類不明		2		1	2																				
	オニコブシガイ科	コオニコブシ		3			1			1	1		1														
		種類不明			1				1																		
	フトコロガイ科	フトコロガイ		1									1														
	イトマキボラ科	ヒメイトマキボラ		4			7		6										1								
		チトセボウ				1						1															
		種類不明																									
	ナツメガイ科	種類不明				1																					
	スズメガイ科	キクスズメ		1																							
	ムシロガイ科	ヨフバイモドキ		1																							
	ウミニナ科	イボウミニナ		1									1								1	1					
		種類不明			1																						
	フデガイ科	種類不明				1																					
	トウガタカワニナ科	ヌノメカワニナ		1		1																					
		スダカワニナ								1									1								
	トウガタガイ科	種類不明				2																					
	タマキビ科	コンペイトウガイ					7																				
	イモガイ科	アンボンクロザメ						1												1							
		ナンヨウクロミナシ			1		1																				
		ハナワイモ					1																				
		サヤガタイモ								1																	
		クロザメモドキ		1																							
		ダイミョウイモ																									
		マダライモ		1																							
		種類不明		8	9	13		2	4												4						
二枚貝	フネガイ科	ベニエガイ																						1			
		フネガイ																	1		1						
		種類不明		15	6	24	499	41	98	1						1			4								
	イガイ科	種類不明			1	1																					
	ウミギク科	種類不明		2				1	2						1												
	ツキガイ科	ウラキツキガイ		19		6	191	5	10	1			1						3								
		種類不明															1										
	キクザル科	種類不明		2	1				1																		
	カゴガイ科	チヂミカゴガイ										1															
		カゴガイ										1															
		種類不明				3		1																			
	ザルガイ科	カワラガイ		3	2	2	27	1				1	2									1					
		リュウキュウザル		29	14	183	159	5	163	1		1							1	1	1						
		種類不明																			4			1			
	シャコガイ科	ヒレシャコガイ				1			1																		
		ヒレナシシャコガイ				1																					
		ヒメシャコガイ			1	4	1	1	2				1														
		シャゴウガイ				1							1														
		シラナミガイ			4				4			1						1									
		種類不明				22			11									1			3						
	チドリマスオ科	イソハマグリ		844	454	13	4544	331	77	33			223	9		9	6	2	160	4	1	12	3		1	1	
		ナミノコマスオ		10			21						5						3								
	バカガイ科	リュウキュウバカガイ		4	6								1		1				2	1	4						
		種類不明			1		30	27																			
	ニッコウガイ科	リュウキュウシラトリ				2																					
		サメザラ				1																					
		種類不明																	2								
	シオサザナミ科	リュウキュウマスオ		1	1	1	1													2	7			1			
	マルスダレガイ科	リュウキュウアサリ		4	3	7	28	24	35										1	1	13				2		1
		ヒメリュウキュウアサリ		4	2	1	57	31	10												2						
		ホソスジイナミガイ			1	1	11												1								
		ケンショウオミナエシ					2																				
		カノコアサリ		2																							
		ヌノメガイ				4											1										
		ウスハマグリ		2			2	3											1								
		シラオガイ					2	1																			
		ガンギハマグリ					10		2																		
		オイノカガミ		1	5		8	1												1	3						
		あさり？						35	364																		
		ハマグリの一種					1	9	9																		
		種類不明			1	51														5	24						
	アサジガイ科	アサジガイ		1																							
	イタヤガイ科	シナイタヤ				1																					
	ヨメガカサガイ科	オオベッコウガサ		3		1																					
	フジノハナガイ科	フジノハナガイ											4						1								
		リュウキュウナミノコ		1																		2					
	イタボガキ科	種類不明																									
	ウグイスガイ科	種類不明			2																			1			
多板網	クサズリガイ科	リュウキュウヒザラガイ				2						1															
不明	科不明	種類不明				371		6	384			8			3			5			44		1	4			
頭足網	コウイカ	コウイカ													1												
軟甲網	カニ？？科	かにのつめ・不明																			2						
腔腸	オナジマイマイ科	オキナワウスカワマイマイ		82	67	290	68	25	144	1			373	15	97	3		2	13		4						
		アカマイマイ		18		4				2						2											
		種類不明																									
	キセルガイ科	ミヤコギセル		2								2															
		種類不明																						1			
	ヤマタニシ科	ミヤコヤマタニシ		9		3	3		2	1									5					2			
	アフリカマイマイ科	アフリカマイマイ		6		17						1															

第 14 表　西地区貝類遺体集計表②

	科名	貝種名	生息地	西地区・土坑8			西地区・土坑9			西地区・土坑10			西地区・土坑12			西地区・土坑14			西地区・土坑15			西地区・土坑16			西地区・土坑17		
				完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片
巻貝	ニシキウズガイ科	ギンタカハマ																									
		ニシキウズ																									
		ムラサキウズ																									
		サラサバテイ																									
		種類不明										2															
	サザエ科（リュウテン科）	チョウセンサザエ		1			1		1	30		3				3	1	2	5		2		2	2			
		チョウセンサザエの蓋								7						3			5								
		カンギク																									
		リュウテン								1																	
		ヤコウガイ										3															
	アマオブネガイ科	ニシキアマオブネ																									
		アマオブネガイ																									
		ヒメイシダタミアマオブネ																									
		マングローブアマガイ																									
		マルアマオブネ																									
		コシダカアマガイ																									
		キバアマガイ																									
		種類不明																									
	オニノツノガイ科	ハナカニモリ																									
		ホソコオロギ																									
		種類不明																									
	フトヘナタリ科	マドモチウミニナ																									
		カワアイ																									
	ソデボラ科（スイショウガイ科）	マガキガイ								7	3	2															
		フトスジムカシタモト																									
		クモガイ										2															
		ネジマカギ																									
		種類不明																									
	タカラガイ科	ハナマルユキ								7													1				
		ハチジョウダカラ																									
		ホシキヌタ								1																	
		ホシダカラ																									
		コモンダカラ																									
		ヤクシマダカラ																									
		ハナビラダカラ																									
		キイロダカラ																									
		種類不明										3															
	フジツガイ科	ホラガイ										1															
	タマガイ科	ホウシュノタマ																									
		リスガイ																									
		種類不明																									
	アッキガイ科	ツノレイシ																									
		シラクモガイ																									
		ムラサキイガレイシ																									
		種類不明									1																
	オニコブシガイ科	コオニコブシ																									
		種類不明																									
	フトコロガイ科	フトコロガイ																									
	イトマキボラ科	ヒメイトマキボラ								1																	
		チトセボウ																									
		種類不明										1															
	ナツメガイ科	種類不明																									
	スズメガイ科	キクスズメ																									
	ムシロガイ科	ヨフバイモドキ																									
	ウミニナ科	イボウミニナ																									
		種類不明																									
	フデガイ科	種類不明																									
	トウガタカワニナ科	ヌノメカワニナ																									
		スグカワニナ																									
	トウガタガイ科	種類不明																									
	タマキビ科	コンペイトウガイ																									
	イモガイ科	アンボンクロザメ																									
		ナンヨウクロミナシ																									
		ハナワイモ																									
		サヤガタイモ																									
		クロザメモドキ										1															
		ダイミョウイモ																									
		マダライモ								1																	
		種類不明									2	1															
二枚貝	フネガイ科	ベニエガイ																									
		フネガイ																									
		種類不明									1																
	イガイ科	種類不明																									
	ウミギク科	種類不明								1																	
	ツキガイ科	ウラキツキガイ														2											
		種類不明																									
	キクザル科	種類不明																									
	カゴガイ科	チヂミカゴガイ																									
		カゴガイ																									
		種類不明																									
	ザルガイ科	カワラガイ																									
		リュウキュウザル		1														1						1			
		種類不明																									
	シャコガイ科	ヒレシャコガイ																									
		ヒレナシシャコガイ								1																	
		ヒメシャコガイ								1		1															
		シャゴウガイ																									
		シラナミガイ																									
		種類不明										7			2			1			1						
	チドリマスオ科	イソハマグリ		8			2			186	7	2				10	4		10			8				1	
		ナミノコマスオ		1																							
	バカガイ科	リュウキュウバカガイ								2																	
		種類不明																									
	ニッコウガイ科	リュウキュウシラトリ																									
		サメザラ																									
		種類不明																									
	シオサザナミ科	リュウキュウマスオ																									
	マルスダレガイ科	リュウキュウアサリ								1							1										
		ヒメリュウキュウアサリ																									
		ホソスジイナミガイ																									
		ケンショウオミナエシ																									
		カノコアサリ																									
		ヌノメガイ																									
		ウスハマグリ																									
		シラオガイ																									
		ガンギハマグリ																									
		オイノカガミ								1																	
		あさり？																									
		ハマグリの一種																									
		種類不明										1						7									
	アサジガイ科	アサジガイ																									
	イタヤガイ科	シナイタヤ																									
	ヨメガカサガイ科	オオベッコウガサ																									
	フジノハナガイ科	フジノハナガイ								5																	
		リュウキュウナミノコ																									
	イタボガキ科	種類不明																									
	ウグイスガイ科	種類不明																									
多板網	クサズリガイ科	リュウキュウヒザラガイ										1															
不明	科不明	種類不明				1						22			5									5			1
頭足網	コウイカ	コウイカ																									
軟甲網	カニ？？？科	かにのつめ・不明																									
陸産	オナジマイマイ科	オキナワウスカワマイマイ								54	12	58				2											
		アカマイマイ								5	1	1															
		種類不明													2												
	キセルガイ科	ミヤコギセル																									
		種類不明																									
	ヤマタニシ科	ミヤコヤマタニシ								1																	
	アフリカマイマイ科	アフリカマイマイ																									

第 15 表　西地区貝類遺体集計表③

	科名	貝種名	生息地	西地区・土坑18			西地区・pit1			西地区・pit9			西地区・pit10			西地区・pit41			西地区・pit45			西地区・pit50			西地区・pit61		
				完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片
巻貝	ニシキウズガイ科	ギンタカハマ																									
		ニシキウズ																									
		ムラサキウズ																									
		サラサバテイ				1																					
		種類不明				1																					
	サザエ科（リュウテン科）	チョウセンサザエ			3	8		3	24																		
		チョウセンサザエの蓋		3		1	1																		1		
		カンギク																									
		リュウテン																									
		ヤコウガイ																									
	アマオブネガイ科	ニシキアマオブネ																									
		アマオブネガイ																									
		ヒメイシダタミアマオブネ																									
		マングローブアマガイ																									
		マルアマオブネ																									
		コシダカアマガイ																									
		キバアマガイ					1																				
		種類不明																									
	オニノツノガイ科	ハナカニモリ																									
		ホソコオロギ																									
		種類不明																									
	フトヘナタリ科	マドモチウミニナ																									
		カワアイ																									
	ソデボラ科（スイショウガイ科）	マガキガイ			4	2																					
		フトスジムカシタモト																									
		クモガイ																									
		ネジマカギ																									
		種類不明																									
	タカラガイ科	ハナマルユキ																									
		ハチジョウダカラ				1																					
		ホシキヌタ																									
		ホシダカラ																									
		コモンダカラ																									
		ヤクシマダカラ																									
		ハナビラダカラ																									
		キイロダカラ																									
		種類不明			2	1																					
	フジツガイ科	ホラガイ																									
	タマガイ科	ホウシュノタマ																									
		リスガイ																									
		種類不明																									
	アッキガイ科	ツノレイシ																									
		シラクモガイ																									
		ムラサキイガレイシ																									
		種類不明																									
	オニコブシガイ科	コオニコブシ																									
		種類不明																									
	フトコロガイ科	アトコロガイ																									
	イトマキボラ科	ヒメイトマキボラ																									
		チトセボウ																									
		種類不明																									
	ナツメガイ科	種類不明																									
	スズメガイ科	キクスズメ																									
	ムシロガイ科	ヨフバイモドキ																									
	ウミニナ科	イボウミニナ																									
		種類不明																									
	フデガイ科	種類不明																									
	トウガタカワニナ科	ヌノメカワニナ																									
		スグカワニナ																									
	トウガタガイ科	種類不明																									
	タマキビ科	コンペイトウガイ																									
	イモガイ科	アンボンクロザメ																									
		ナンヨウクロミナシ																									
		ハナワイモ																									
		サヤガタイモ																									
		クロザメモドキ																									
		ダイミョウイモ																									
		マダライモ																									
		種類不明			1	1							1					1									
二枚貝	フネガイ科	ベニエガイ																									
		フネガイ																									
		種類不明																									
	イガイ科	種類不明																									
	ウミギク科	種類不明																									
	ツキガイ科	ウラキツキガイ		3																							
		種類不明				1																					
	キクザル科	種類不明																									
	カゴガイ科	チヂミカゴガイ																									
		カゴガイ																									
		種類不明																									
	ザルガイ科	カワラガイ																					1				
		リュウキュウザル		1		1			1																		
		種類不明																									
	シャコガイ科	ヒレシャコガイ																									
		ヒレナシシャコガイ																									
		ヒメシャコガイ																									
		シャゴウガイ																									
		シラナミガイ																									
		種類不明				1																					
	チドリマスオ科	イソハマグリ		47	18	1	5	1											2								
		ナミノコマスオ																									
	バカガイ科	リュウキュウバカガイ																									
		種類不明																									
	ニッコウガイ科	リュウキュウシラトリ																									
		サメザラ																									
		種類不明																									
	シオサザナミ科	リュウキュウマスオ			1																						
	マルスダレガイ科	リュウキュウアサリ							11																		
		ヒメリュウキュウアサリ																									
		ホソスジイナミガイ																									
		ケンショウオミナエシ																									
		カノコアサリ																									
		ヌノメガイ																									
		ウスハマグリ																									
		シラオガイ																									
		ガンギハマグリ																									
		オイノカガミ				1																					
		あさり？																									
		ハマグリの一種																									
		種類不明																									
	アサジガイ科	アサジガイ																									
	イタヤガイ科	シナイタヤ																									
	ヨメガカサガイ科	オオベッコウガサ																									
	フジノハナガイ科	フジノハナガイ																									
		リュウキュウナミノコ																									
	イタボガキ科	種類不明																									
	ウグイスガイ科	種類不明																									
多板綱	クサズリガイ科	リュウキュウヒザラガイ																									
不明	科不明	種類不明				22			1						1												
頭足綱	コウイカ	コウイカ																									
軟甲綱	カニ？？？科	かにのつめ・不明																									
腔腸	オナジマイマイ科	オキナワウスカワマイマイ		11	1	6		4	10	23		2	94	7	22												
		アカマイマイ		9		6																					
		種類不明																									
	キセルガイ科	ミヤコギセル																									
		種類不明																									
	ヤマタニシ科	ミヤコヤマタニシ		2		2							2										1				
	アフリカマイマイ科	アフリカマイマイ																									

第 16 表　西地区貝類遺体集計表④

	科名	貝種名	生息地	西地区・pit136			西地区・pit137			西地区・pit149			西地区・pit154			西地区・pit161		
				完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片
巻貝	ニシキウズガイ科	ギンタカハマ																
		ニシキウズ																
		ムラサキウズ																
		サラサバテイ																
		種類不明							1									
	サザエ科（リュウテン科）	チョウセンサザエ																
		チョウセンサザエの蓋																
		カンギク																
		リュウテン																
		ヤコウガイ																
	アマオブネガイ科	ニシキアマオブネ																
		アマオブネガイ																
		ヒメイシダタミアマオブネ																
		マングローブアマガイ																
		マルアマオブネ																
		コシダカアマガイ																
		キバアマガイ																
		種類不明																
	オニノツノガイ科	ハナカニモリ																
		ホソコオロギ																
		種類不明																
	フトヘナタリ科	マドモチウミニナ																
		カワアイ																
	ソデボラ科（スイショウガイ科）	マガキガイ				1												
		フトスジムカシタモト																
		クモガイ																
		ネジマカギ																
		種類不明																
	タカラガイ科	ハナマルユキ																
		ハチジョウダカラ																
		ホシキヌタ																
		ホシダカラ																
		コモンダカラ																
		ヤクシマダカラ																
		ハナビラダカラ																
		キイロダカラ																
		種類不明													2			
	フジツガイ科	ホラガイ													1			
	タマガイ科	ホウシュノタマ																
		リスガイ																
		種類不明																
	アッキガイ科	ツノレイシ																
		シラクモガイ																
		ムラサキイガレイシ																
		種類不明																
	オニコブシガイ科	コオニコブシ																
		種類不明																
	フトコロガイ科	アトコロガイ																
	イトマキボラ科	ヒメイトマキボラ																
		チトセボウ																
		種類不明																
	ナツメガイ科	種類不明																
	スズメガイ科	キクスズメ																
	ムシロガイ科	ヨフバイモドキ																
	ウミニナ科	イボウミニナ																
		種類不明											1					
	フデガイ科	種類不明																
	トウガタカワニナ科	ヌノメカワニナ																
		スグカワニナ																
	トウガタガイ科	種類不明																
	タマキビ科	コンペイトウガイ																
	イモガイ科	アンボンクロザメ																
		ナンヨウクロミナシ																
		ハナワイモ																
		サヤガタイモ																
		クロザメモドキ																
		ダイミョウイモ													1			
		マダライモ																
		種類不明																
二枚貝	フネガイ科	ベニエガイ																
		フネガイ																
		種類不明													1			
	イガイ科	種類不明																
	ウミギク科	種類不明																
	ツキガイ科	ウラキツキガイ																
		種類不明																
	キクザル科	種類不明																
	カゴガイ科	チヂミカゴガイ																
		カゴガイ																
		種類不明																
	ザルガイ科	カワラガイ																
		リュウキュウザル																
		種類不明																
	シャコガイ科	ヒレシャコガイ																
		ヒレナシシャコガイ																
		ヒメシャコガイ												2				
		シャゴウガイ																
		シラナミガイ													1			
		種類不明																
	チドリマスオ科	イソハマグリ			1	1	2	1		1			8	2				
		ナミノコマスオ												1				
	バカガイ科	リュウキュウバカガイ																
		種類不明																
	ニッコウガイ科	リュウキュウシラトリ																
		サメザラ																
		種類不明																
	シオサザナミ科	リュウキュウマスオ																
	マルスダレガイ科	リュウキュウアサリ													3			
		ヒメリュウキュウアサリ																
		ホソスジイナミガイ																
		ケンショウオミナエシ																
		カノコアサリ																
		ヌノメガイ																
		ウスハマグリ																
		シラオガイ																
		ガンギハマグリ																3
		オイノカガミ																
		あさり？																
		ハマグリの一種																
		種類不明																
	アサジガイ科	アサジガイ																
	イタヤガイ科	シナイタヤ																
	ヨメガカサガイ科	オオベッコウガサ																
	フジノハナガイ科	フジノハナガイ																
		リュウキュウナミノコ																
	イタボガキ科	種類不明									1							
	ウグイスガイ科	種類不明																
多板綱	クサズリガイ科	リュウキュウヒザラガイ																
不明	科不明	種類不明							2									
頭足綱	コウイカ	コウイカ																
軟甲綱	カニ？？？科	かにのつめ・不明																
陸産	オナジマイマイ科	オキナワウスカワマイマイ													2			
		アカマイマイ																
		種類不明																
	キセルガイ科	ミヤコギセル																
		種類不明																
	ヤマタニシ科	ミヤコヤマタニシ																
	アフリカマイマイ科	アフリカマイマイ																

第 17 表　東地区貝類遺体集計表①

	科名	貝種名	生息地	東地区・Ⅰ層			東地区・Ⅱ層			東地区・土坑1			東地区・土坑2			東地区・土坑3			東地区・pit23-2			東地区・pit58			東地区・pit59		
				完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片
巻貝	ニシキウズガイ科	ギンタカハマ							3																		
		ニシキウズ		1		1				1																	
		サラサバテイ					1			1																	
		種類不明				1		1	7																		
	サザエ科（リュウテン科）	チョウセンサザエ		5	10	43	34	35	179	55	10	15										1				1	1
		チョウセンサザエの蓋		31	2	7	112	4	23	29		3															
		コシタカサザエ					1			1	1																
		ヤコウガイ							5																		
	アマオブネガイ科	ニシキアマオブネ							1	8		4															
		アマオブネガイ						1	3																		
		オオマルアマオブネ					3		1																		
		種類不明			1																						
	オニノツノガイ科	オニノツノガイ		1			2																				
		イワカニモニ					2																				
	ソデボラ科（スイショウガイ科）	マガキガイ		6	6		12	16	10	2	3								1								
		クモガイ								1		2															
		種類不明				2			2																		
	タカラガイ科	ハナマルユキ		1	1	1	3	3				2															
		キクシマダカラ							1																		
		ホシキヌタ					1																				
		ハナビラダカラ					2																				
		キイロダカラ					1																				
		種類不明			1	8		4	16																		1
	フジツガイ科	ホラガイ							4																		
	タマガイ科	ホウシュノタマ					1																				
		リスガイ		1																							
	アッキガイ科	ツノレイシ					1																				
		ガンゼキボラ					1																				
		アカイガレイシ					1			1																	
		種類不明						2																			
	オニコブシガイ科	コオニコブシ		1				2		1																	
	イトマキボラ科	ヒメイトマキボラ							1																		
		ナガイトマキボラ							1																		
		ツノマタモドキ		2																							
		種類不明				1																					
	ウミニナ科	イボウミニナ					2																				
	フデガイ科	ナガシマヤタテ		1																							
	タケノコガイ科	ゾウケタケ							1																		
	イモガイ科	アンボンクロザメ								1		2															
		カバミナシ					1																				
		アカシマミナシ						1																			
		ミカドミナシ						1																			
		マダライモ				1	2	1																			
		種類不明			2	5		5	13		1	2						1									
	フネガイ科	種類不明			1		1	3			1																1
	イガイ科	種類不明							2																		
	ウミギク科	種類不明							1																		
	ツキガイ科	ウラキツキガイ		11		6	20	1	8	5															1		
	キクザル科	種類不明			1																						
	ザルガイ科	カワラガイ				4		5	16	2		1															
		ザルガイ																									
		リュウキュウザル			2	7	2	4	24			1															
	シャコガイ科	ヒレシャコガイ		1																							
		ヒレナシシャコガイ						1	1																		
		ヒメシャコガイ							3	1																	
		シャゴウガイ						1		2																	
		シラナミガイ		1	1		1		3	2																	
		種類不明				10			51			3			1			1									
	チドリマスオ科	イソハマグリ		88	12	5	630	77	21	44	8					1						2			2	10	1
		ナミノコマスオ					5			7																	
	バカガイ科	種類不明						1																			
	マルスダレガイ科	リュウキュウアサリ							1																		
		ホソスジイナミガイ		1						1																	
		アラヌノメガイ					2		1	1		1															
		ウスハマグリ								1																	
		ヌノメガイ								1																	
		オイノカガミ								2																	
		種類不明			2			2																			
	タマキガイ科	ソメワケグリ					1																				
	フジノハナガイ科	フジノハナガイ								4																	
		リュウキュウナミノコ		1			5																				
	イタボガキ科	種類不明							1																		
	マクガイ科	種類不明						2																			
不明	科不明	種類不明			1	15			145		1	14															
陸産	オナジマイマイ科	オキナワウスカワマイマイ		1		1		8	29	2		19															
		アカマイマイ				2	2		3																		
	キセルガイ科	ミヤコギセル					2																				
	ヤマタニシ科	ミヤコヤマタニシ								1	1	1															

第 18 表　西地区貝類遺体集計表②

	科名	貝種名	生息地	東地区・pit65-3			東地区・pit69			東地区・pit82			東地区・pit83-2			東地区・pit111-1			東地区・pit188			東地区・pit160		
				完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片
巻貝	ニシキウズガイ科	ギンタカハマ																						
		ニシキウズ																						
		サラサバテイ																						
		種類不明																					1	
	サザエ科（リュウテン科）	チョウセンサザエ																	1					
		チョウセンサザエの蓋														1								
		コシタカサザエ																					1	
		ヤコウガイ																						
	アマオブネガイ科	ニシキアマオブネ																						
		アマオブネガイ																						
		オオマルアマオブネ																						
		種類不明																						
	オニノツノガイ科	オニノツノガイ																						
		イワカニモニ																						
	ツデボラ科（スイショウガイ科）	マガキガイ																					1	
		クモガイ																						
		種類不明																						
	タカラガイ科	ハナマルユキ																						
		キクシマダカラ																						
		ホシキヌタ																						
		ハナビラダカラ																						
		キイロダカラ																						
		種類不明								1													1	
	フジツガイ科	ホラガイ																						
	タマガイ科	ホウシュノタマ																						
		リスガイ																						
	アッキガイ科	ツノレイシ																						
		ガンゼキボラ																						
		アカイガレイシ																						
		種類不明																						
	オニコブシガイ科	コオニコブシ																						
	イトマキボラ科	ヒメイトマキボラ																						
		ナガイトマキボラ																						
		ツノマタモドキ																						
		種類不明																						
	ウミニナ科	イボウミニナ																						
	フデガイ科	ナガシマヤタテ																						
	タケノコガイ科	ゾウケタケ																						
	イモガイ科	アンボンクロザメ																						
		カバミナシ																						
		アカシマミナシ																						
		ミカドミナシ																						
		マダライモ																						
		種類不明																						
	フネガイ科	種類不明																						
	イガイ科	種類不明																						
	ウミギク科	種類不明																						
	ツキガイ科	ウラキツキガイ																						
	キクザル科	種類不明																						
	ザルガイ科	カワラガイ																						
		ザルガイ																						1
		リュウキュウザル																						
	シャコガイ科	ヒレシャコガイ																						
		ヒレナシシャコガイ																						
		ヒメシャコガイ																						
		シャゴウガイ																						
		シラナミガイ																						
		種類不明																						
	チドリマスオ科	イソハマグリ				5					1			1								7	3	
		ナミノコマスオ																						
	バカガイ科	種類不明																						
	マルスダレガイ科	リュウキュウアサリ																						
		ホソスジイナミガイ																						
		アラヌノメガイ																						
		ウスハマグリ																						
		ヌノメガイ																						
		オイノカガミ																						
		種類不明																						
	タマキガイ科	ソメワケグリ																						
	フジノハナガイ科	フジノハナガイ																						
		リュウキュウナミノコ																						
	イタボガキ科	種類不明																						
	マクガイ科	種類不明																						
不明	科不明	種類不明																						3
陸産	オナジマイマイ科	オキナワウスカワマイマイ						1																
		アカマイマイ																						
	キセルガイ科	ミヤコギセル																						
	ヤマタニシ科	ミヤコヤマタニシ																						

図版 21　　貝類遺体①(1 ～ 7：S=1/1、8：S=1/4)

1：オキナワヒシガイ、2：オオヒシガイ、3：リュウキュウザル、4：ナミノコマスオ、5 カノコアサリ、6：イソハマグリ、7：アラヌノメガイ、8：シャゴウ

図版 22　　貝類遺体②(1・3・5～8：S=1/2、2・4：S=1/1)

1：オオベッコウガサ、2：ハナマルユキ、3：ハチジョウダカラ、4：サラサダマ、5：サラサバテイ

6：ギンタカハマ、７チョウセンサザエ、７チョウセンサザエの蓋

図版 23　　貝類遺体③(1・2・4～6：S=2/5、3：S=1/4)

1：コオニコブシ、2：シラクモガイ、3 オオナルトボラ、4：チトセナガニシ、5：メオニノツノガイ、6：マガキガイ

図版 24　　貝類遺体④(S=1/1)

1：キバアマガイ、2：コシダカアマガイ、3：イシダタミアマオブネ、4：リュウキュウアマガイ、
5：ニシキアマオブネ、6：アマオブネガイ、7・8：リスガイ

第５章　保里遺跡出土の植物遺体分析報告

千田 寛之（株式会社 文化財サービス）

遺跡名：保里遺跡
所在地：宮古島市平良西仲宗根
調査機関：宮古島市教育委員会
調査担当者：久貝 弥嗣
遺跡の年代：14 世紀～ 16 世紀ごろ
分析機関：株式会社 文化財サービス
分析担当者：千田 寛之

１　バックグラウンド

保里遺跡は宮古島市平良西仲宗根に所在し、14 世紀前後に保里天太が築いた保里城跡を主体とする。遺跡周辺には 14 世紀代に築かれたとされる根間･外間城や、14 世紀～ 16 世紀の集落跡である住屋遺跡･尻川遺跡などが所在する。市場通り線（西仲宗根工区）の拡張工事に伴い平成 30 年 10 月～ 12 月にかけて発掘調査が実施され、廃棄土坑４基や掘立柱建物跡が検出されたほか、中国産陶磁器・沖縄産陶器などが出土している。調査担当者の久貝弥嗣によれば、出土した陶磁器の年代観から 15 世紀～ 16 世紀頃を主体とする集落遺跡と考えられるという。発掘調査では保里遺跡を形成した人々の食生活や生業活動を理解するため、廃棄土坑から土壌のサンプリングが実施された。サンプリングされた土壌は宮古島市教育委員会によってバケツ式フローテーション法を用いた選別が行われ、そこで回収された浮遊物の植物遺体分析を実施した。

２　分析方法

植物遺体の分析にあたっては双眼実体顕微鏡（Nikon SMZ745）を用いた試料の観察を行ない、適宜、現生標本や文献（中山ほか 2004、吉崎・椿坂 2001、小畑 2011）との比較検討を実施した。図１掲載の写真は双眼実体顕微鏡に顕微鏡撮影用デジタルカメラ（CU-2500LS ／ 500 万画素）を接眼し撮影を行っている。

写真１　分析作業の状況

３　検出された植物遺体

回収された浮遊物は土坑 1：74.05g、土坑 10:1.92g、土坑 12:5.26g の合計 81.23g であった。以下に同定された植物遺体について所見を述べる。なお、記載した種子のサイズはすべて mm で表記し縦×幅×厚さの順で記載している。

イネ　*Oryza sativa* L.

イネの種子（写真１）が完形 31 点・破片 44 点出土した。また、イネ小穂（写真２）が 16 点、イネ籾１点が確認されている。なお、種子の全体的なプロポーションからイネだと思われるが、被熱による破損のため断定できない種子をイネ？とし３点を分類した。写真１のサイズは 5.5 × 3.1 × 2、写真２は 2 × 1.3 である。

コムギ　*Triticom　aestivum* L.

コムギ（写真３）の種子が完形34点・破片５点検出された。写真３のサイズは2.8×2.7×2.5である。

オオムギ　*Hordeum vulgare* L.

オオムギ（写真４）の種子が完形 123 点・破片 21 点検出された。また、オオムギ穂軸（写真５）も 11 点確認されている。写真４のサイズは 5 × 3 × 2.4 で、写真５のサイズは 3.4 × 1.2 である。

ムギ類

被熱等による破損のため種子の残存状態が悪く、コムギ・オオムギの同定が困難なものをムギ類に分類した。計 127 点が出土している。

アワ　*Setaria italica* (L.) Beauv.

アワ（写真６）の穎果が完形 278 点・破片 90 点確認されている。また、有ふ果が土坑１から計 11 点出土している。このほか内外穎が計15点検出された。同定については全体的なサイズやプロポーション、胚の形状、アワ特有の「乳頭突起」細胞、長細胞の有無を根拠としている。また、全体的なプロポーションからアワと思われるが、その他の明確な特徴を欠く種子はアワ？として５点を分類した。写真６のサイズは 1.2 × 1.1 × 1 である。

キビ　*Panicum miliaceum* L.

キビ（写真７）の種子が完形・破片合わせて計 10 点出土した。同定に際しては全体的なサイズとプロポーション、種子表面の突起した波状の細胞組織の有無、胚の形状を根拠に同定した。写真７のサイズは 1.6 × 1.6 × 1.2 である。

ミレット

アワやキビもしくはその近縁種と思われるが、同定に至らなかった種子をミレットに分類した。計 9 点が出土している。

マメ科　Fabaceae

マメ科の種子が破片 28 点検出された。すべて破片のため種の同定に至らなかった。

ササゲ属　*Vigna*

ササゲ属（写真８）の種子が破片１点確認された。種子は子葉片で側面観は扁平な長楕円形状である。へそは正面のほぼ中央部に位置し、短楕円形を成す「厚膜タイプ」に分類できると考える。ササゲ属

ササゲ *Vigna unguiculata* (L.) Walp. のように思われるが、破片のため全形を確認できていないこともあり、ここではササゲ属に分類した。写真８のサイズは 4.4 × 1.5 × 2.6 である。

ブドウ属　*Vitis*

ブドウ属（写真９）の種子が完形１点検出された。種子は広卵形を呈しており腹面の正中線は明瞭な稜をなす。正中線の両側には長楕円形の凹みが存在する。写真９のサイズは2.6 × 2.3 × 2.1 である。

堅果類

堅果類（写真 10）の種子が完形１点出土した。種子は卵型を成し、表面には浅い縦溝が僅かに確認できた。プロポーションなどからシイ属のように思われるが、ここでは堅果類とした。写真 10 のサイズは 9.9 × 6.7 × 5 である。

同定不可能

保存状態が極めて悪い、または小破片のため種の同定に至らなかった計 1,355 点をこのカテゴリーに含めた。

５　まとめ

今回の分析結果について穀物（イネ・コムギ・オオムギ・ムギ類・アワ・キビ）の出土傾向を中心に遺構別の所見を述べる。

土坑１：計 1,759 点の植物遺体が確認され、そのうち穀物は 671 点である。穀物の出土割合はアワ 347 点（52%）、オオムギ 116 点（17%）、ムギ類 96 点（14%）、イネ 67 点（10%）、コムギ 35 点（５%）、キビ 10 点（１%）となっており半数以上がアワであった。穀物ではイネ小穂軸やオオムギ穂軸も確認されていることから、一部は穂の状態の種子も存在していた可能性がある。穀物以外では破片のため種の特定には至らなかったがマメ科が 24 点出土しているほか、ブドウ属１点及び堅果類２点も検出した。

土坑 10：計 95 点の植物遺体が確認され、そのうち穀物は 28 点であった。穀物の出土割合はイネ８点（29%）、オオムギ８点（29%）、アワ７点（25%）、ムギ類５点（18%）である。また、オオムギ

表１　保里遺跡出土の植物遺体集計表

LF No.	地区	遺構	層序	サンプル量（ℓ）	浮遊物量（g）	イネ		イネ小穂軸	イネ籾	イネ？	コムギ		オオムギ		オオムギ穂軸	ムギ類	アワ（頴果）		アワ（有ふ果）	アワ内外頴	キビ	アワ？	ミレット	マメ科	ササゲ属	ブドウ属	堅果類	不明種子	同定不可能	合計
						粒	片	片	片	片	粒	片	粒	片	片	片	粒	片	粒	片	粒／片	粒／片	粒	片	片	粒	粒	粒/片	片	粒/片
1	西	土坑1(東側)	覆土	5	29.33	26	23	7		3	9	3	40	4	2	35	128	55	10	7	8		4	2		1	1	1	520	889
2	西	土坑1(東側)	覆土	7.5	12.48	4	13	6	1		8	1	19	8	2	30	58	7	1	2		1	3	2					170	336
3	西	土坑1(東側)	覆土	4.5	10.99		1				4		27	5	5	15	34	7		2	1	1	1	2					116	221
4	西	土坑1(東側)	覆土	1.5	3.37								4			4	6	2						5					33	54
5	西	土坑1(東側)	覆土	5.5	17.88			1			9	1	8	1		12	30	9		1	1	2		13			1		170	259
小 計 ①				24	74.05	30	37	14	1	3	30	5	98	18	9	96	256	80	11	12	10	4	8	24	0	1	2	1	1009	1759
6	西	土坑10(南側)	覆土	1	0.11		1																						2	3
7	西	土坑10(北側)	覆土	3	0.35								1			1				1		1							14	18
9	西	土坑10	覆土	8	1.46	1	6	1					6	1	2	4	4	3					1		1				44	74
小 計 ②				12	1.92	1	7	1	0	0	0	0	7	1	2	5	4	3	0	1	0	1	1	0	1	0	0	0	60	95
8	西	土坑12	覆土	9	5.26			1			4		18	2		26	18	7		2				4					286	368
小 計 ③				9	5.26	0	0	1	0	0	4	0	18	2	0	26	18	7	0	2	0	0	0	4	0	0	0	0	286	368
合　計(①+②+③)				45	81.23	31	44	16	1	3	34	5	123	21	11	127	278	90	11	15	10	5	9	28	1	1	2	1	1355	2222

の穂軸も２点検出しており、土坑１同様に一部は穂の状態で存在していたのかもしれない。穀物以外ではササゲ属が１点確認された。

土坑 12：計 366 点の植物遺体が確認されており、そのうち穀物は 75 点であった。穀物の出土割合はムギ類 26 点（35%）、アワ 25 点（33%）、オオムギ 20 点（27%）、コムギ４点（５%）である。穀物以外ではマメ科の破片が４点出土している。なお、土坑 12 は今回分析を行った３基のなかで最も植物遺体の残存状態が悪かった。

総括：分析を行った土坑１・土坑 10・土坑 12 のすべてで穀物の植物遺体を確認することができた。同定された種子の大半が穀物で、その出土傾向を見ると全体的にアワとオオムギを主体としている。廃棄土坑という遺構の性格を考慮すると、今回の分析結果は保里遺跡で生活した人々の食生活をある程度反映していると考えられる。すなわち、アワとオオムギを食生活の中心としていた可能性がある。宮古島ではこれまでの植物遺体分析結果から、13 世紀～ 17 世紀頃はムギ類（特にオオムギ）を主体とする穀物利用だった可能性が指摘されている（千田 2015）。今回行った保里遺跡の分析結果もこれと同じ傾向を示している点は興味深い。

図版１　保里遺跡出土の植物遺体

【参考文献】

小畑 弘己 2011「マメ科種子同定法」『東北アジア古民族植物学と縄文農耕』同成社 pp.79-107.

千田 寛之 2015「宮古島のグスク時代農耕試論」『平成 27 年沖縄考古学会宮古島大会資料集』沖縄考古学会、pp.52-59.

千田 寛之 2019「住屋遺跡及び根間・西里遺跡出土の植物遺体分析報告」『松原部落内遺物散布地　住屋遺跡、根間・西里遺跡（植物遺体分析）』宮古島市教育委員会（編）、pp.31-37.

椿坂 恭代 1993「アワ・キビ・ヒエの同定」『吉崎昌一先生還暦記念論集　先史学と関連科学』吉崎昌一先生還暦記念論集刊行会（編），pp.261-281.

中山 至大・井之口 希秀・南谷 忠志 2004「日本植物種子図鑑 改訂版」東北大学出版会

第６章　保里遺跡放射性炭素年代測定

パリノ・サーヴェイ株式会社

１　試料

分析用試料は、LF No.1 の炭化種実 2 点である。種類はオオムギとイネである。一部欠損しているが保存状態は比較的良い。

２　分析方法

植今回の試料は、一部欠損した炭化種実（オオムギとイネ）で、共に 5mg 以下である。測定には 1mg のグラファイトが必要であるため、前処理を行うと試料が損耗し、測定に必要な炭素を得られない可能性がある。このため、表面の汚れを除去し、前処理を終了させた（酸・アルカリ・酸処理は行っていない）。

試料の燃焼、二酸化炭素の精製、グラファイト化（鉄を触媒とし水素で還元する）は Elementar 社の vario ISOTOPE cube と Ionplus 社の Age3 を連結した自動化装置を用いる。処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を NEC 社製のハンドプレス機を用いて内径 1mm の孔にプレスし、測定試料とする。

測定はタンデム加速器をベースとした ^{14}C-AMS 専用装置（NEC 社製）を用いて、^{14}C の計数、^{13}C 濃度（^{13}C/^{12}C）、14C 濃度（^{14}C/^{12}C）を測定する。AMS 測定時に、米国国立標準局（NIST）から提供される標準試料（HOX- Ⅱ）、国際原子力機関から提供される標準試料（IAEA-C6 等）、バックグラウンド試料（IAEA-C1）の測定も行う。δ ^{13}C は試料炭素の ^{13}C 濃度（^{13}C/^{12}C）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表したものである。放射性炭素の半減期は LIBBY の半減期 5568 年を使用する。また、測定年代は 1950 年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma;68%）に相当する年代である。測定年代の表示方法は、国際学会での勧告に従う（Stuiver & Polach 1977）。また、暦年較正用に一桁目まで表した値も記す。暦年較正に用いるソフトウエアは、Oxcal4.3(Bronk,2009)、較正曲線は Intcal13（Reimer et al.,2013）である。

３　結果および考察

結果を表 1、図 1 に示す。同位体補正を行った測定値は、オオムギが 340 ± 20BP、イネが 365 ± 20BP である。

暦年較正は、大気中の 14C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の 14C 濃度の変動、その後訂正された半減期（14C の半減期 5730 ± 40 年）を較正することによって、暦年代に近づける手法である。較正用データーセットは、Intcal13（Reimer et al.,2013）を用いる。2 σの値は、オオムギが calAD1471 ～ 1635、イネが calAD1452 ～ 1631 で年代値が近似する。今回は分析試料が少なかったため、酸・アルカリ・酸処理を行っていないが、試料が新しく、14C 濃度が高いので、前処理を簡略化したことによる影響は少ないと思われる。また、較正年代の幅が広いのは、14 世紀末～ 17 世紀初めの較正曲線が大きく波打っており、年代を絞り込めないのが原因である（このため、図 1 では山が 2 ～ 3 箇所に分散している）。調査所見によれば保里遺跡の主体は 15 世紀から 16 世紀とれされることから今回の結果は調和的である。

表1. 放射性炭素年代測定結果

試料	性状	方法	補正年代 (暦年較正用) BP	$\delta^{13}C$ (‰)	暦年較正年代				Code No.	
						年代値		確率%		
LF No.1	炭化種実 (オオムギ)	無処理	340±20 (342±20)	-24.51 ±0.44	σ	cal AD 1491 - cal AD 1524	460 - 427 calBP	24.5	YU- 9650	pal- 12128
						cal AD 1559 - cal AD 1603	392 - 348 calBP	29.1		
						cal AD 1611 - cal AD 1631	340 - 320 calBP	14.5		
					2σ	cal AD 1471 - cal AD 1531	480 - 420 calBP	35.4		
						cal AD 1539 - cal AD 1635	412 - 315 calBP	60.0		
LF No.1	炭化種実 (イネ)	無処理	365±20 (366±20)	-30.48 ±0.42	σ	cal AD 1466 - cal AD 1516	485 - 434 calBP	47.1	YU- 9651	pal- 12129
						cal AD 1596 - cal AD 1618	354 - 333 calBP	21.1		
					2σ	cal AD 1452 - cal AD 1524	498 - 427 calBP	58.9		
						cal AD 1571 - cal AD 1631	379 - 320 calBP	36.5		

1)年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用。
2)BP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。
3)付記した誤差は、測定誤差σ（測定値の68.2%が入る範囲）を年代値に換算した値。
4)暦年の計算には、Oxcal v4.3.2を使用
5)暦年の計算には1桁目まで示した年代値を使用。
6)較正データーセットは、Intcal13を使用。
7)較正曲線や較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1桁目を丸めていない。
8)統計的に真の値が入る確率は、σが68.2%、2σが95.4%である

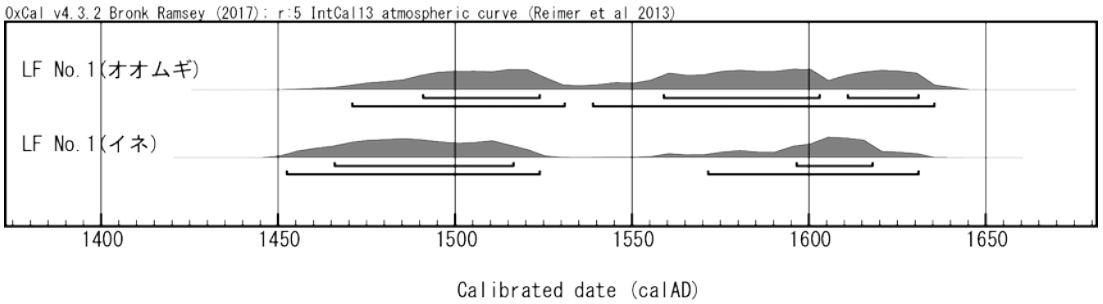


図1.　暦年較正結果

【引用文献】

引用文献

Bronk RC., 2009, Bayesian analysis of radiocarbon dates. Radiocarbon,51,337-360.

Reimer PJ., Bard E., Bayliss A., Beck JW., Blackwell PG., Bronk RC., Buck CE., Cheng H., Edwards RL., Friedrich M., Grootes PM., Guilderson TP., Haflidason H., Hajdas I., Hatté C., Heaton TJ., Hoffmann DL., Hogg AG., Hughen KA., Kaiser KF., Kromer B., Manning SW., Niu M., Reimer RW., Richards DA., Scott EM., Southon JR., Staff RA., Turney CSM., van der Plicht J., 2013, IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves 0-50,000 years cal BP. Radiocarbon, 55, 1869-1887.

Stuiver M., & Polach AH., 1977, Radiocarbon 1977 Discussion Reporting of 14C Data. Radiocarbon, 19, 355-363.

第７章　まとめ

今回発掘調査を行った調査地は、保里遺跡の南端に位置する。調査は、道路をはさんで西地区と東地区の２つの調査区にわけて実施したが、いちずれの地区においても後世の攪乱の影響を大きく受けており、西地区においては、基礎跡が調査地一帯にひろがっていた。それでも、Ⅱ層の下の地山（Ⅲ）層では、多くのピットや土坑などが検出され、遺構内からの出土遺物によりグスク時代と近世琉球期の異なる時期の遺構が確認された。

グスク時代の遺構として特筆すべきは、長辺 7.1m、短辺 3.2m の楕円形の平面形態をした深さ 0.6m の大型の土坑（土坑 1）である。この土坑 1 の中からは中国産陶磁器や土器が多量に出土するとともに、食料残滓とみられる貝類遺体や動物遺体、植物遺体なども多く検出されている。中国産陶磁器の組成から土坑 1 は、概ね 15 世紀中頃から 16 世紀前半の年代観でとらえられる。出土遺物としては土器が最も多く、壺形が主体をなすが、鉢形、浅鉢形も一定量出土しており、碗形の土器の出土もみられる。食料残滓としての貝類遺体は、一定の範囲に密集して検出されており、チョウセンサザエが非常に大きな割合を占めているが、部分的にイソハマグリがまとまっている状況も確認される。植物遺体では、アワが主体をなすが、オオムギの割合も高く、イネ、コムギ、キビ、マメが検出されている。これらの土坑 1 から出土した植物遺体の放射性炭素年代測定値は、オオムギが 340 ± 20yBP(calAD1471-AD1635〔2 σ〕)、イネが 365 ± 20yBP(calAD1452-AD1631〔2 σ〕）とほぼ同値を示し、中国産陶磁器の年代観とも整合性を有している。このような土坑 1 の遺物の出土状況は、外間遺跡の土坑 1a-1 や土坑 3b-1・2・4 らと類似していることから、廃棄土坑としての機能が推察される。廃棄土坑は、平成 30 年度に発掘調査の行われた根間・西里遺跡からも検出されていることから、15 世紀中頃から 16 世紀にかけての市街地遺跡一帯における特徴的な遺構であることが推察される。

ピット群については、明確な建物プランを確認できなかった。しかし、ピットの出土状況としては、西地区に比して東地区での検出が密であり、切り合いも多くみられた。密度の高いピットの検出状況は、住屋遺跡でも確認されており、プランの検出にはいたらなかったものの、集落遺跡の一つの様相を示すものと考えられる。

西地区の土坑 2 からは、土製焜炉の出土が確認された。土製焜炉の出土は宮古島市内では初めてである。復元可能な出土資料は 1 点のみであるが、胎土や混入物の類似する破片資料も複数出土していることから、複数個体の土製焜炉の出土が推察される。土坑 2 から、沖縄産施釉陶器が共伴しており、明確な年代を明らかにすることはできないが、近世琉球期の資料と考えられる。

今回の発掘調査では、14 世紀代の遺物は、ビロースクⅡ類が僅かに出土するのみで、15 世紀中頃以降に集落が形成されたものと推察される。伝承に残る保里城跡や保里天太らは、概ね 14 世紀代に位置づけられると想定されるが、これらの時代の遺構や遺物とは異なる様相を示していることになる。これらは、調査地が遺跡の南端に位置し、保里城跡の範囲外にあり、同地では、15 世紀中頃以降に居住域が拡大もしくは移動していった可能性を示しているといえる。15 世紀中頃以降は、遺物の出土量が増加する傾向にもあり、これに比例して人の生活域も拡大していったものと推察され、住屋遺跡や根間・西里遺跡、尻並遺跡らとともに市街地一帯における集落の広がりとその様相を考えていくうえで重要な調査成果がえられたものと考える。

報　告　書　抄　録

ふりがな	ほさといせき
書名	保里遺跡
副書名	街路事業市場通り線（西仲宗根工区）埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	－
シリーズ名	宮古島市文化財調査報告書
シリーズ番号	第22集
編著者名	久貝弥嗣、千田寛之(株式会社文化財サービス)、パリノ・サーヴェイ株式
編集機関	宮古島市教育委員会
所在地	〒906－0103　沖縄県宮古島市城辺字福里600－1番地
発行年月日	2019年7月

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	発掘面積	調査原因
収録遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	°　′　″	°　′　″		㎡	
保里遺跡	沖縄県宮古島市平良字東仲宗根323、323-1～、392、393			24°　48′　16″	125°　16′　45″	2018年8月21日～2019年7月31日	400	記録保存調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
保里遺跡	集落	グスク時代	廃棄土坑 ピット群	青磁、白磁、青花、 中国産褐釉陶器、土器 貝類遺体、動物遺体 植物遺体	本遺跡からは、非常に大型の廃棄土坑が確認されている。出土遺物から15世中頃から16世紀頃に位置づけられる。このような大型土坑は、隣接する外間遺跡においても確認されており、15世紀中頃から16世紀にかけての宮古島の市街地における特徴的な遺構として捉えることができる。

宮古島市文化財調査報告書第 22 集

保里遺跡

－街路事業市場通り線（西仲宗根工区）埋蔵文化財発掘調査報告書－

発　行　年：　令和元（2019）年 7 月
発行・編集：　宮古島市教育委員会
〒 906-0103　沖縄県宮古島市城辺字福里 600-1
TEL：0980-77-4947　FAX：0980-77-4957
印　　刷：　シモジ印刷